



明治廿九年十二月改正

軍事學教科書 第一編

軍書 靜陵堂藏版

凡例

一本書ハ新兵ノ習得ニ適セシムル爲メ編纂シタルヲ以テ
固ヨリ文飾ヲ主トセス專ラ其實務ニ適合シ其事實ト背
馳セザラフヲ務メ且言文一致体トナシタル如キ皆以
テ初學者ノ便ニ資セント欲シタルニ因ル

一本書中隊ノ編成、配備、定員等ニ關スル項ハ不日變動ナキ
ヲ保セス故ニ號著文ハ暫ラク省略セリ然レモ他日讀者
ニ於テ記大ノ便ヲ計リ各其餘地ヲ存セリ

一本書中上官ノ官姓名等ハ各其隊ニヨリテ差異アルヲ以
テ單ニ官職尊號ノミヲ掲載セリ故ニ位記、勳等、姓名、ハ適
宜記入セラレンコトヲ

明治廿九年十一月

著者識

軍事學教科書目次

卷之一

軍制之部

一 勅諭講義	一 頁
一 讀法講義	二十一頁
一 所屬隊、號、全上官ノ官姓名	二十五頁
一 所屬外上官ノ官姓名	三十八頁
一 各都督、師團長、旅團長ノ官姓名	四十二頁
一 兵役	四十八頁
一 部隊ノ識別	四十九頁
一 讀法	五十三頁
一 勅諭	五十四頁
一 常備團隊、配備及編成	五十五頁

一 中隊定員	五十七頁
一 軍人ノ種別及階級	五十八頁
一 陸軍服制	六十一頁
一 勳章ノ種類	六十八頁
一 叙勳	七十一頁
一 尊稱及稱呼	七十三頁
一 物品裝置及手入法	七十四頁
一 起居ノ定則	七十五頁
一 服從ノ定則	八十一頁
一 檢査ノ定則	八十三頁
一 私物	八十三頁
一 請願	八十三頁

一 使役ノ定則	八十四頁
一 外出ノ定則	八十七頁
一 休暇	八十八頁
一 陸軍懲罰令	九十頁
一 營倉ノ定則	九十一頁
一 陸軍刑法	九十五頁
一 赤十字條約	九十六頁
一 服裝	九十八頁
一 陸軍禮式	百一頁

卷之二 (近刊)

一 射擊教範

射擊學

距離測量

獨立戰鬥射擊

部隊戰鬥射擊

試驗射擊

檢閱射擊

射擊徽章

標的ノ種類

照尺ノ裝法

照準點撰擇法

一 步兵操典

各個散兵教練

散開及密集隊次

諸兵ニ對スル動作

戰鬥間兵卒ノ動作

一 野外要務令

行軍

前哨

斥候

傳令使

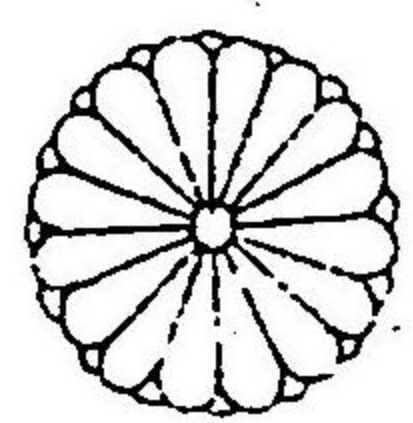
宿營

彈藥補充

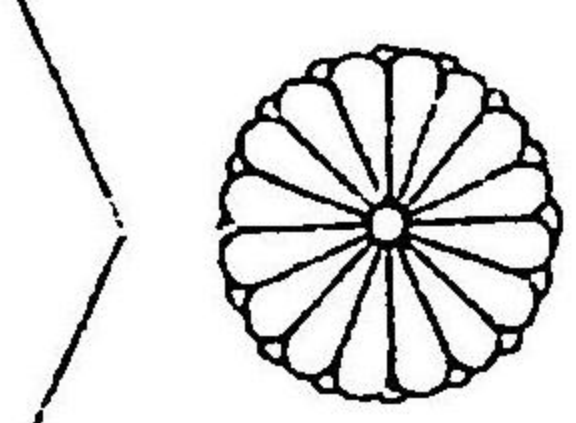
給養
徵候
一步兵工作教範
一衛戍服務規則
衛兵ノ敬禮
風紀衛兵

皇國之章旗

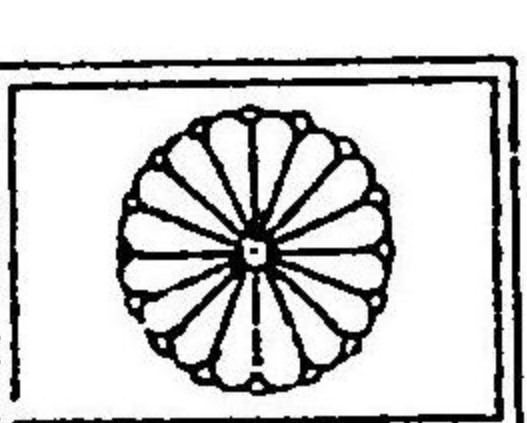
天皇旗



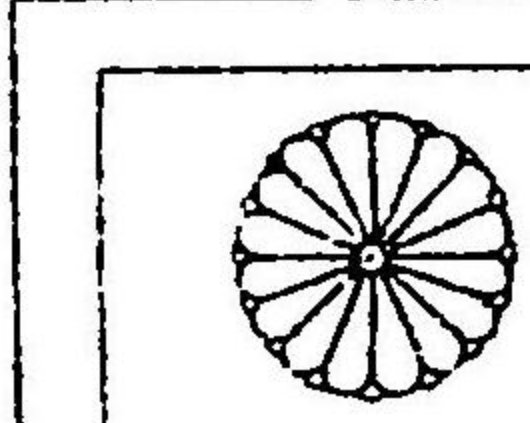
皇后旗



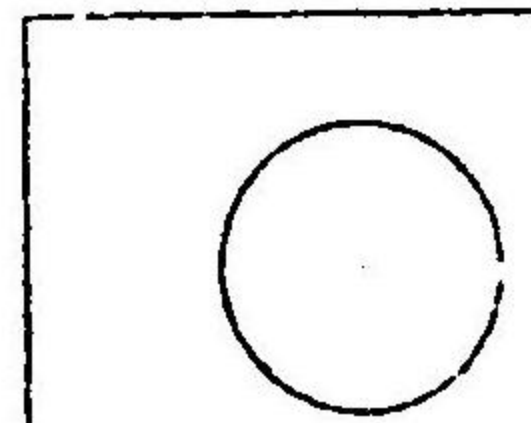
皇太子旗



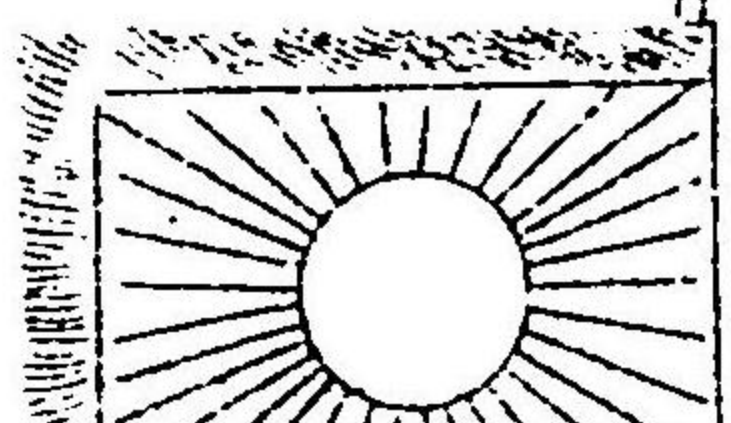
親王旗



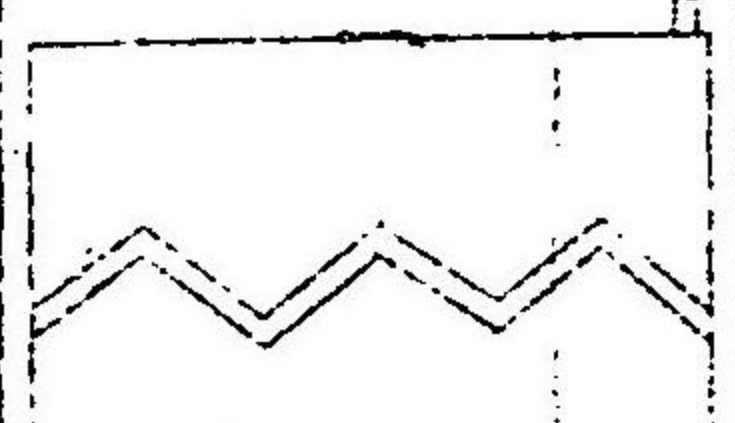
國旗



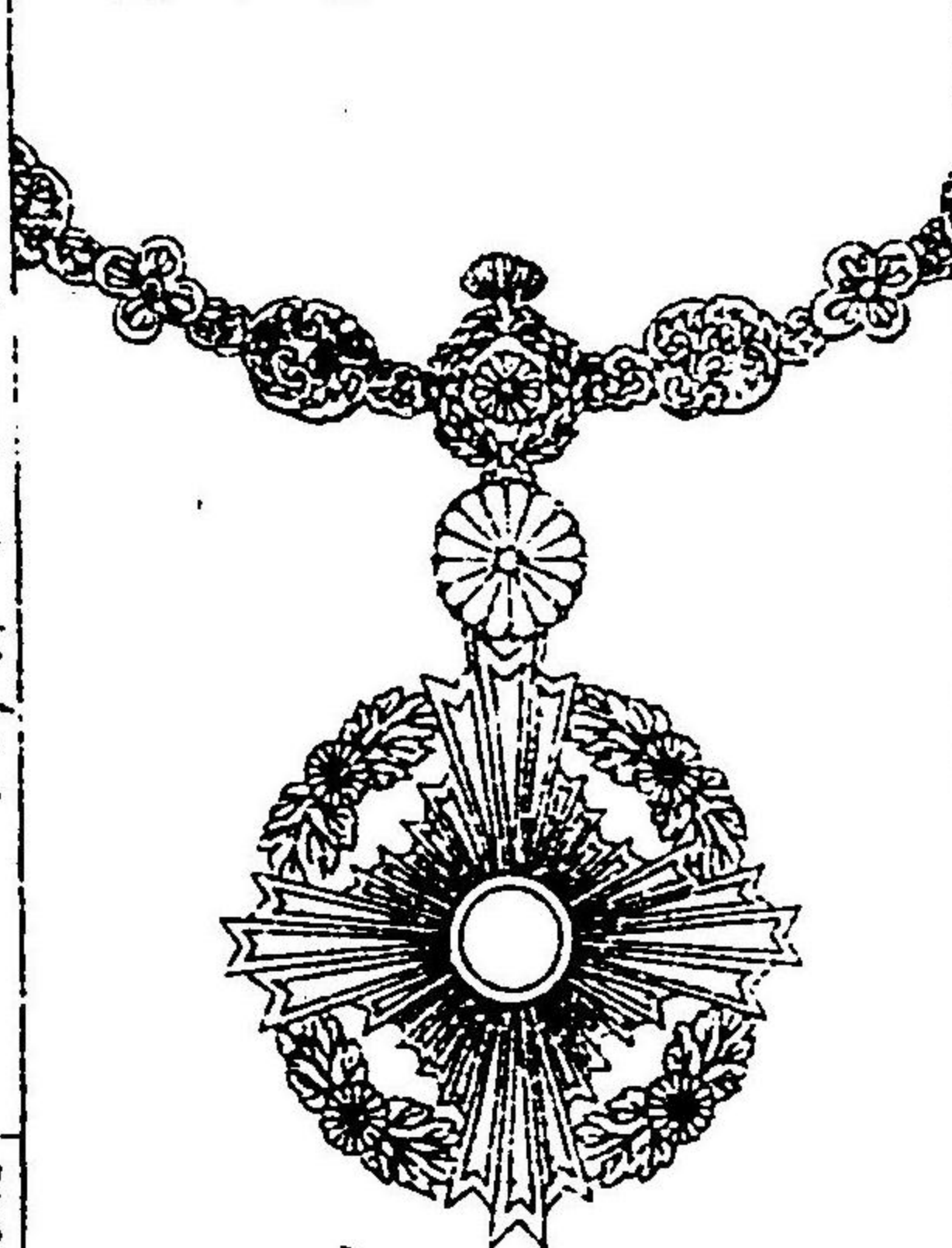
軍旗



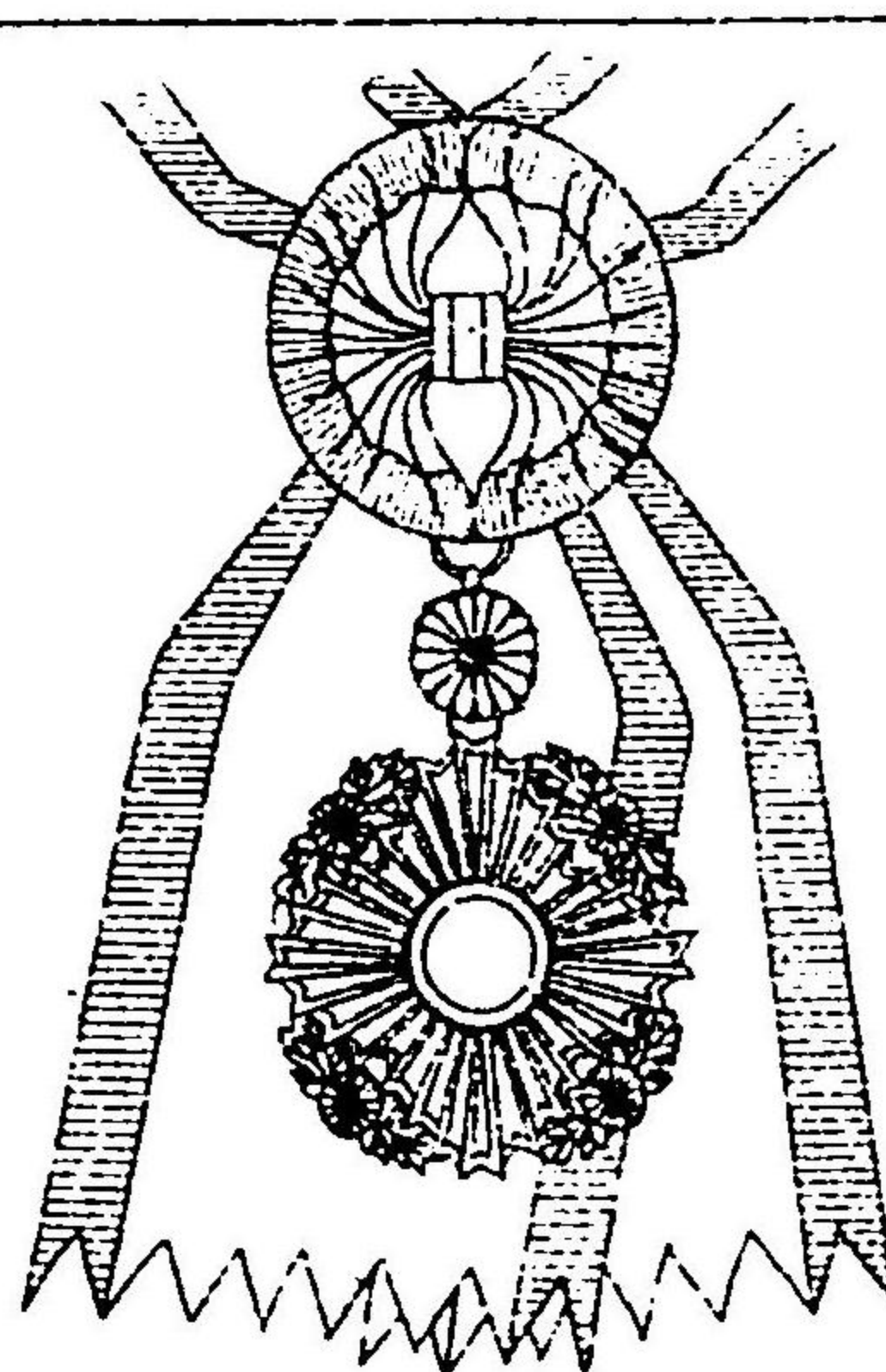
常備第一大隊旗



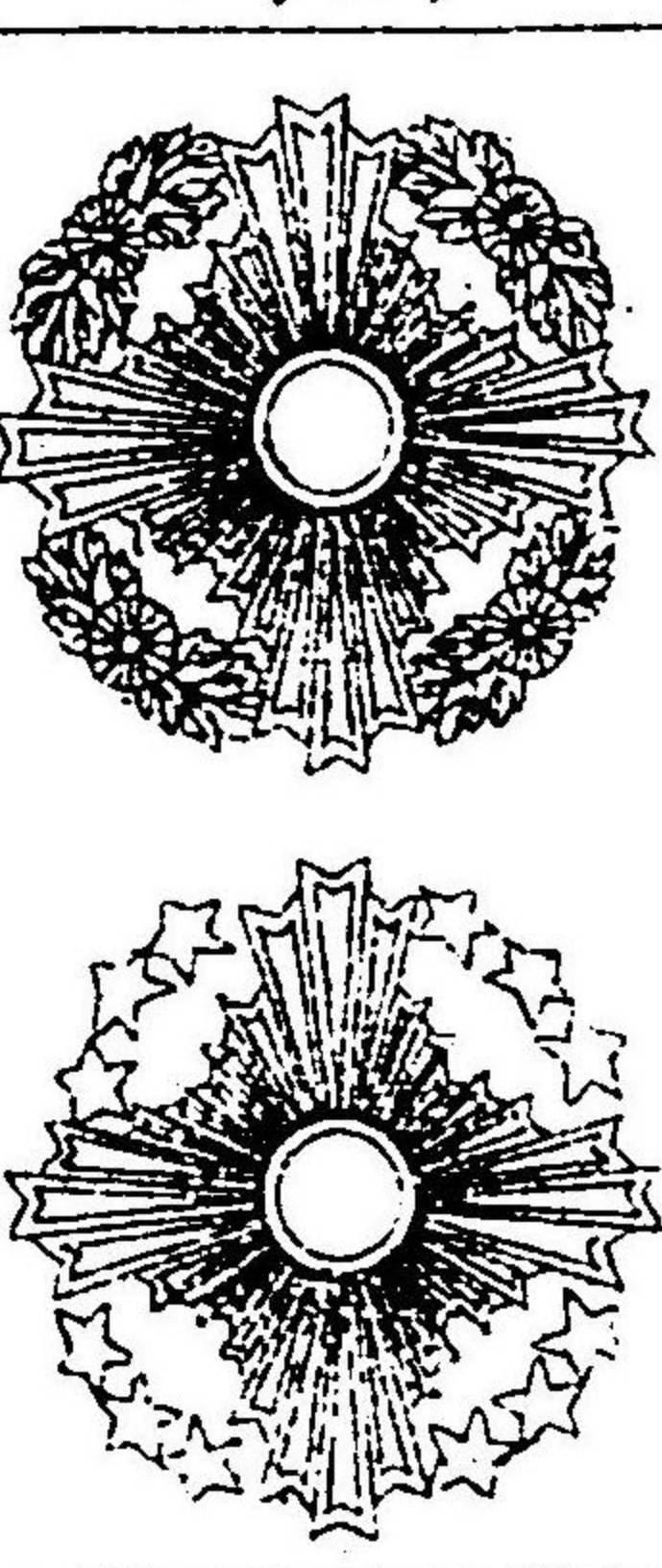
大勳位菊花頸飾



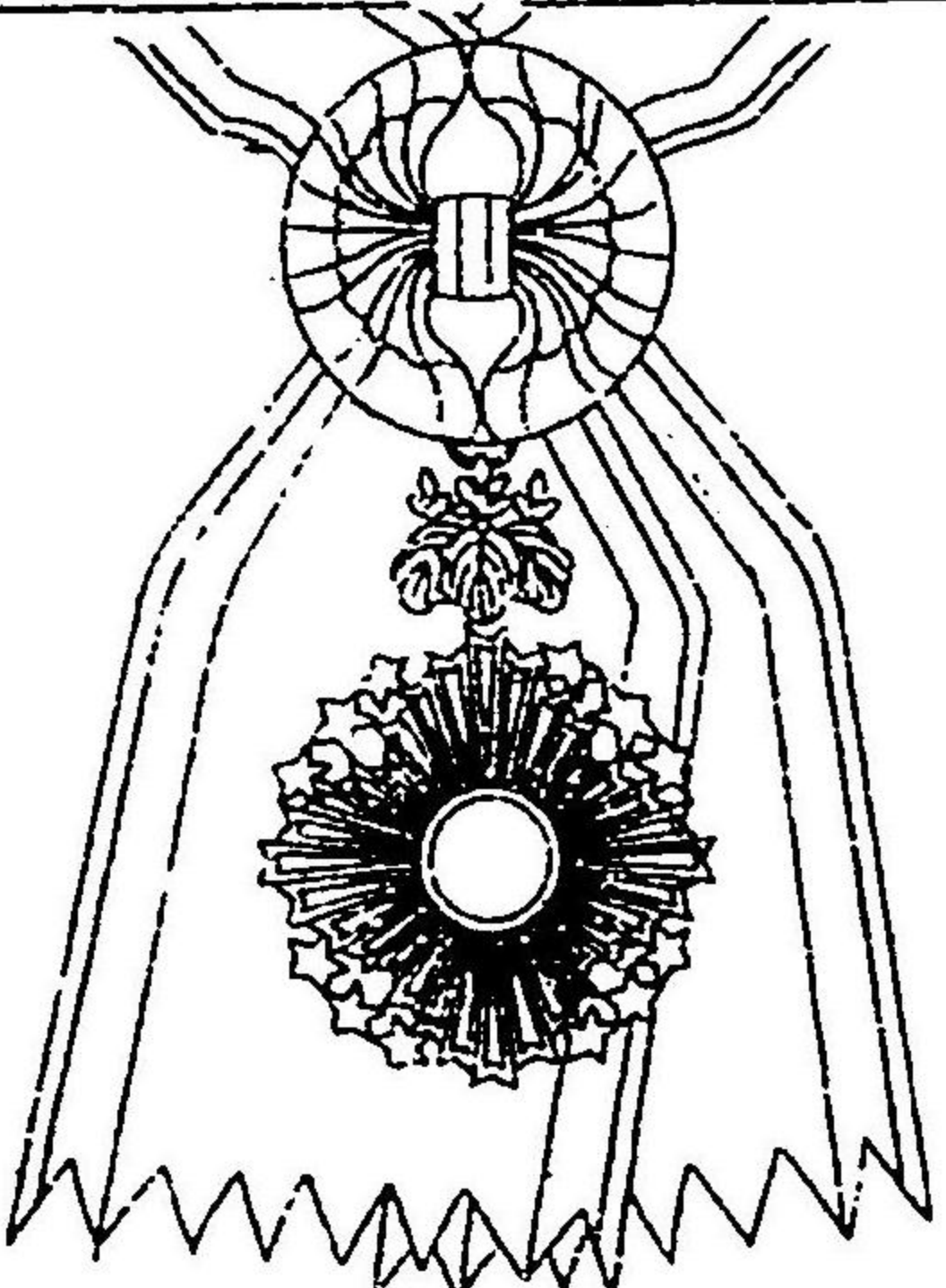
大勳位菊花大綬章



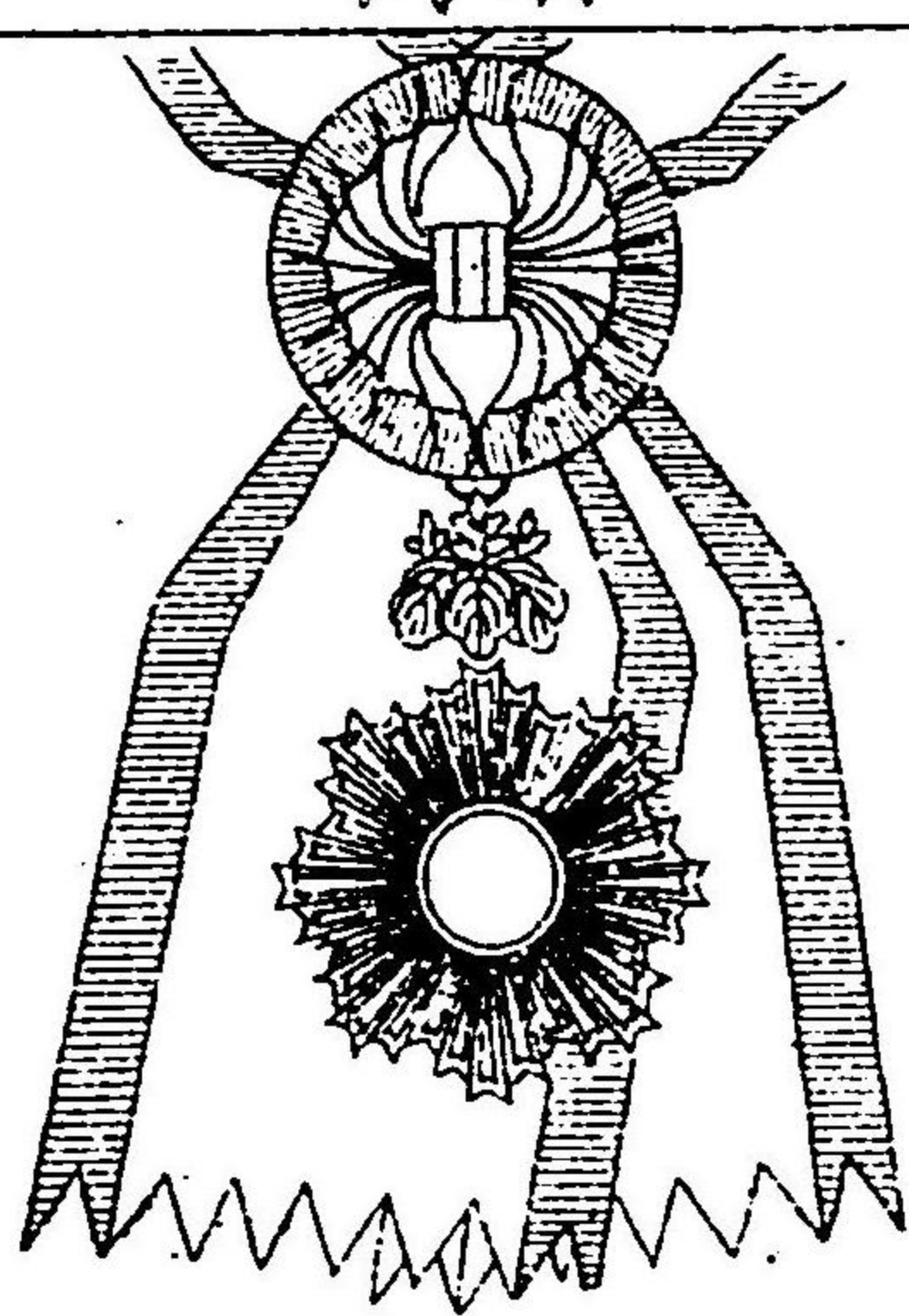
大勳位菊花章 勳等旭日桐花副章



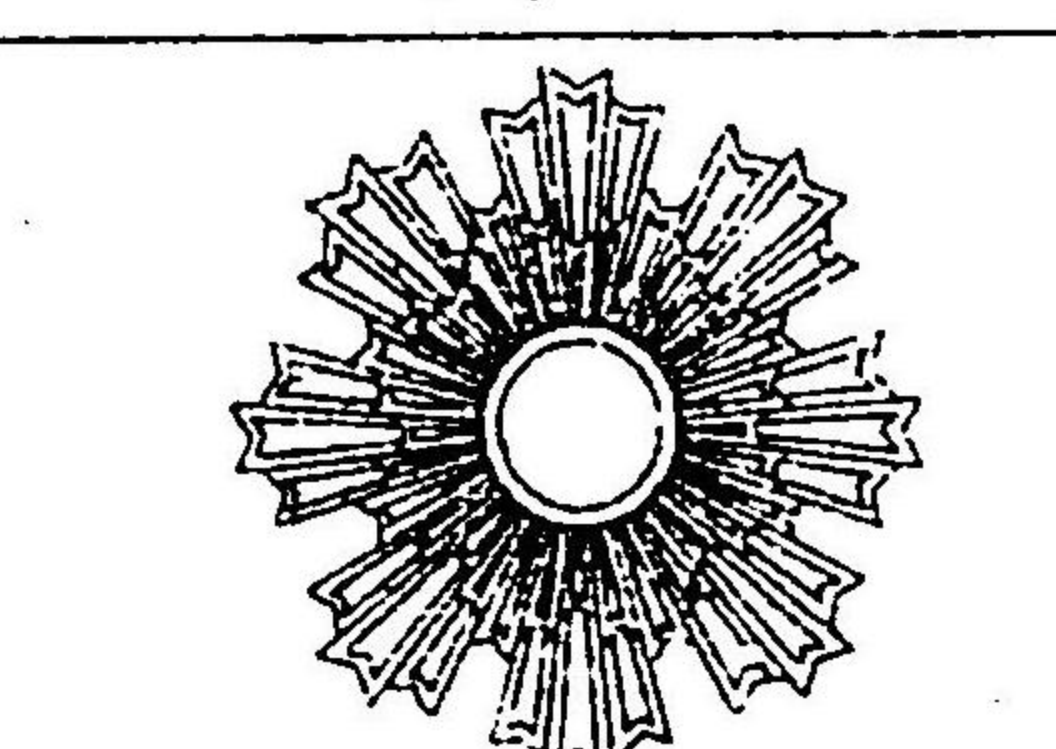
勳等旭日桐花大綬章



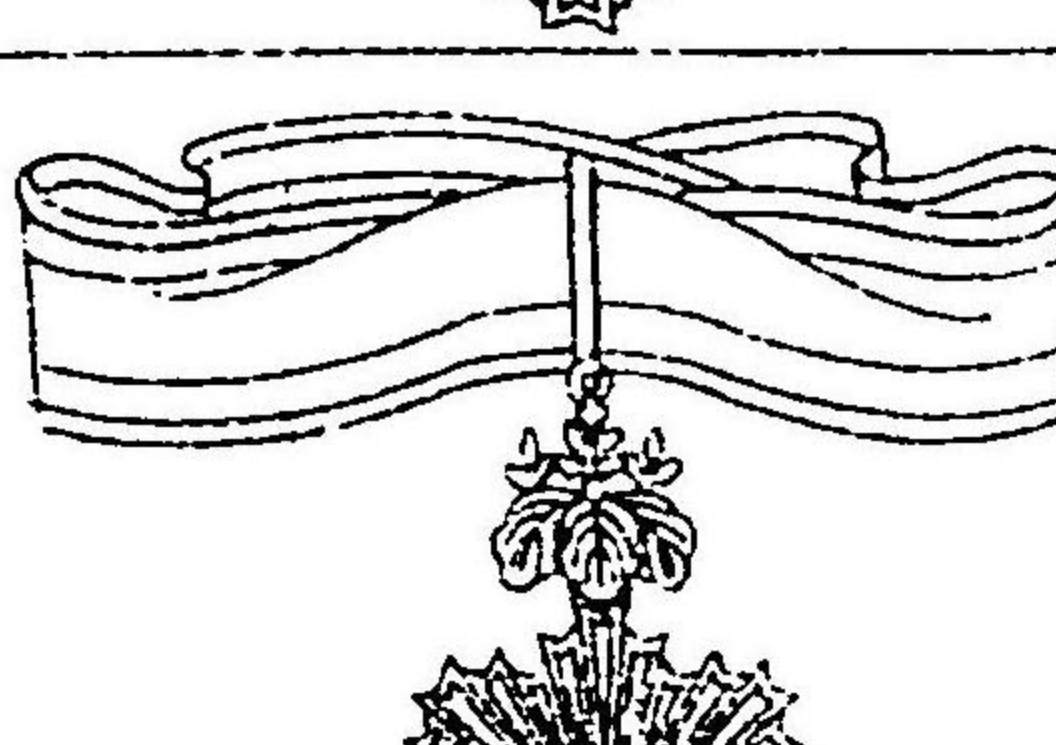
勳等旭日大綬章



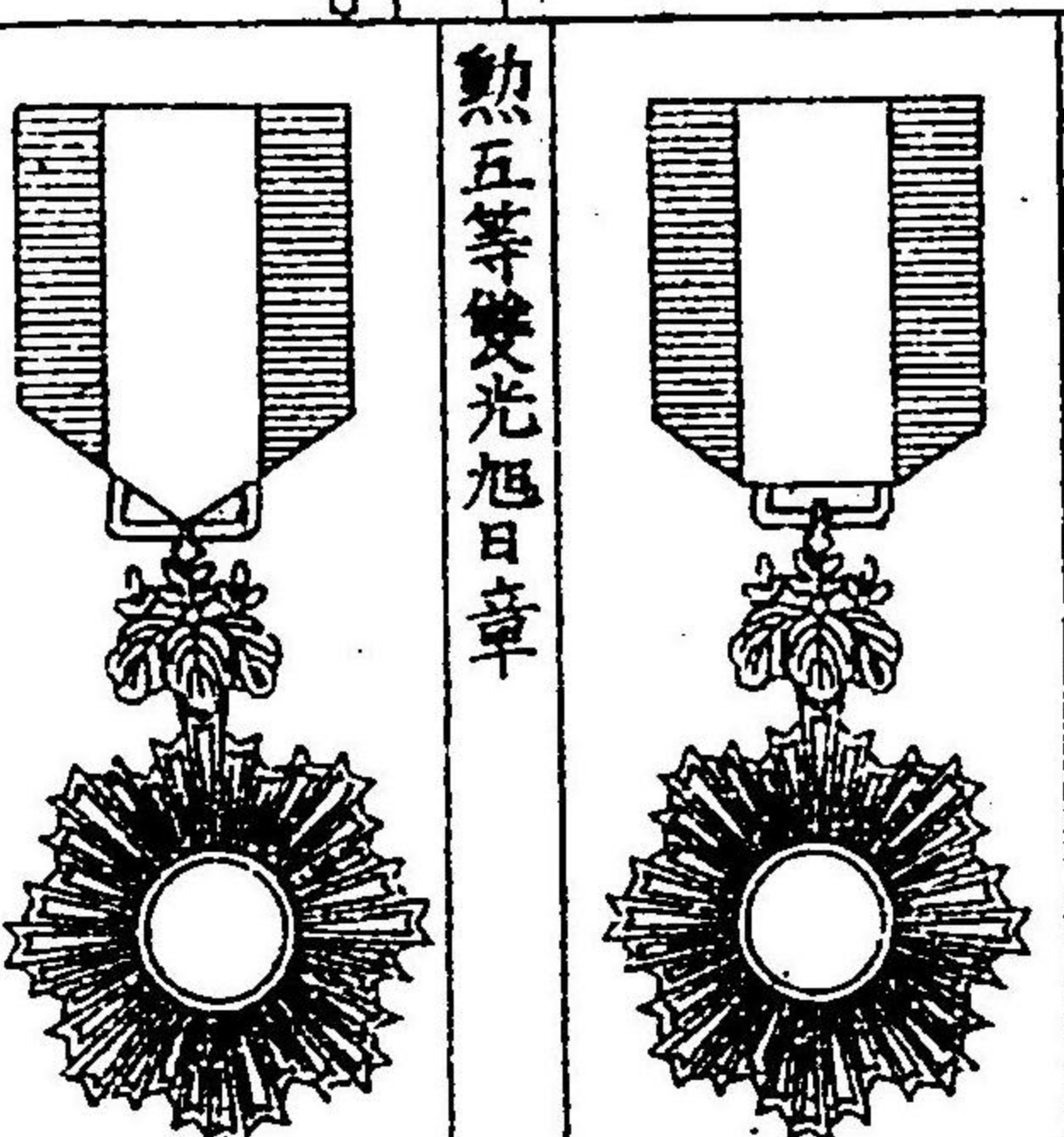
勳等旭日重光章



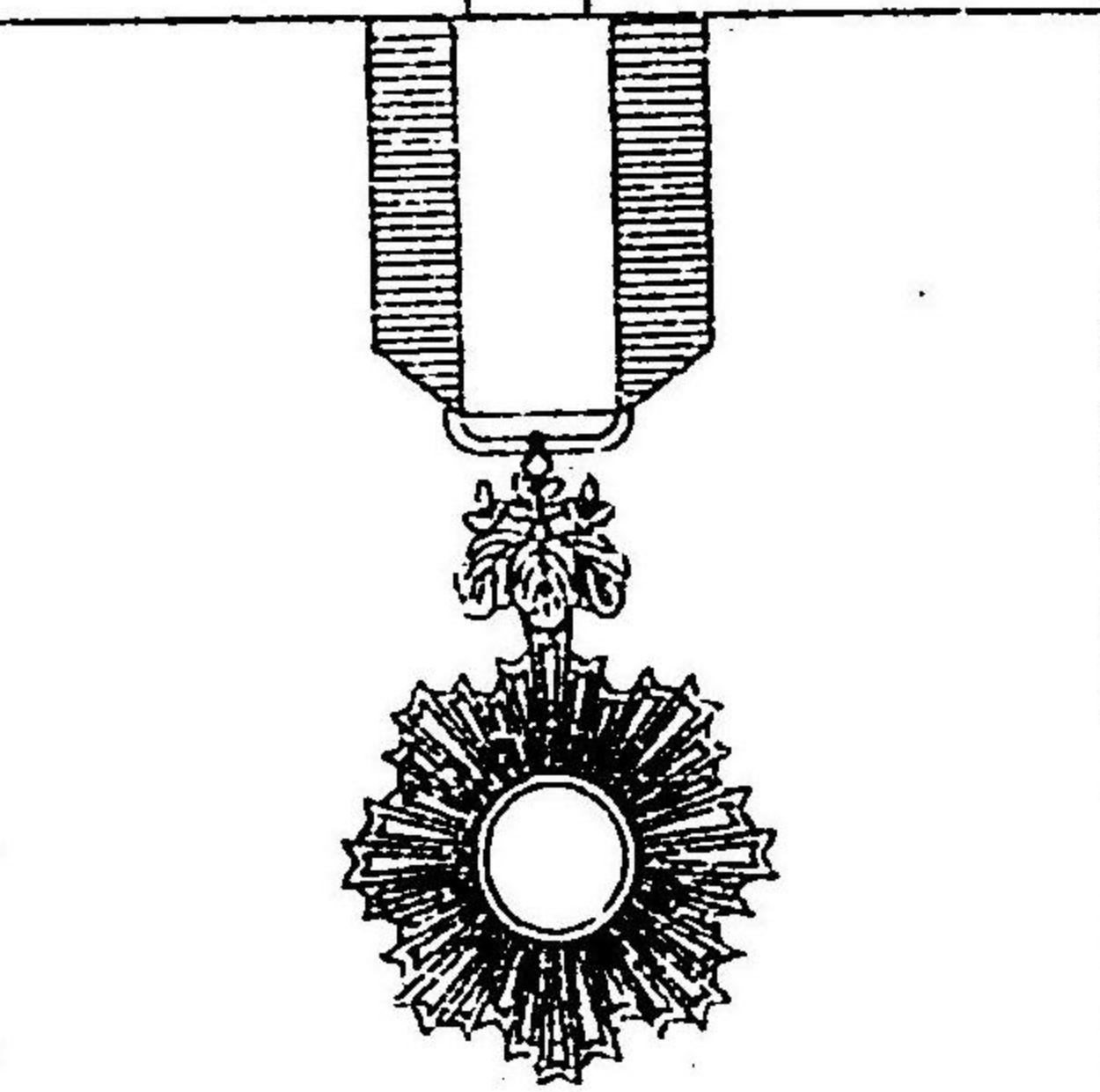
勳等旭日中綬章



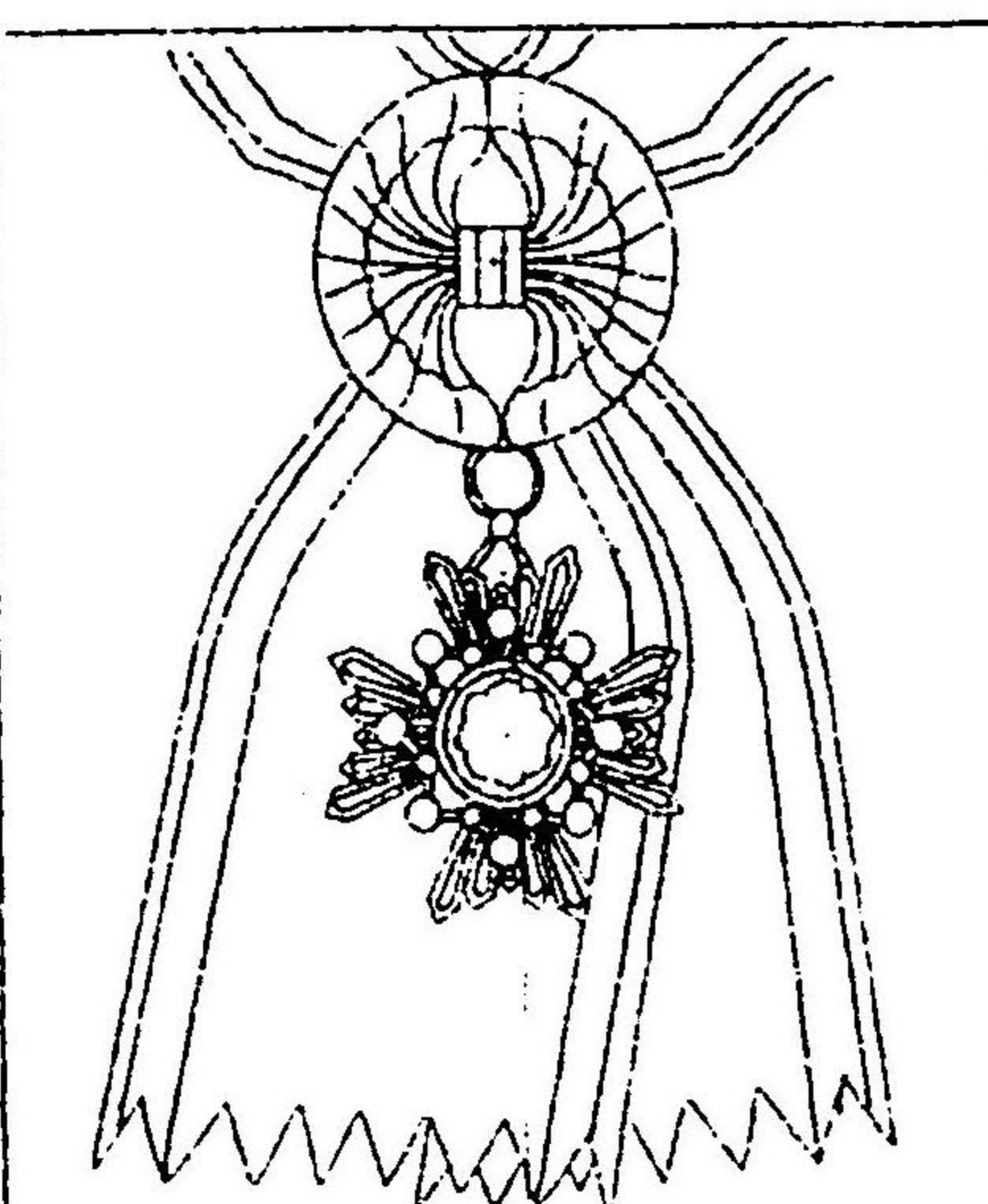
勳四等旭日小綬章



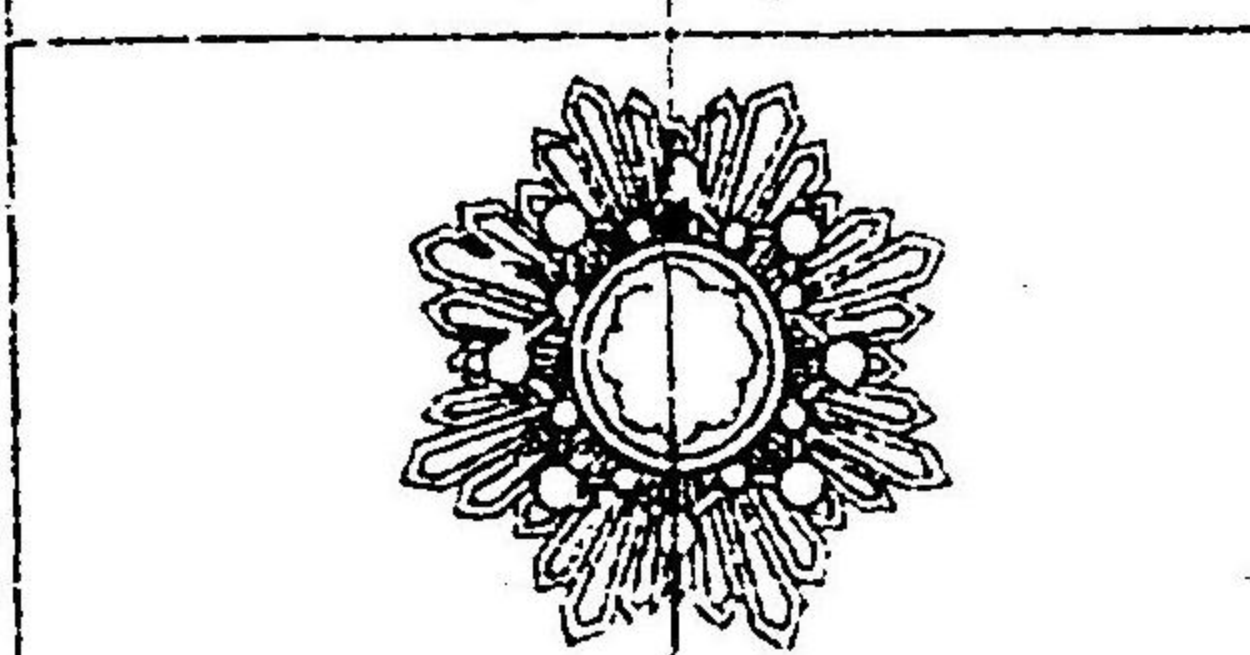
勳等單光旭日章



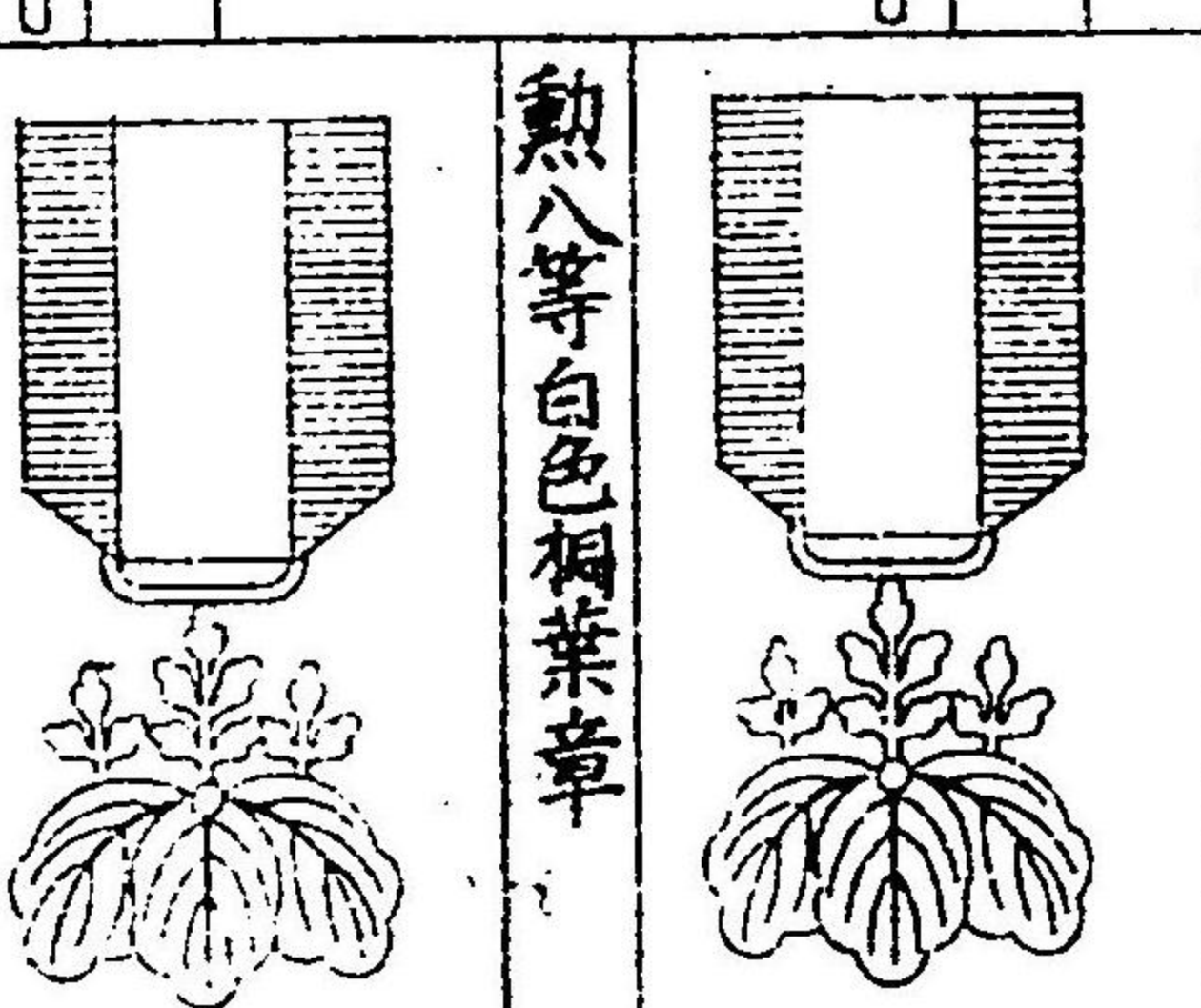
勳等瑞寶章



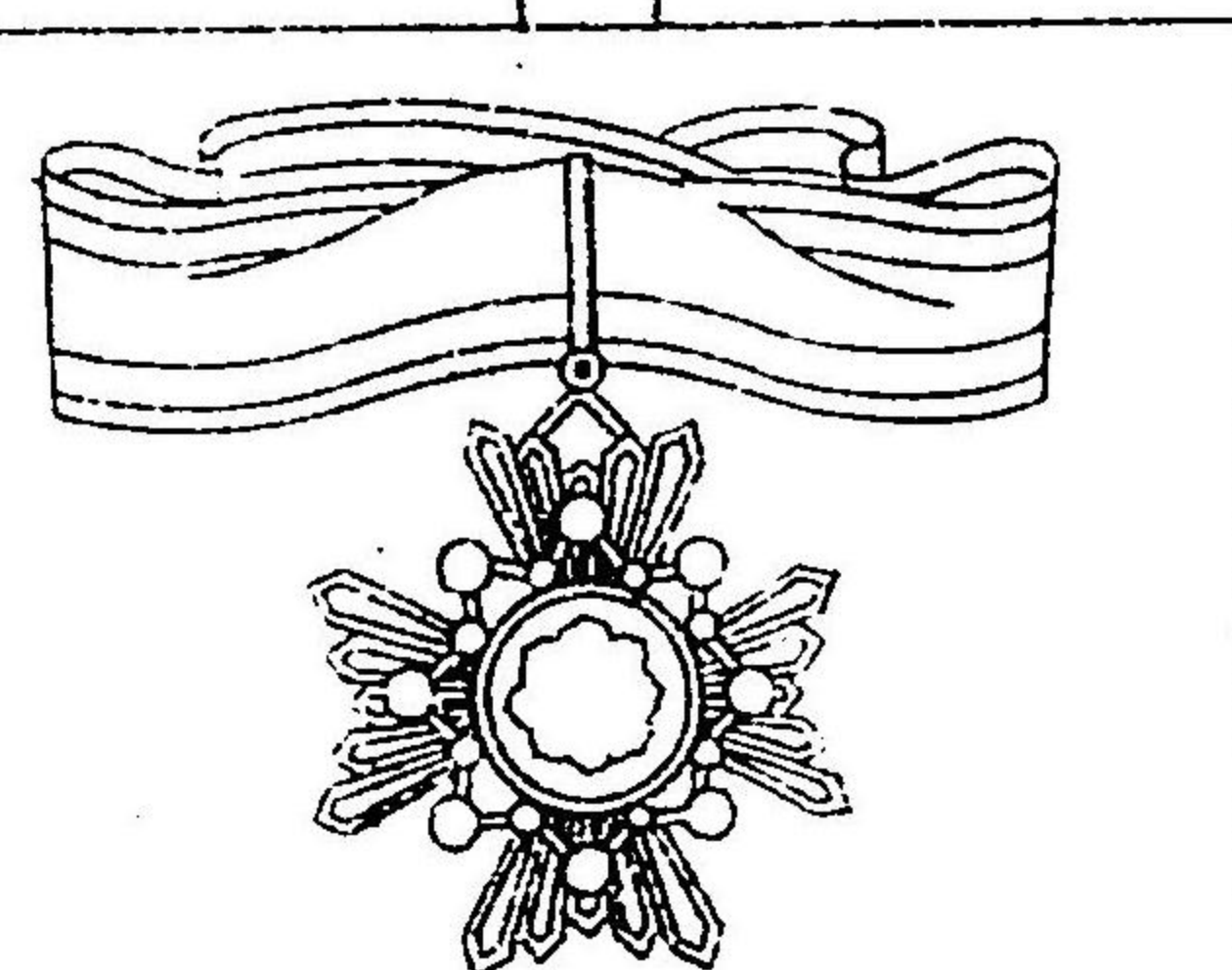
勳等瑞寶副章



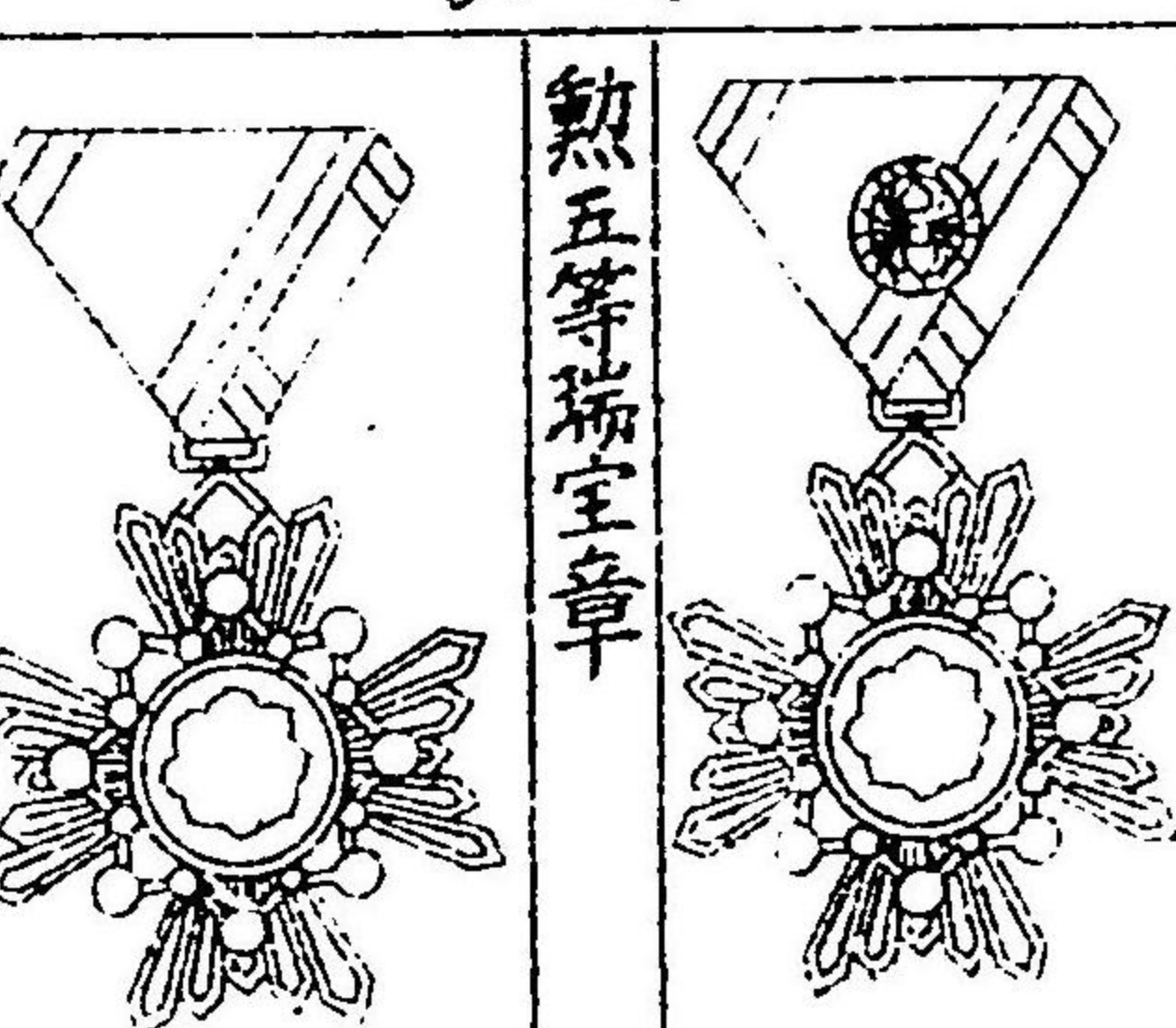
勳七等青色桐葉章



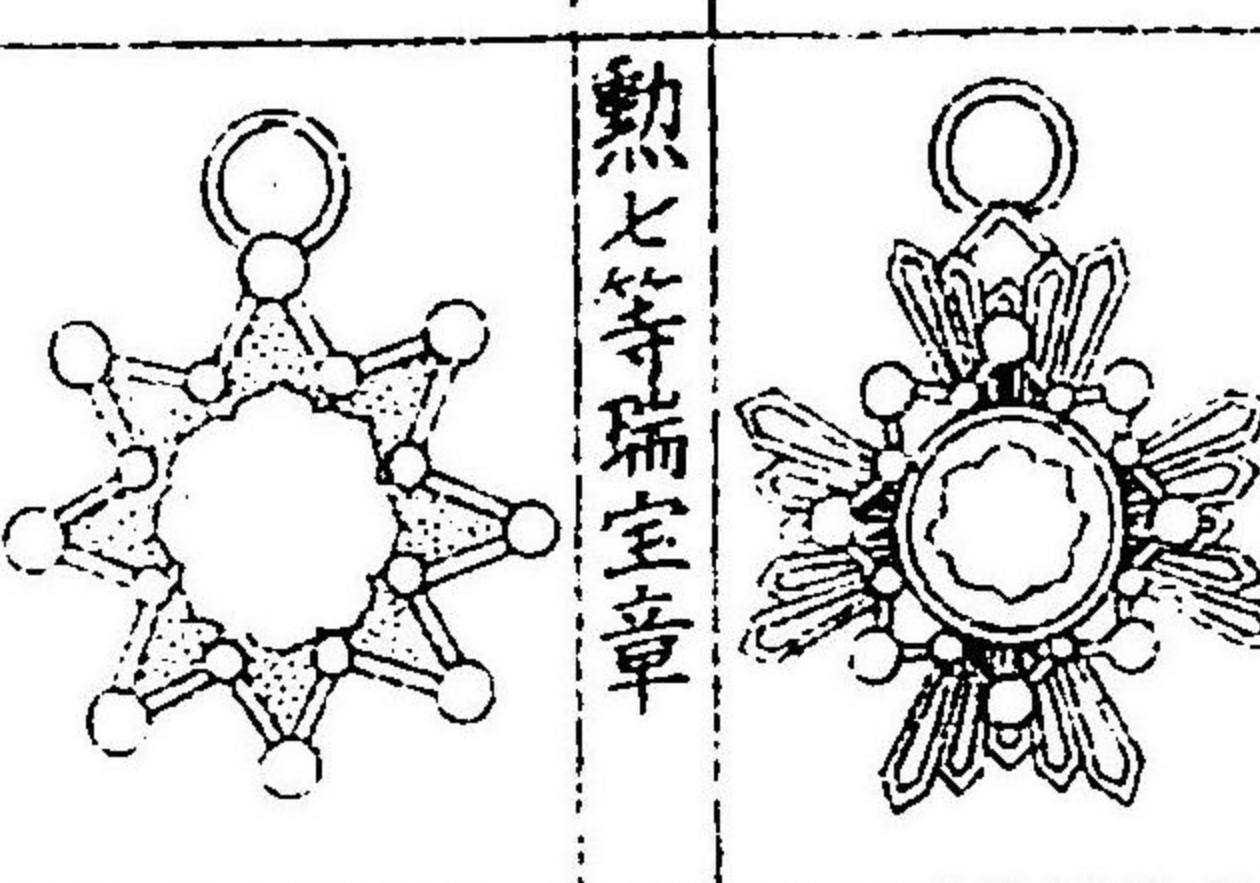
勳三等瑞寶章



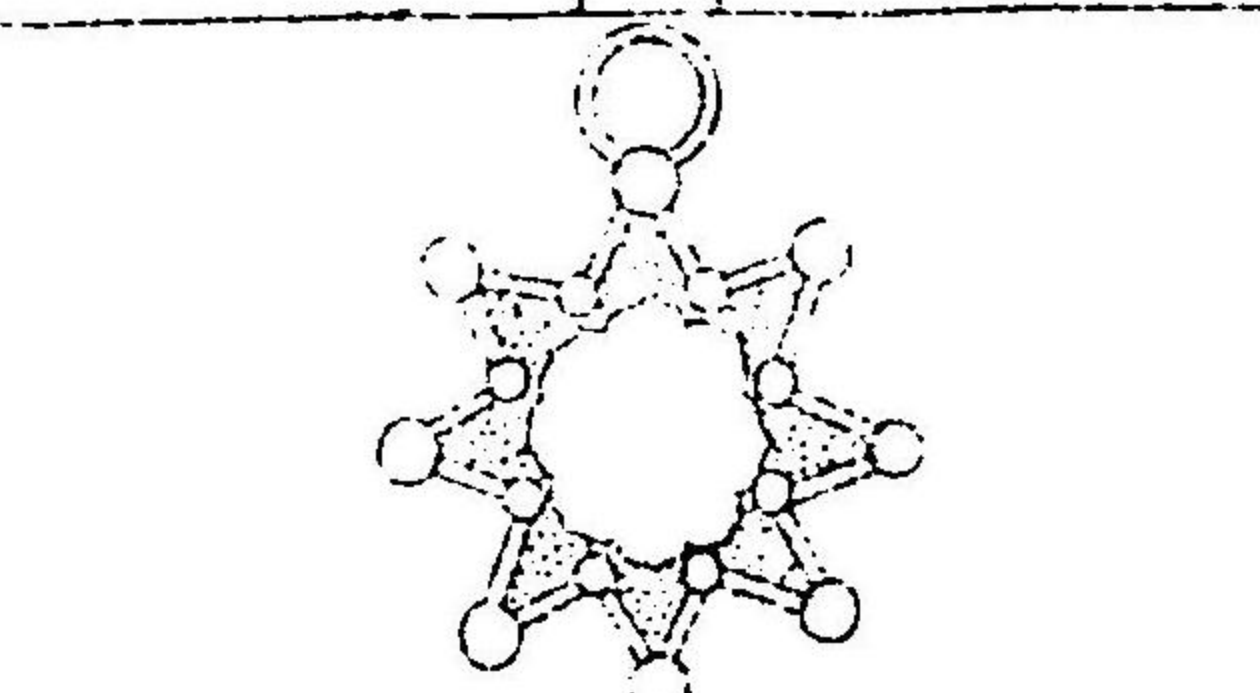
勳四等瑞寶章



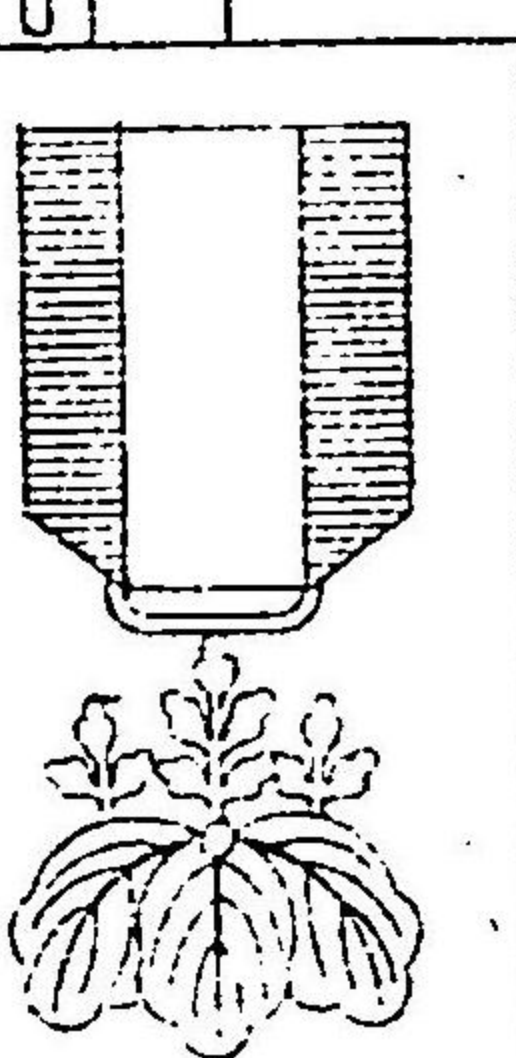
勳六等瑞寶章



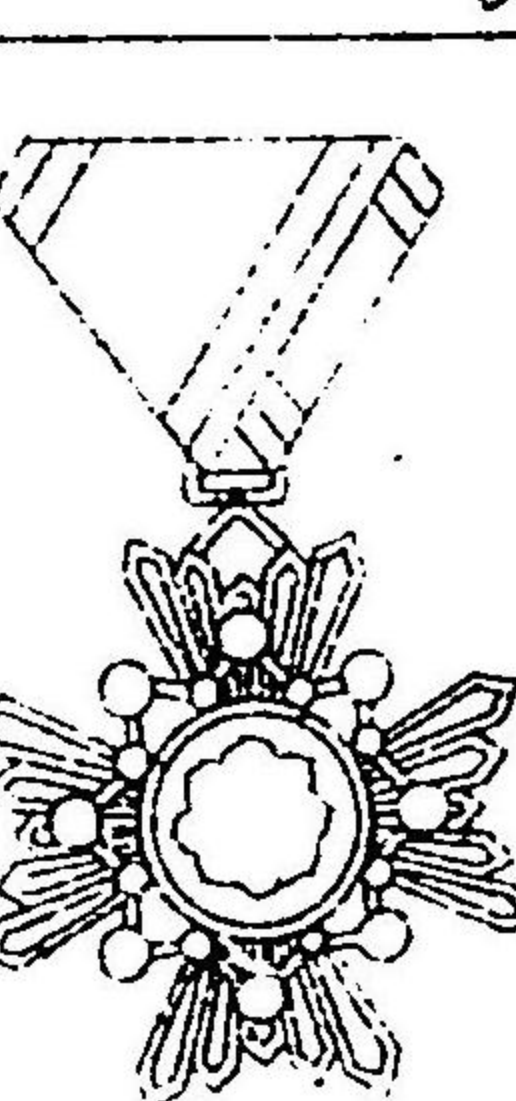
勳八等瑞寶章



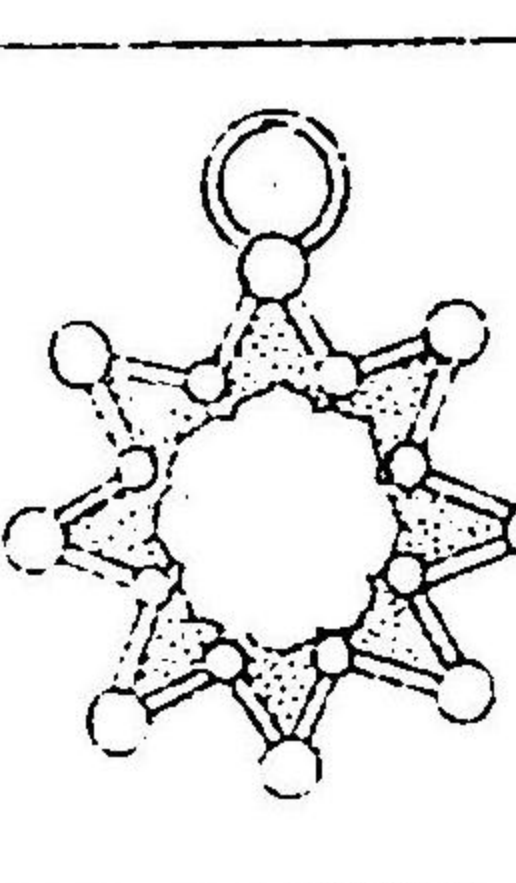
勳八等白色桐葉章



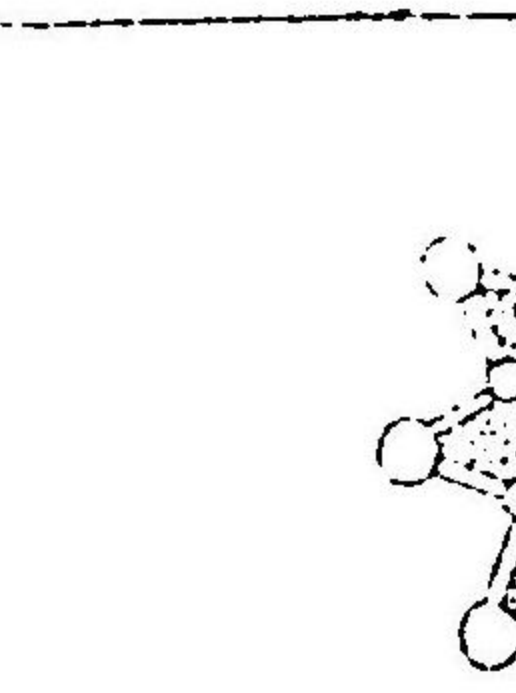
勳五等瑞寶章



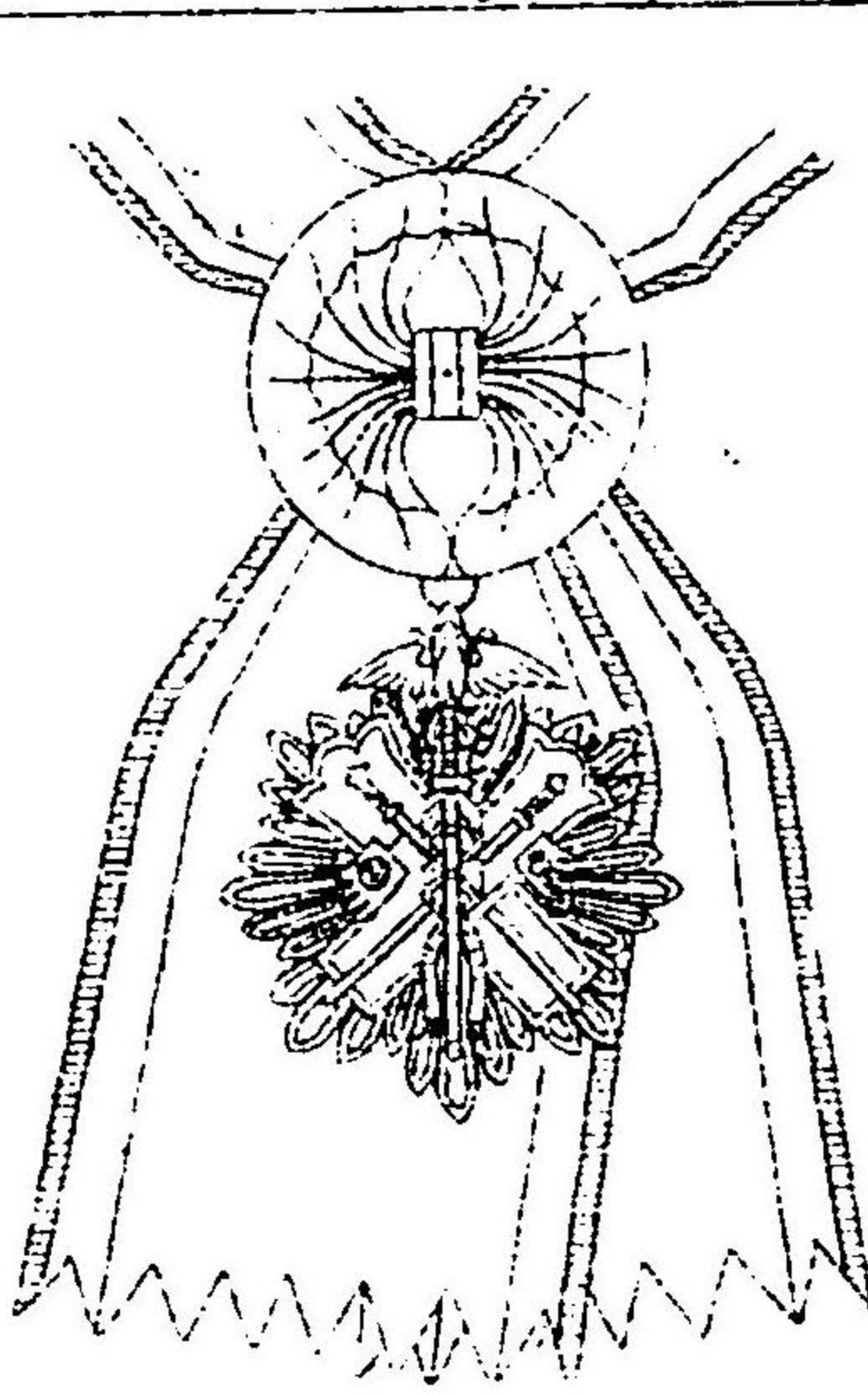
勳七等瑞寶章



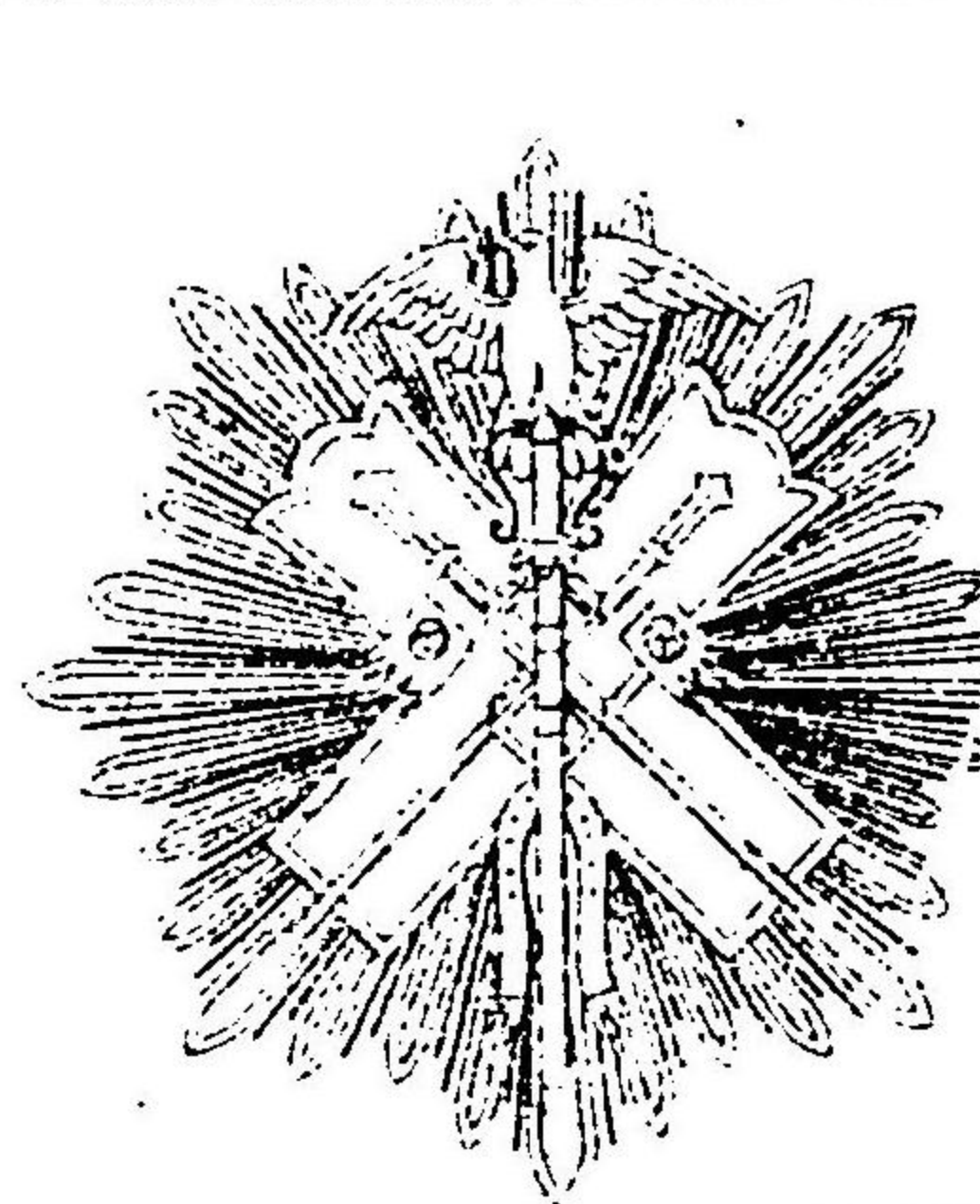
勳九等瑞寶章



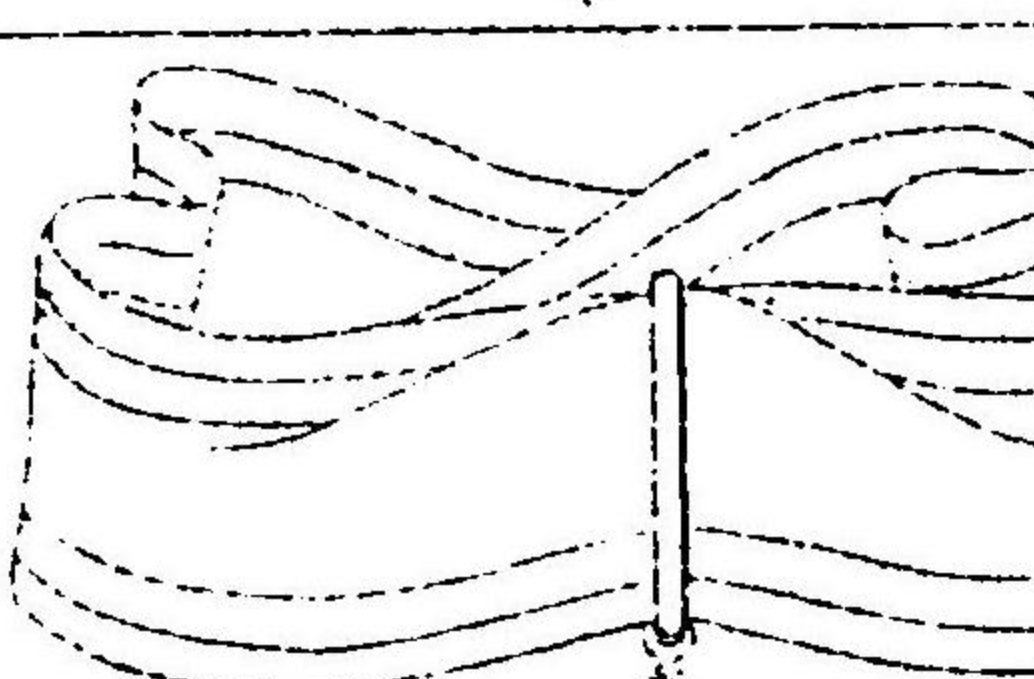
功一級金鷄章



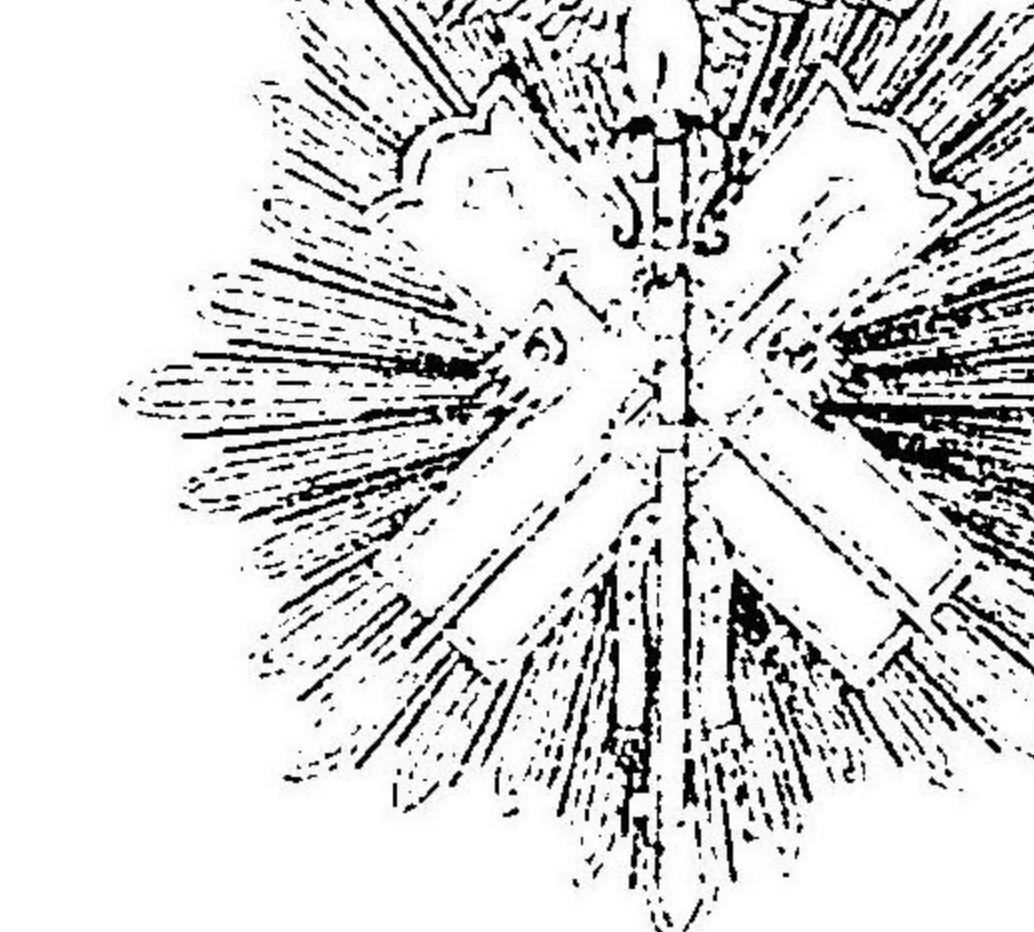
功二級金鷄章



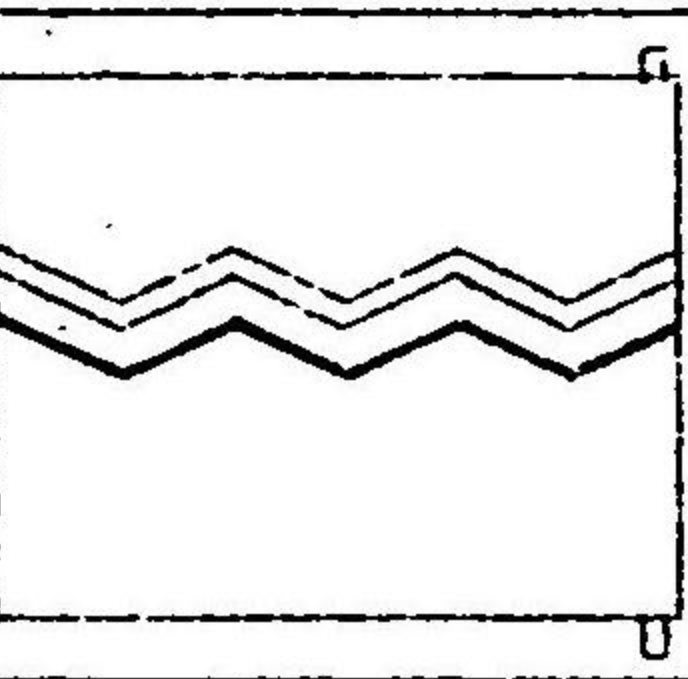
功三級金鷄副章



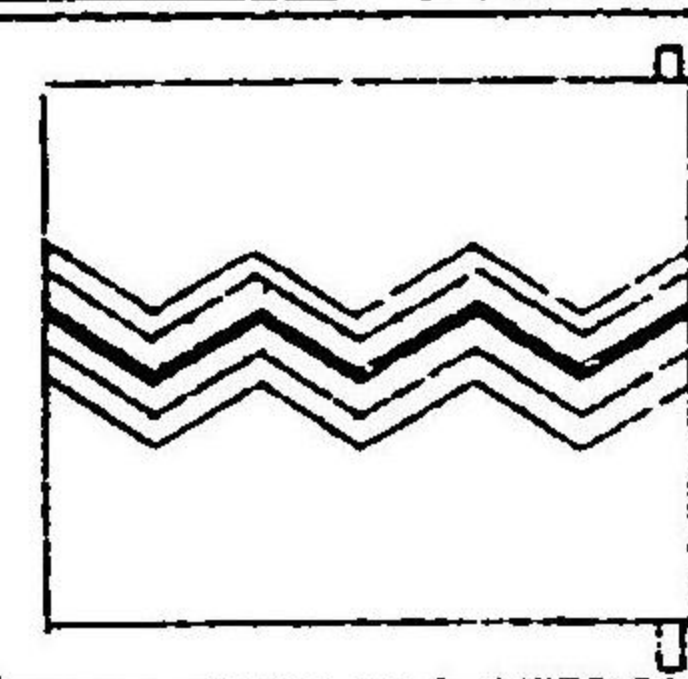
功三級金鷄章



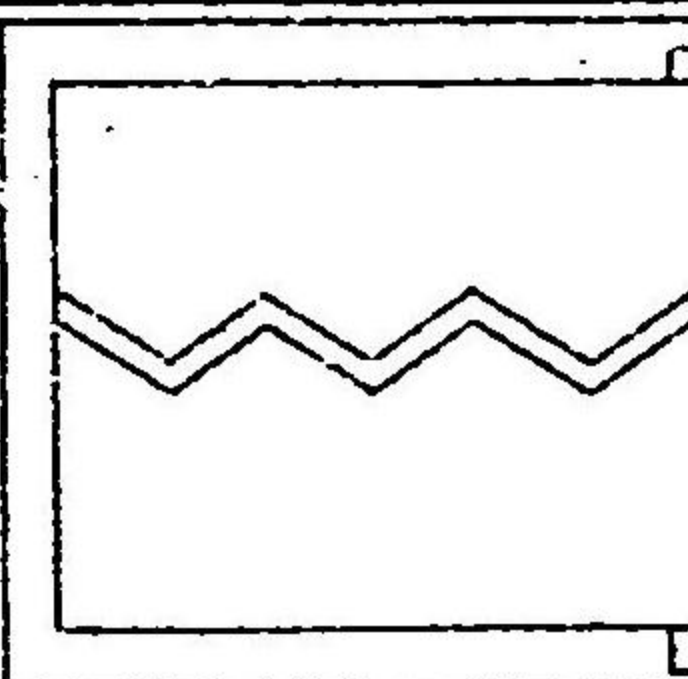
常備第一大隊旗



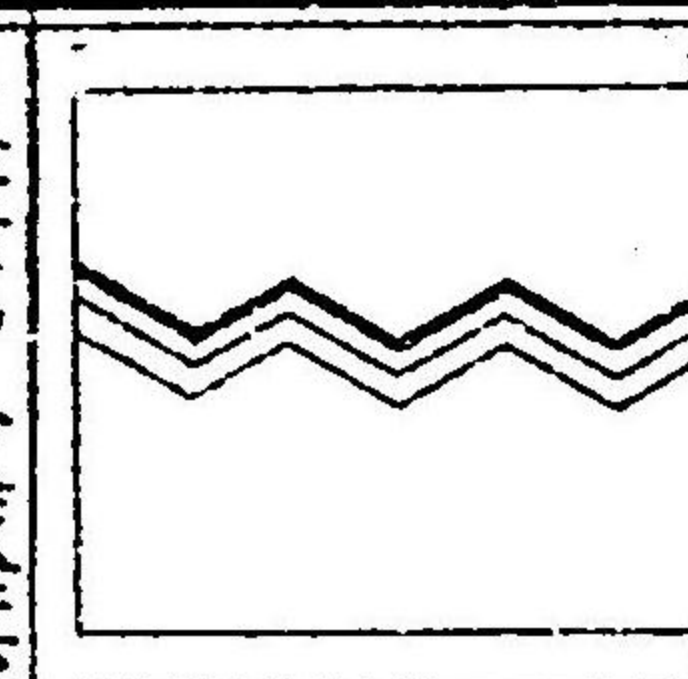
常備第二大隊旗



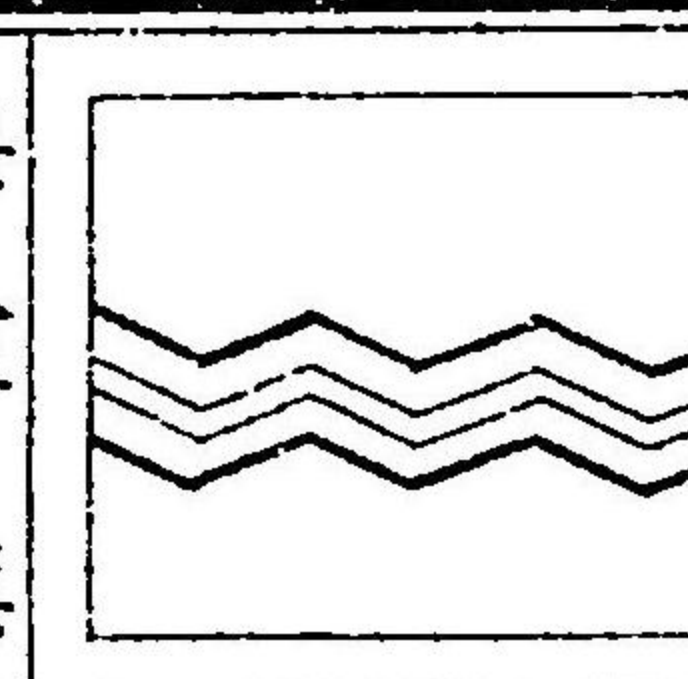
後備第一大隊旗



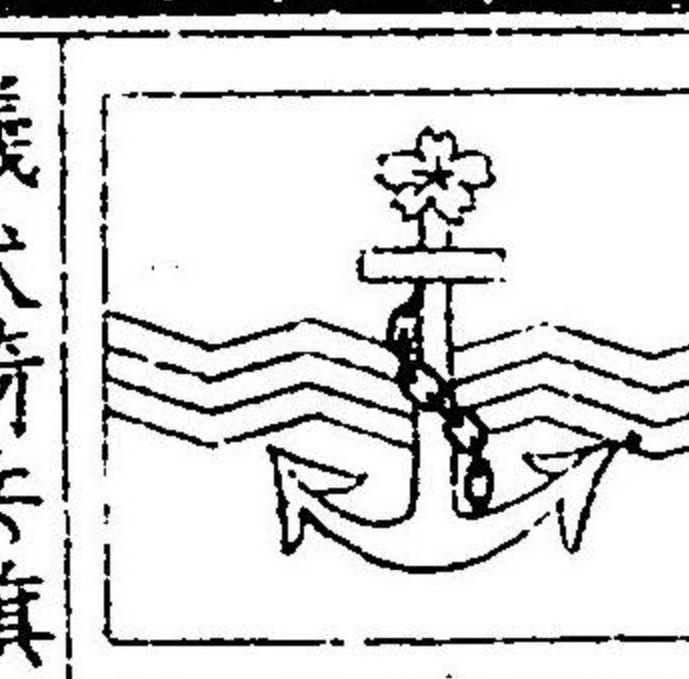
後備第二大隊旗



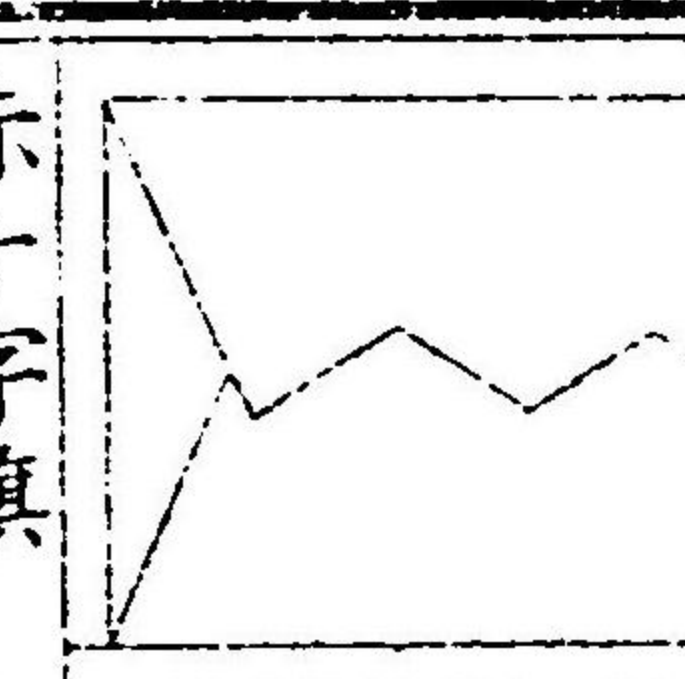
後備第三大隊旗



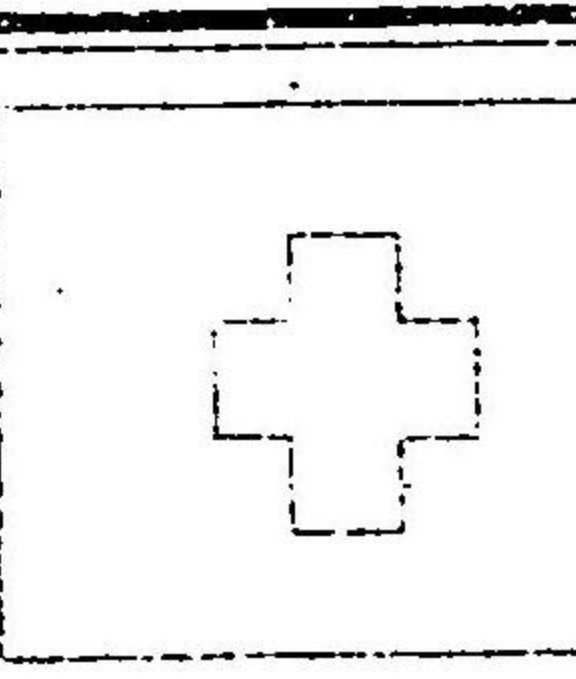
海軍旗



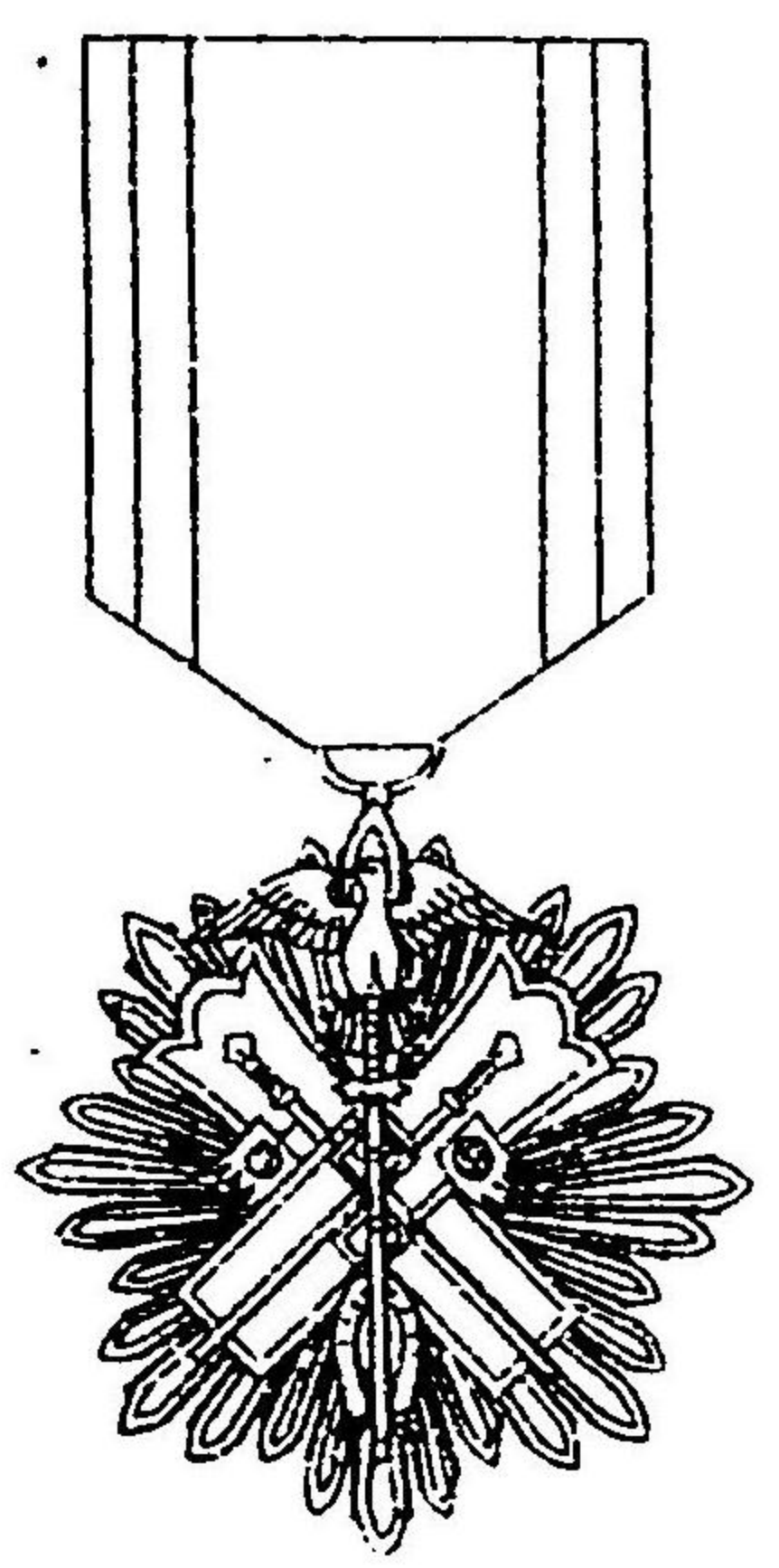
儀仗騎兵旗



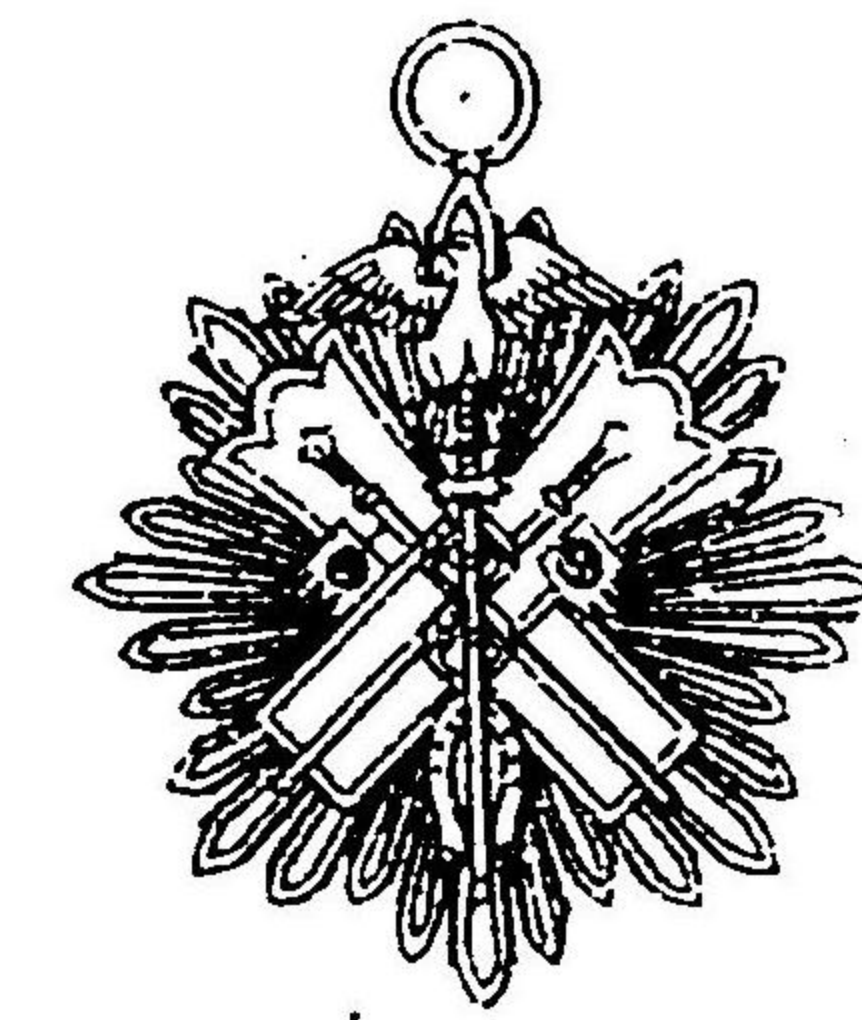
赤十字旗



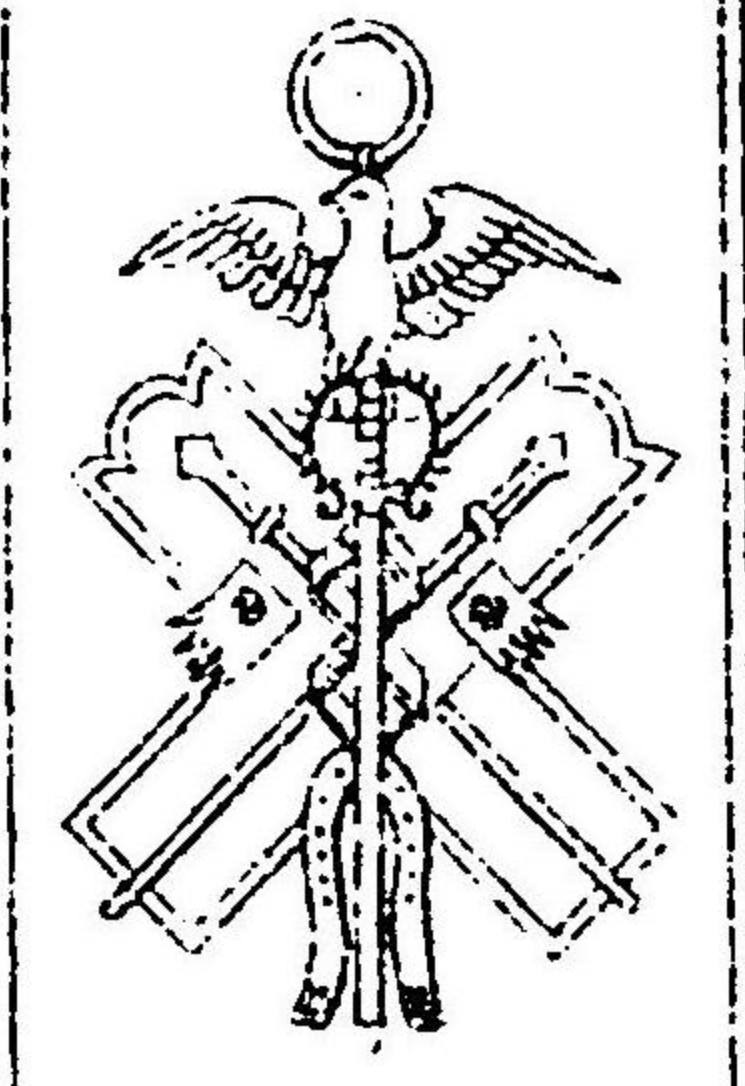
功四級金鷄章



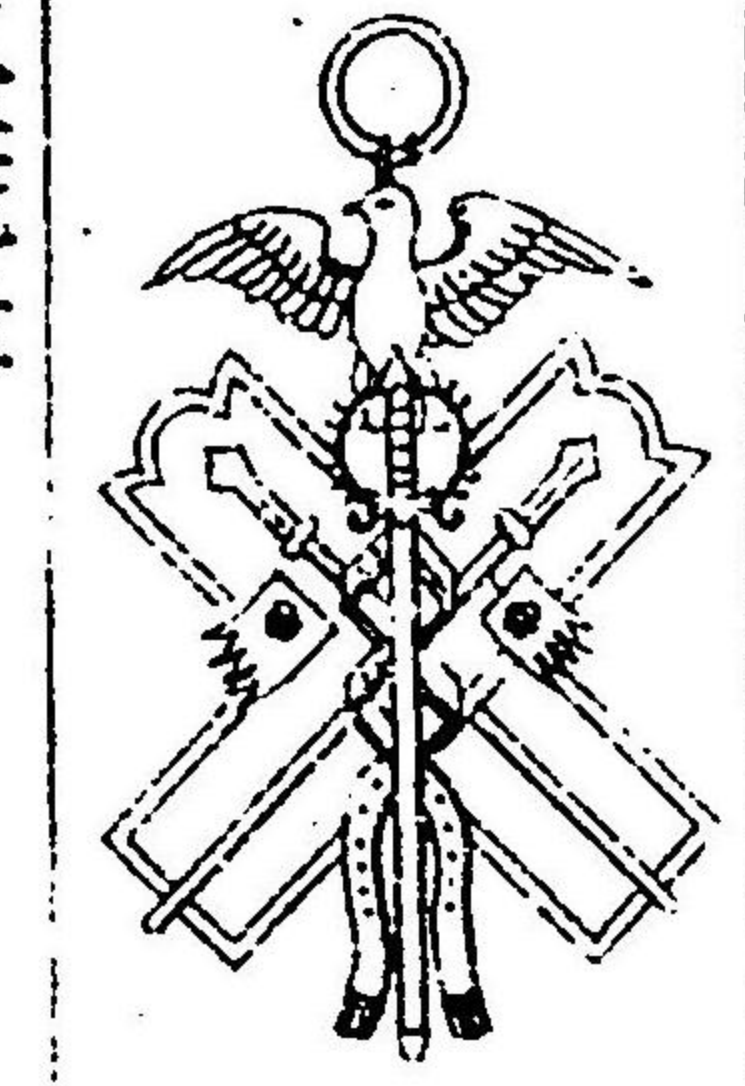
功五級金鷄章



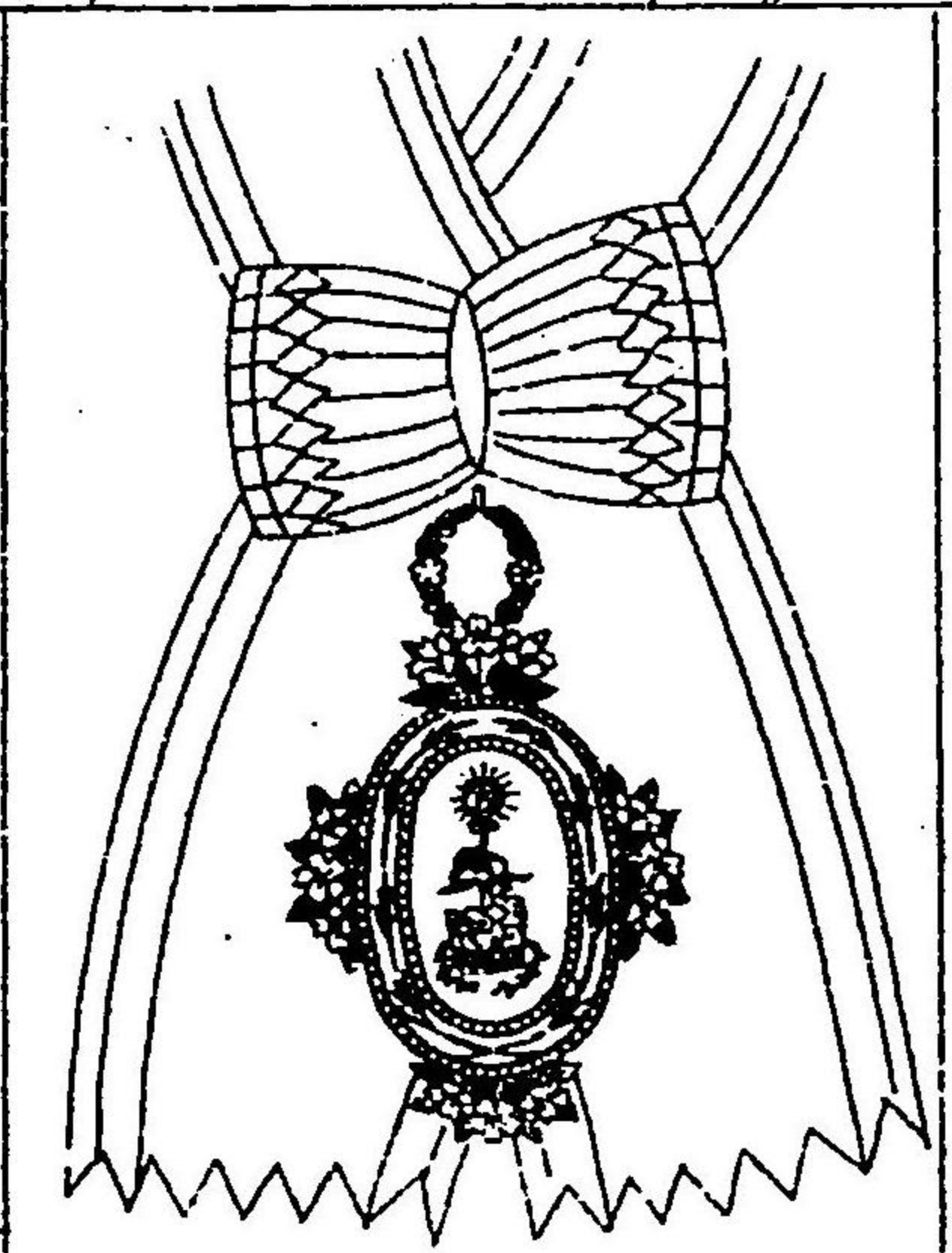
功六級金鷄章



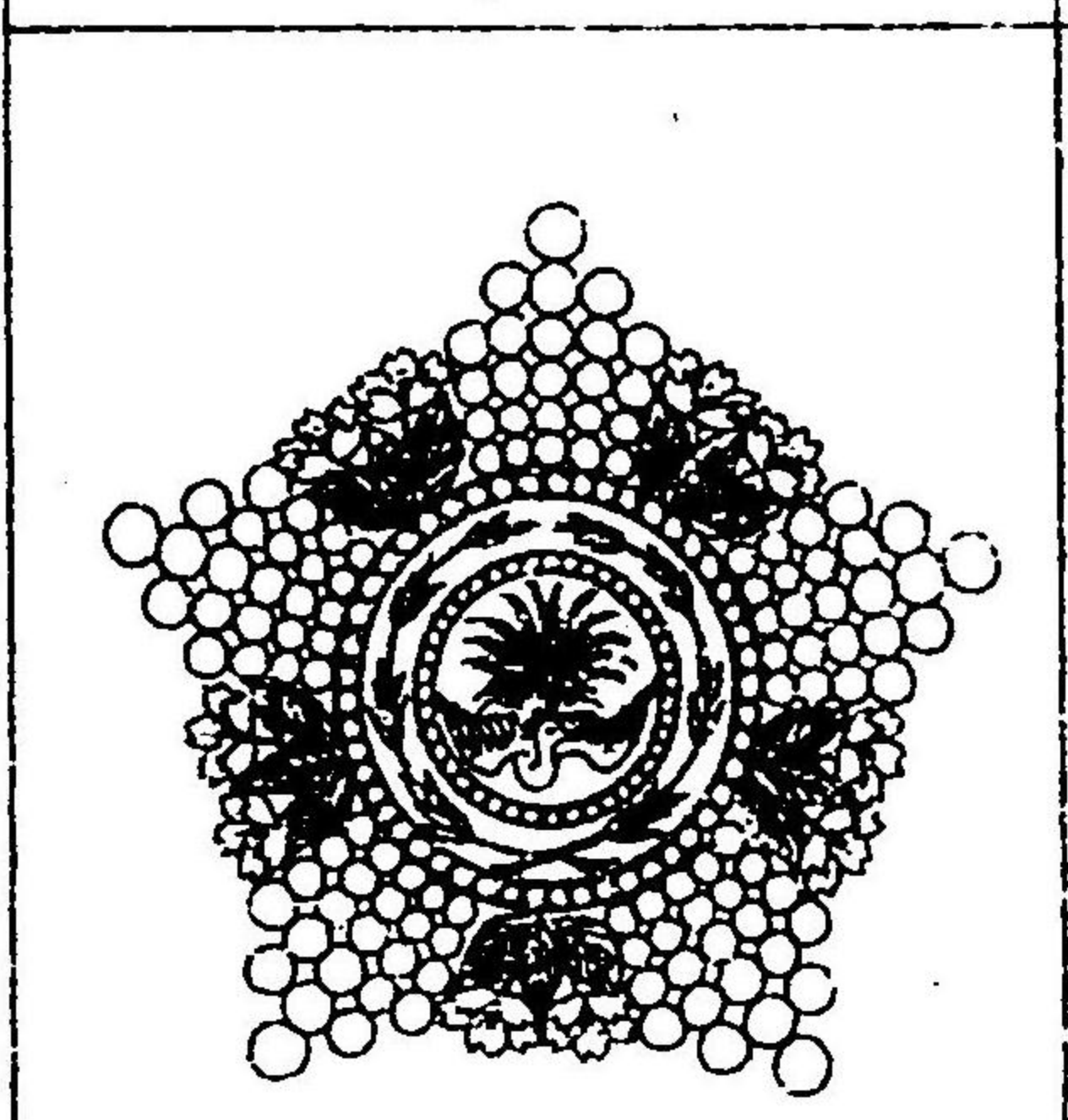
功七級金鷄章



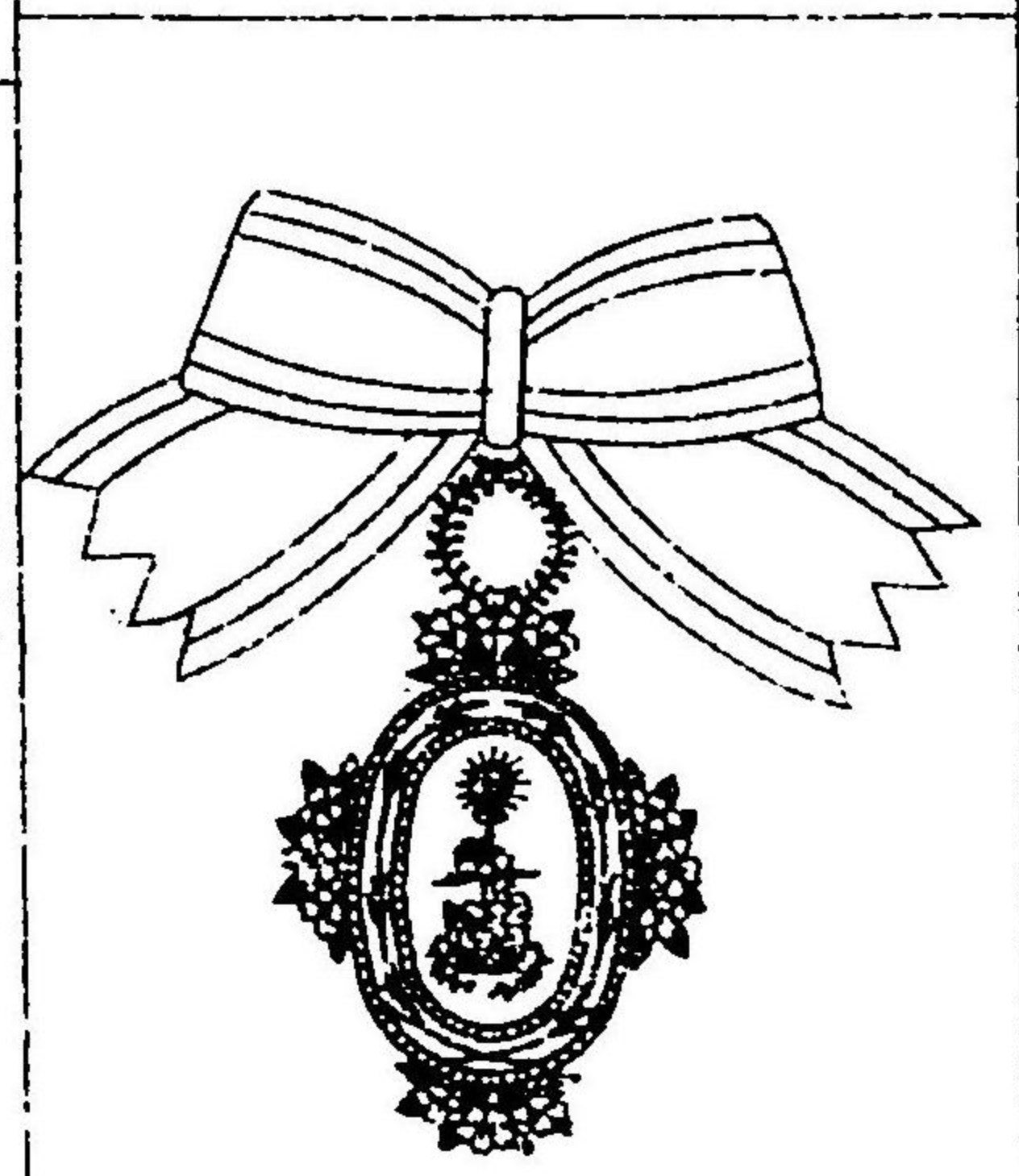
勳等宝冠大綬章



勳等宝冠章



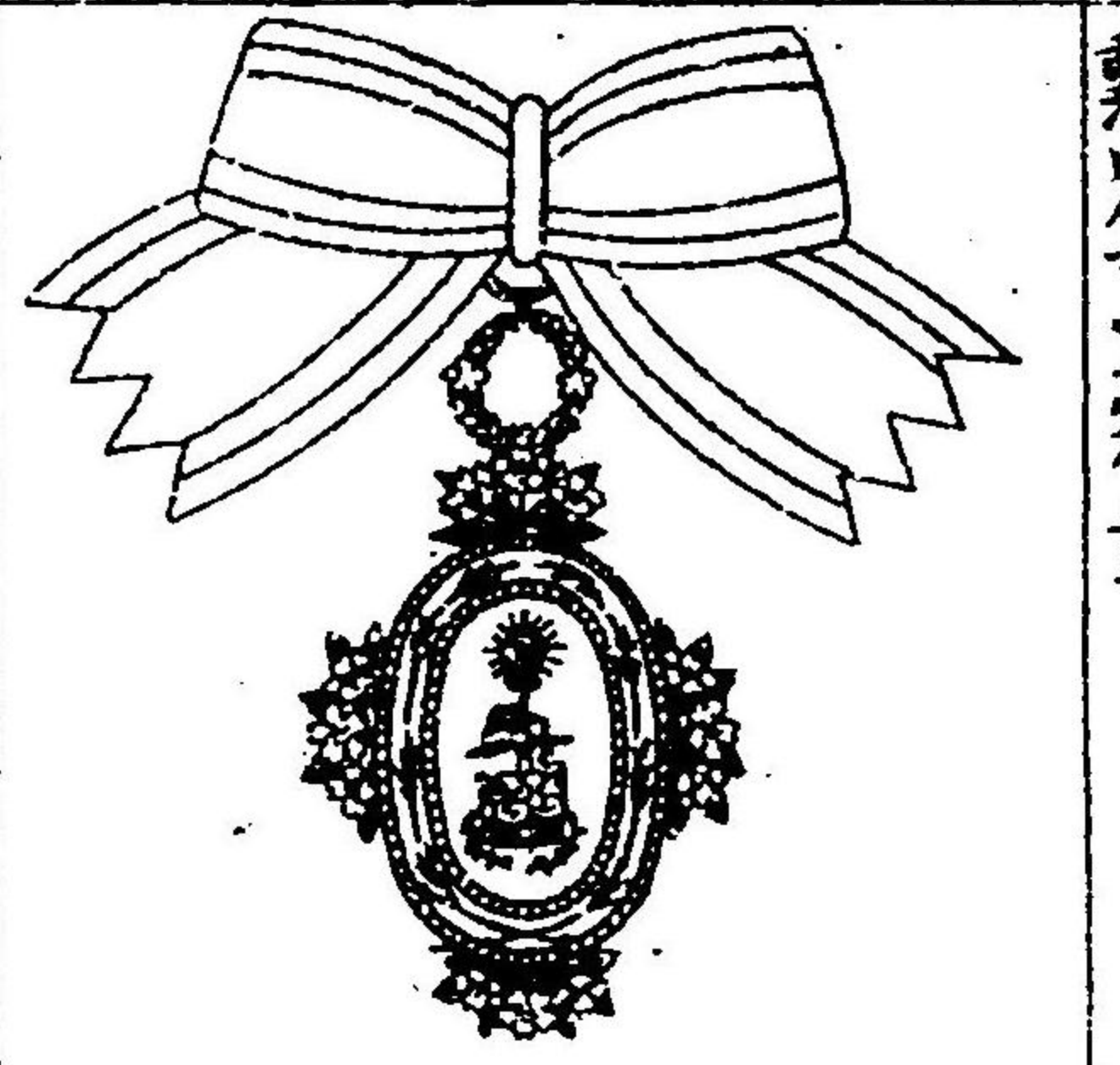
勳二等宝冠章



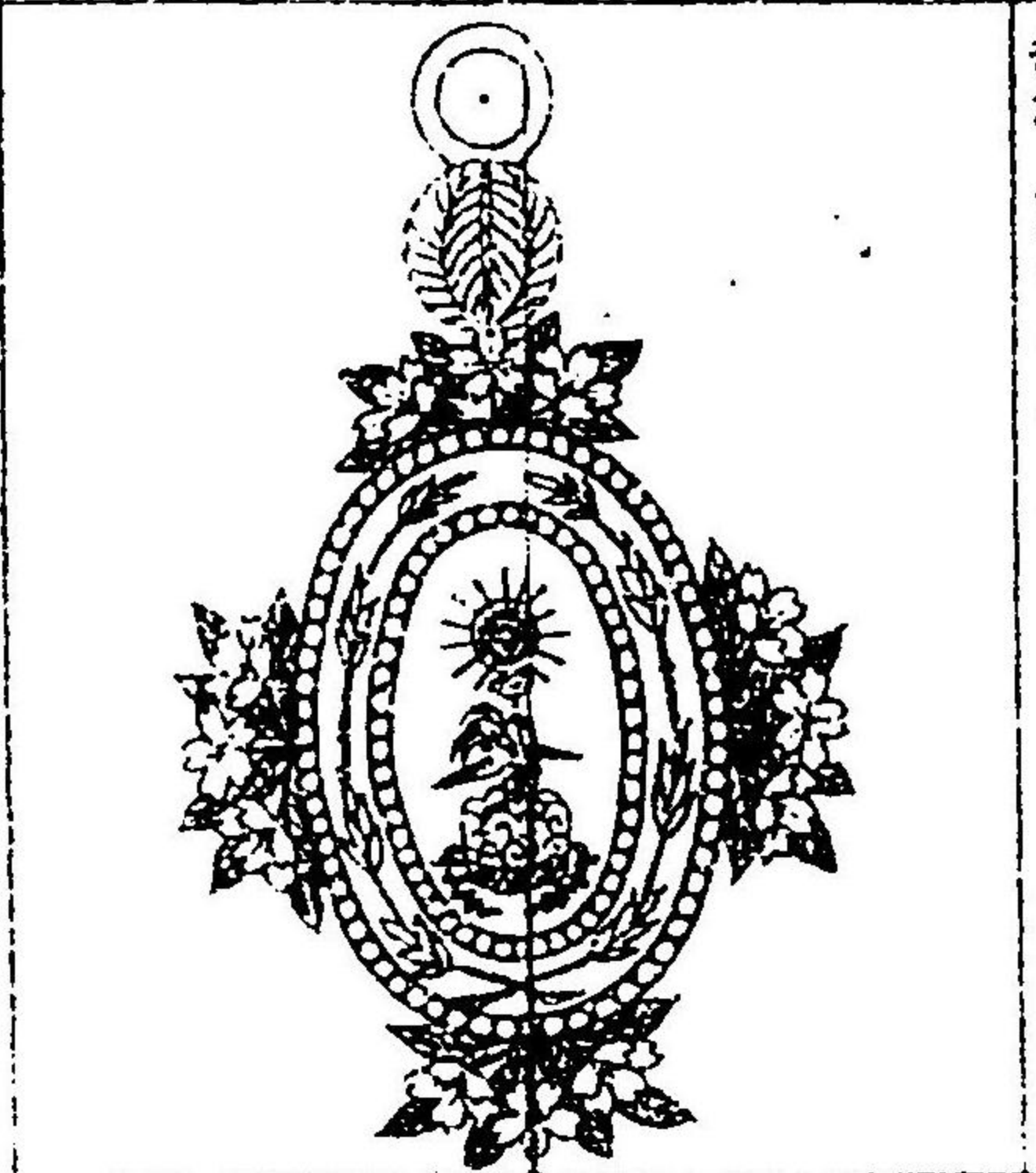
勳三等宝冠章



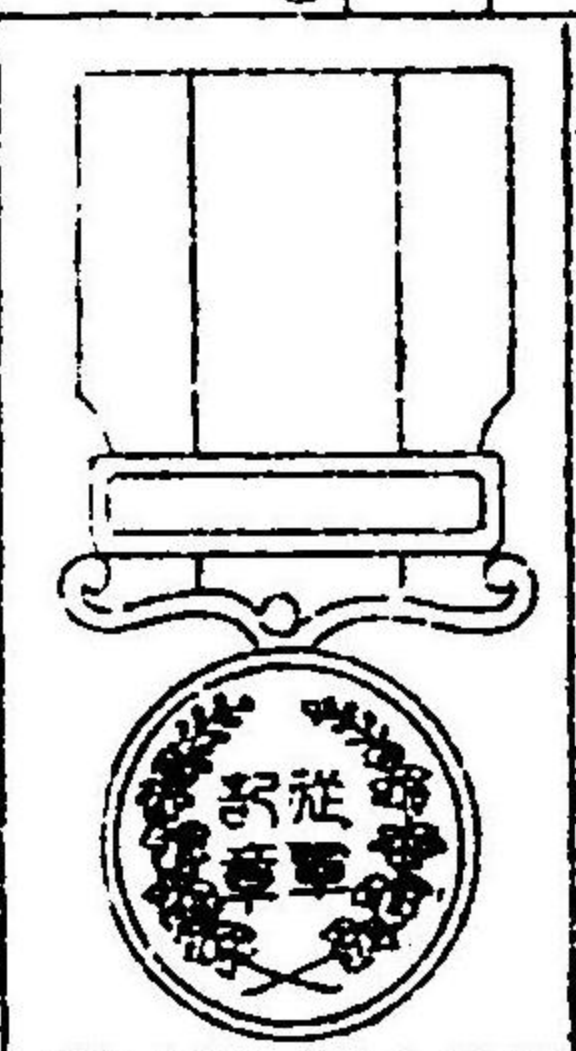
勳四等宝冠章



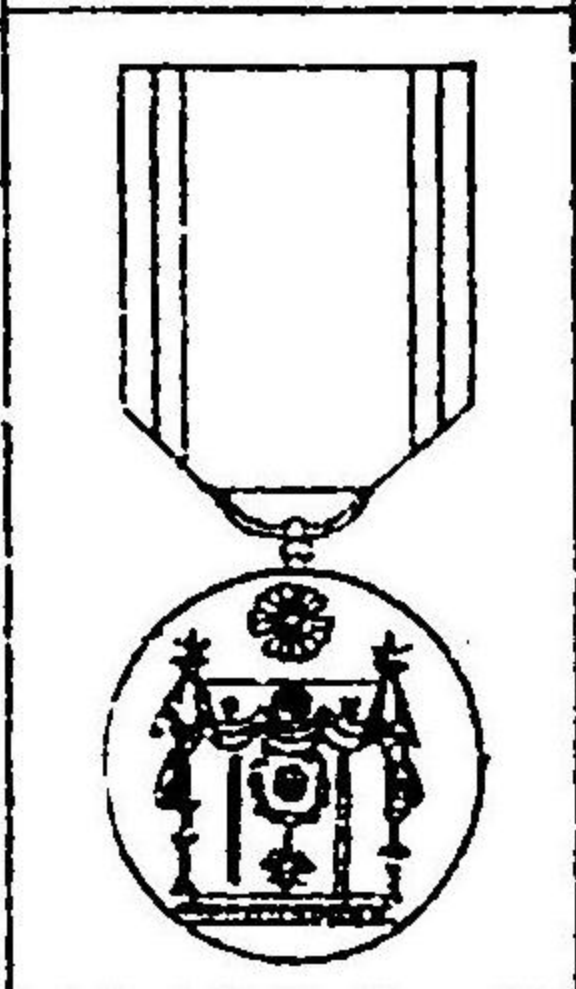
勳五等宝冠章



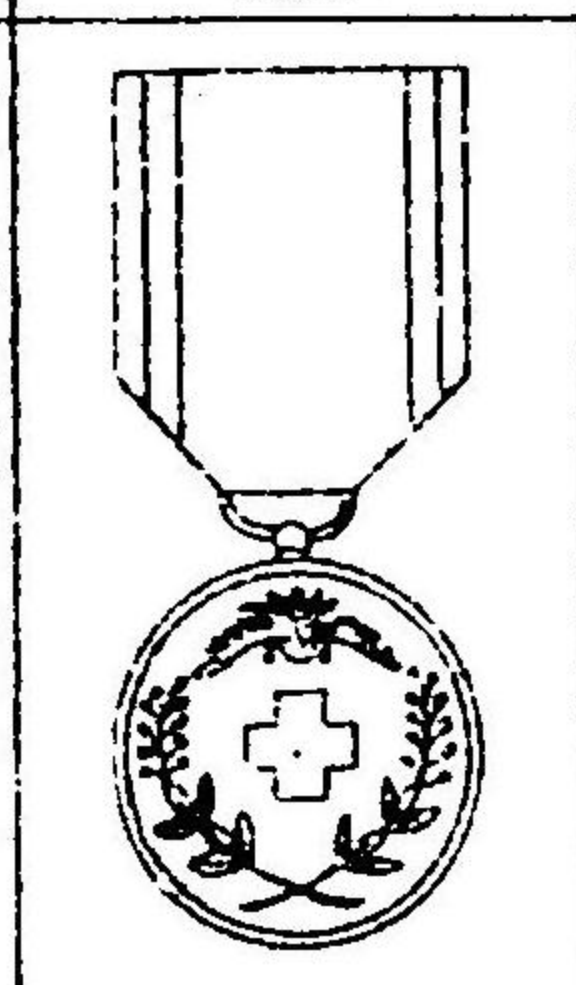
從軍記章



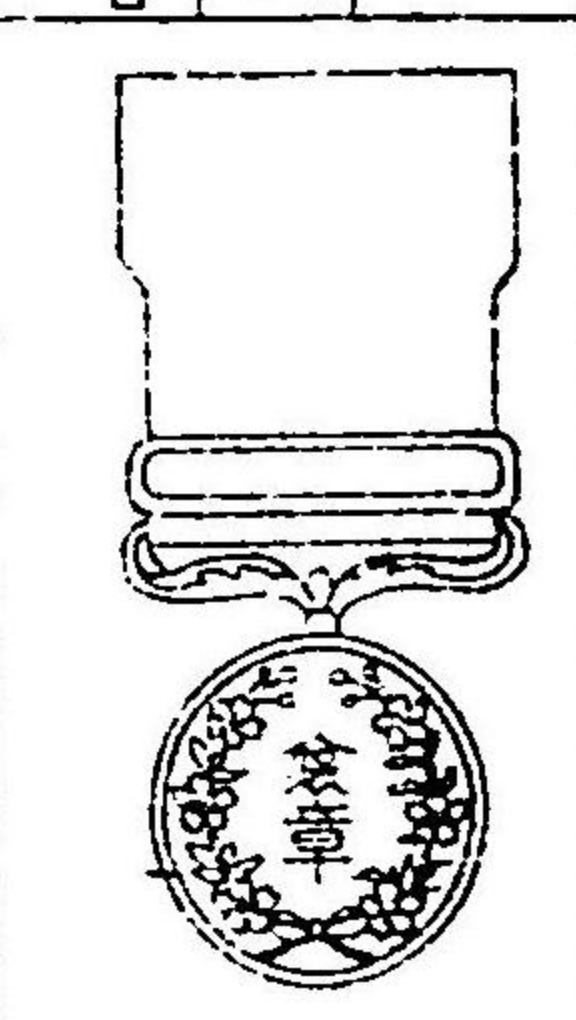
憲法發布記念章



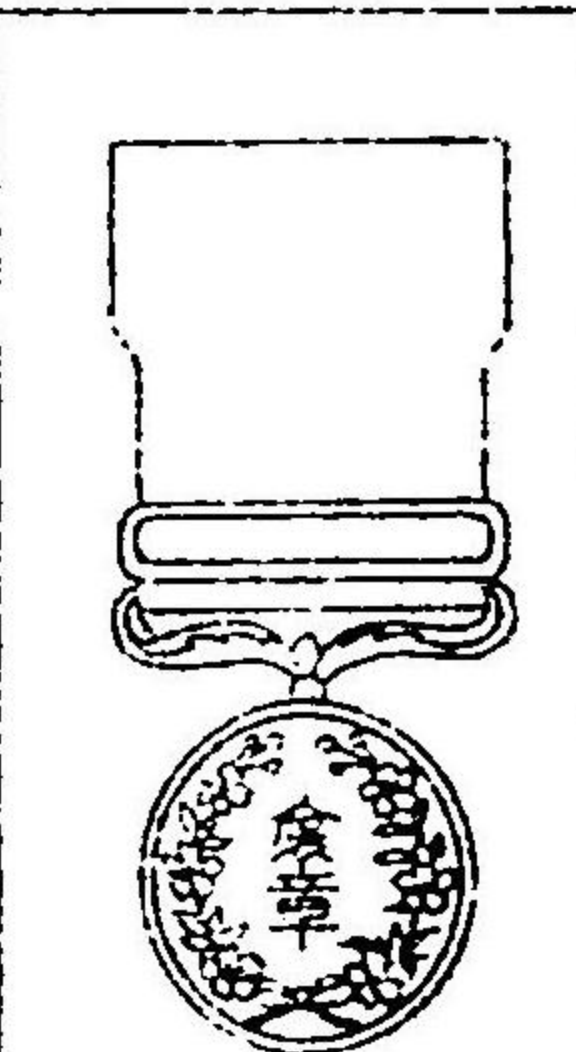
赤十字社々員之章



紅綬褒章



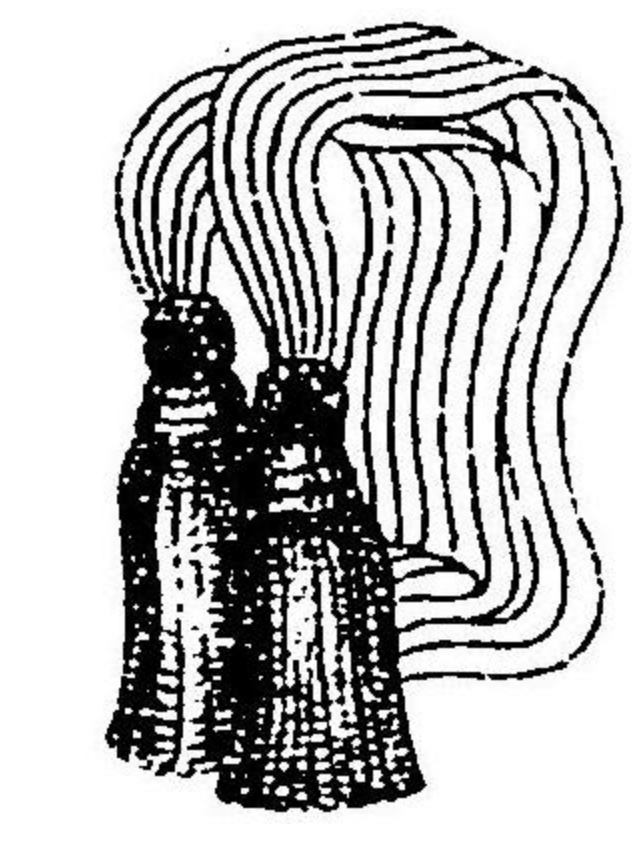
藍綬褒章



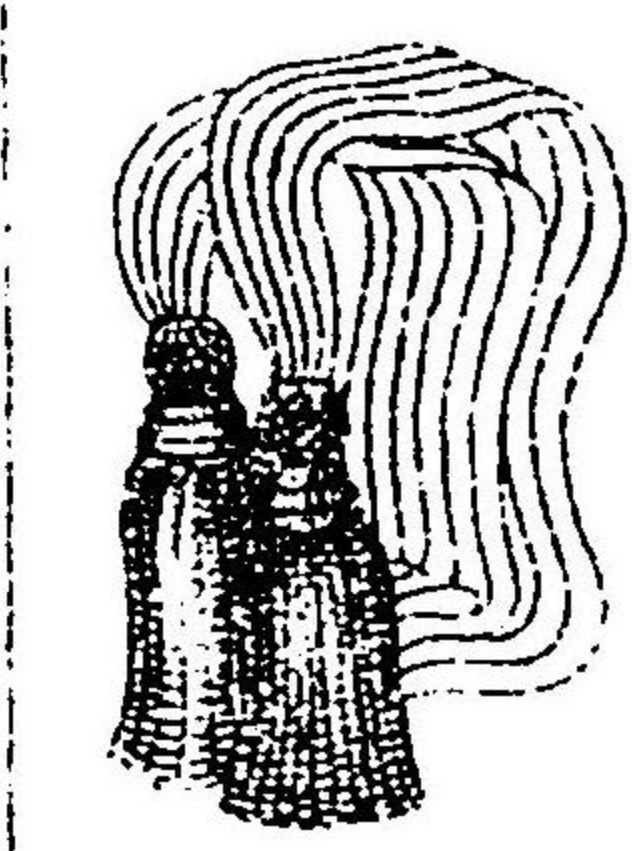
黄綬褒章



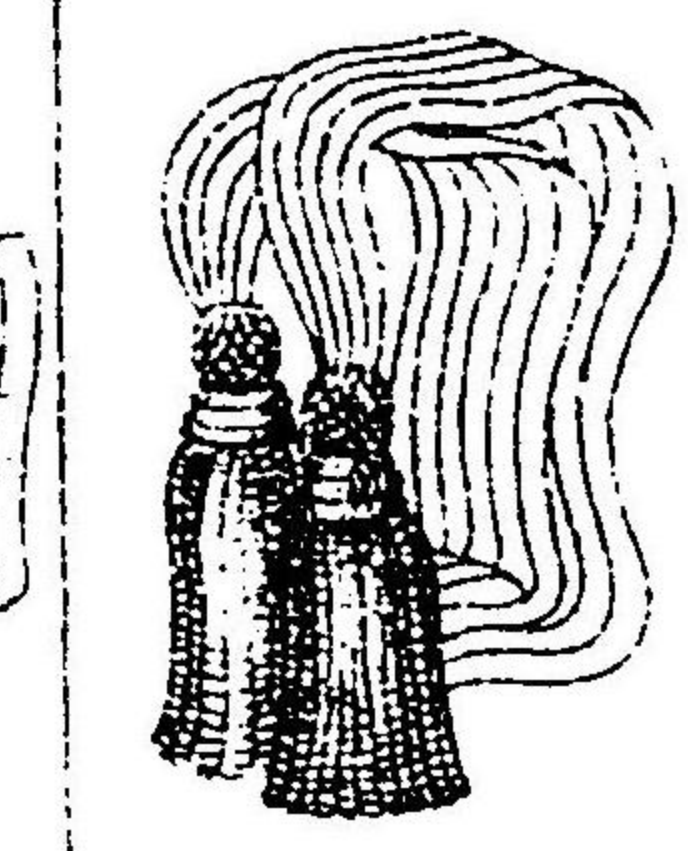
大将



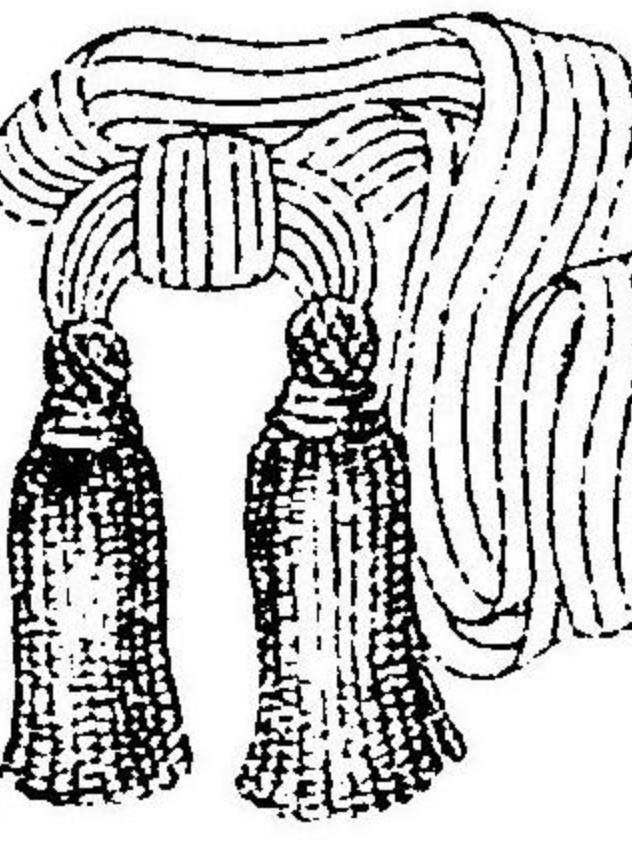
佐官



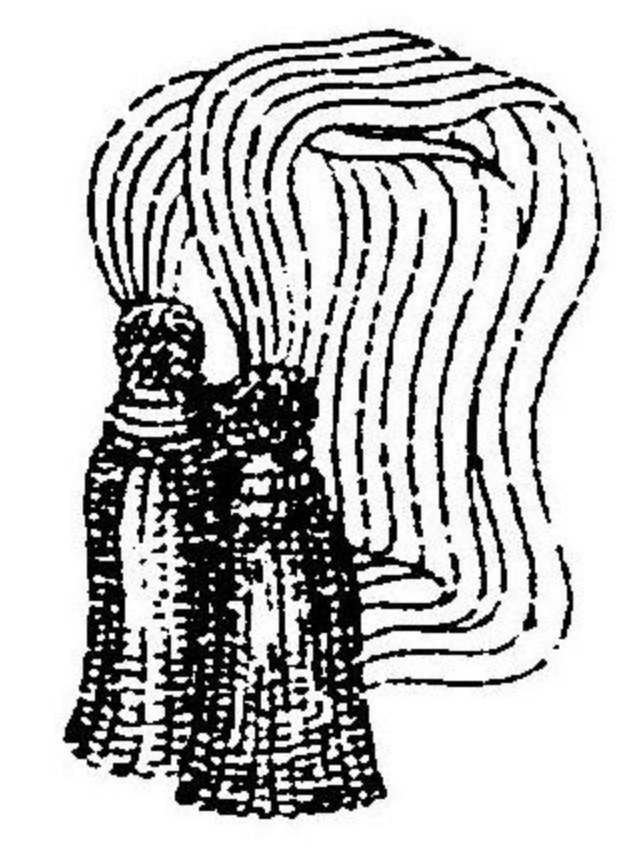
輜重兵



懸章



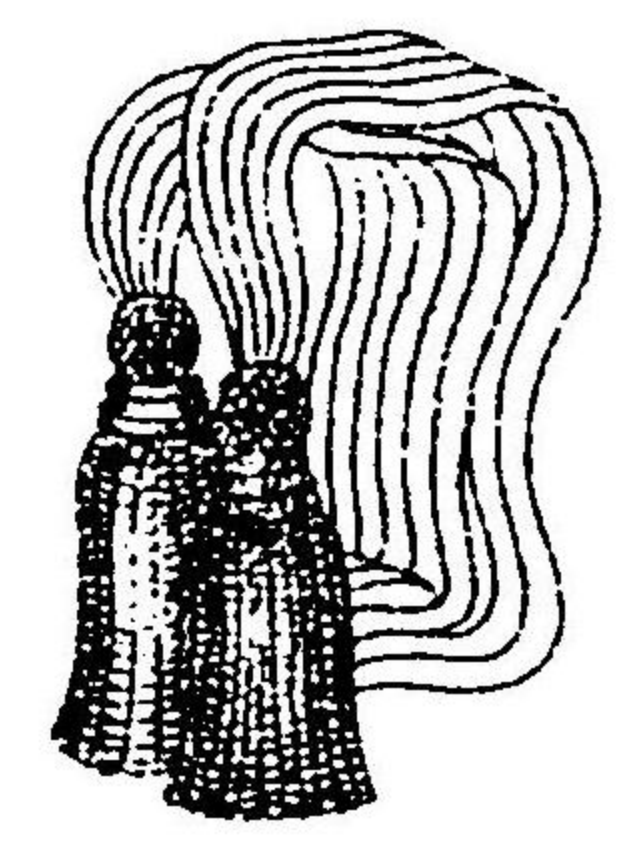
騎兵



尉官



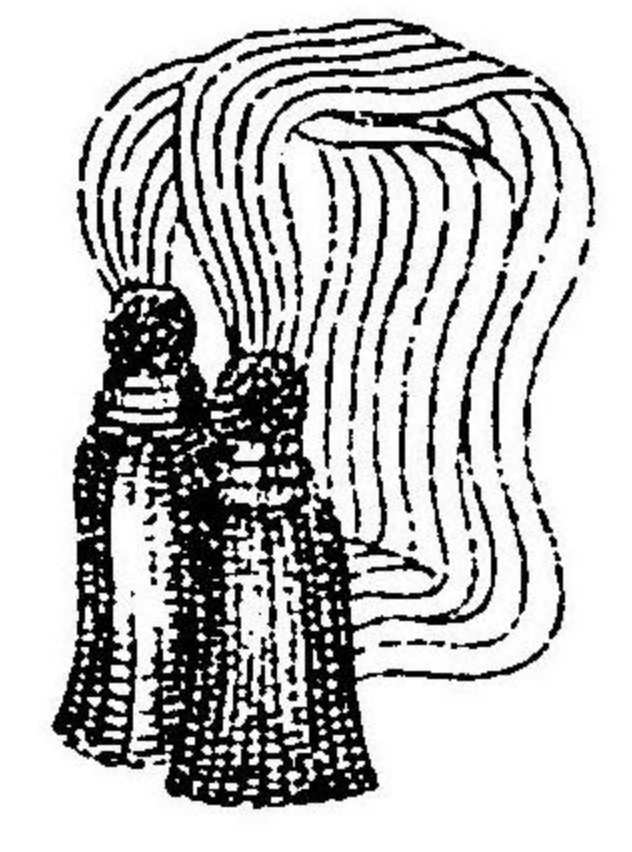
工兵



監督



砲兵

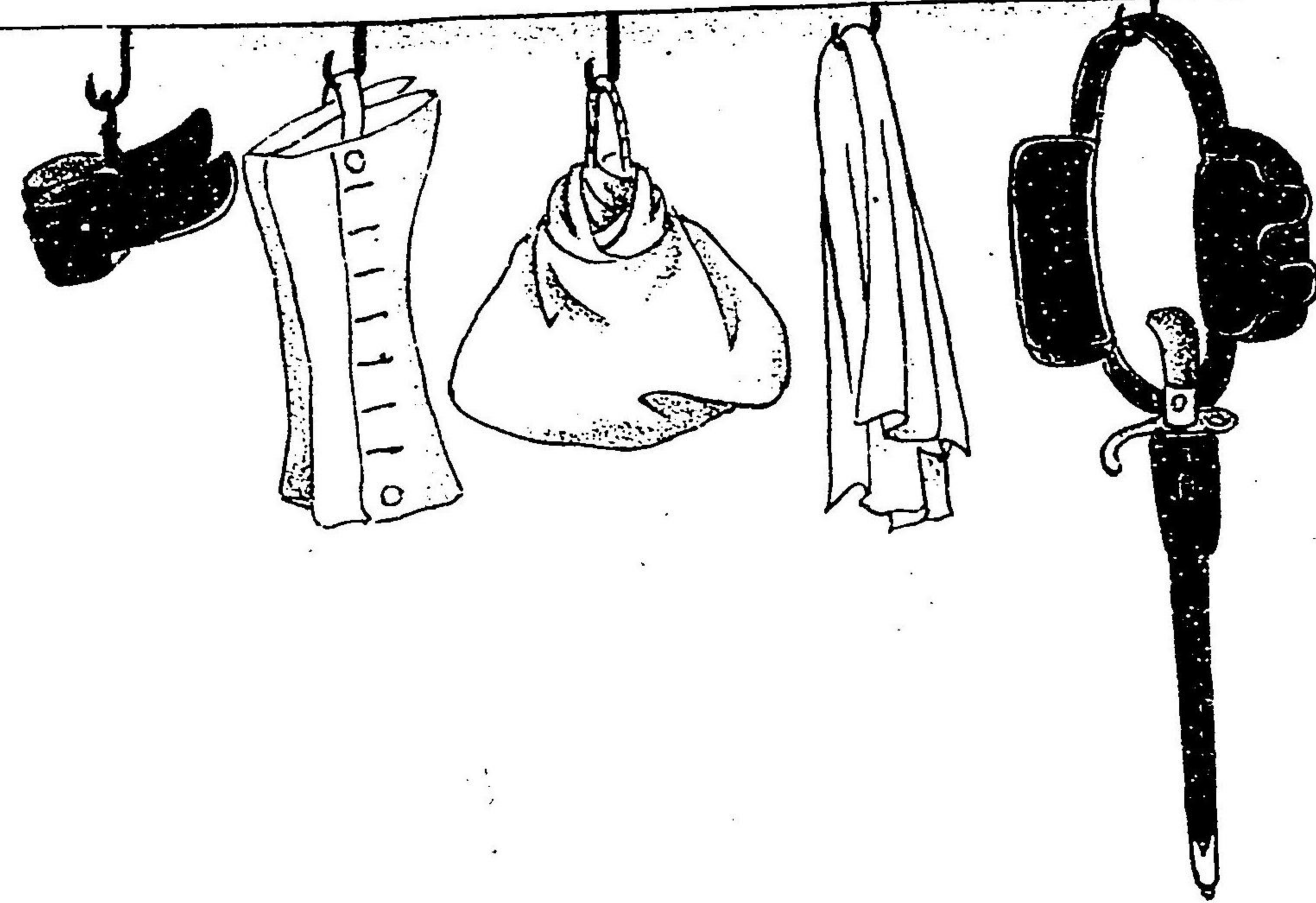
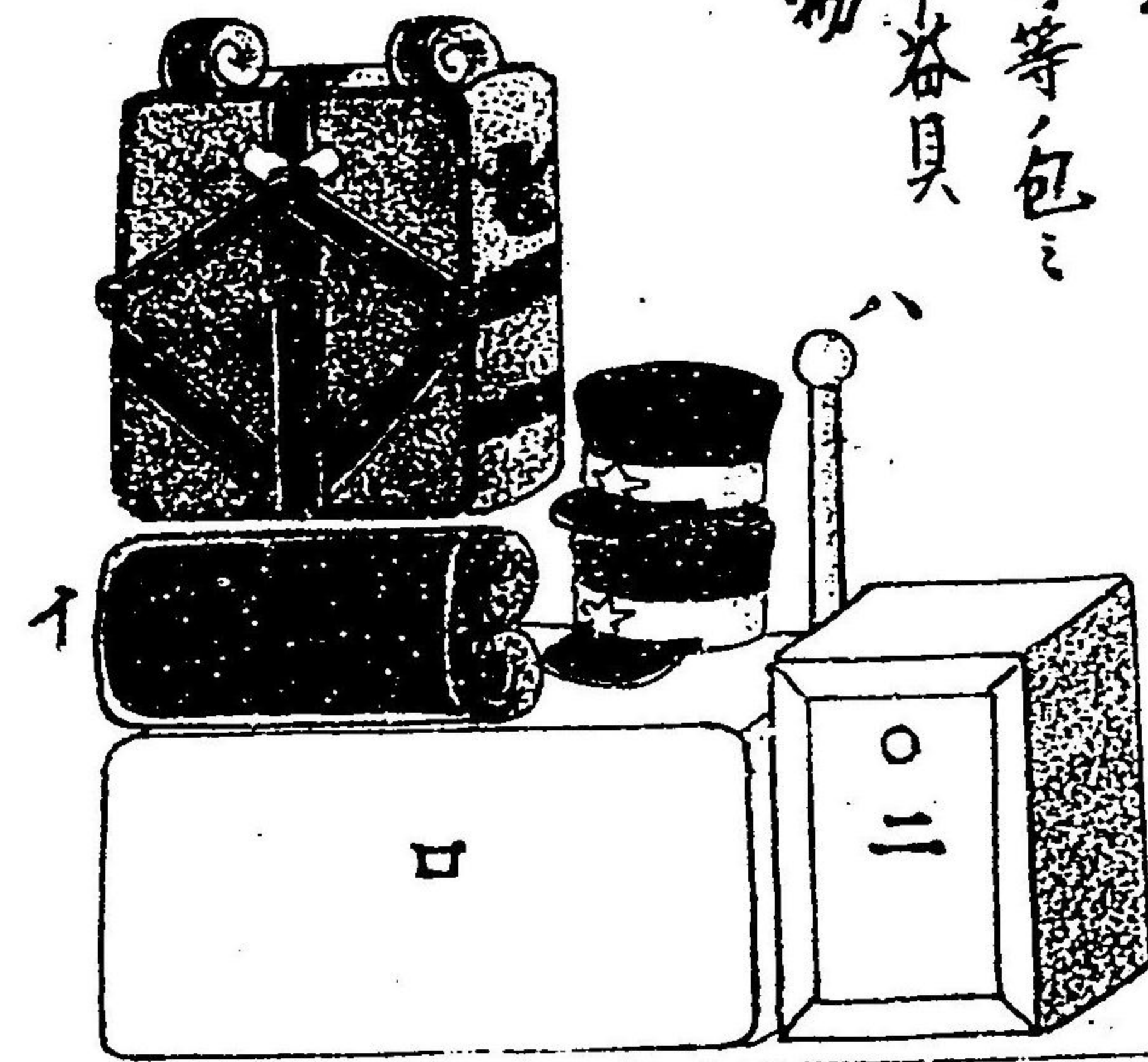


軍医



二 八 口 个

外套
衣袴等包
雙帶茶具
私物



勅諭天子様の、軍人どもに、あるせきかし、なされるいんごんことば

我國の軍隊はわが日本の國 卅々代々天皇の統率し給ふ所よそ

あるすべ、ひさる、なされる、昔神武天皇射づからまがごとく大伴

物部の兵どもを率ひ大伴や、物部といふ、ひか 中國のまつろはぬもの

とんまわがなかつくにの、したう 討ち平げ給ひうち平げ 高御座に即かせ

られて天子のくらゐに、 天下天下を、をんをさしるしめし給ひしよりめ、なされてより

二千五百有餘年を経ぬ二千五百年あまりの、この二千五百有 世の様

のせけんの移り換るに隨ひてうつり、かは 兵制兵のたての沿革も

かわりたまたいびく 亦屢ありましたなりきひかしは、天子様

軍隊を率わ給ふ軍隊を、ひきつれて、 御制ねんさまりでにてありまして 時ありては

わがごせん 御制に背き奉りそむきまして淺間しき次第なりき なげかわ
どさまの 弘化嘉永の項より 弘化や嘉永といふね
だいでござり降りて よはだんくんとす 弘化嘉永の項より 弘化や嘉永といふね
ざります 降りて よはだんくんとす 弘化嘉永の項より 弘化や嘉永といふね
徳川の幕府 幕府とは、武家のせいじを、するやくば 其政衰へ そのせいぢが、
なり 剩へに そのうへ 外國の事ども起りて よそのくに、すなわち、せいやうの、
し其侮をも受けぬへき そのよその國の、けいべ 勢に迫りければ ばやいに
なれば 朕が 朕とは、天子様が、それがと、ごじふ 皇祖仁孝天皇 おほのみのこと
も 仁孝天皇さまと、 皇考孝明天皇 ち、のみこと 孝明天皇様と申すれんかたが 痛く宸襟
を きつく、お 惱し給ひしころ ねんいため、な 忝くも又惶けれ かたじけな
またおそれをはいし 然るに 朕幼くして てんしさまが、またねん 天津
日嗣を受けし初 ねんよつさを、おんう 征夷大將軍 昔の大將のやくめのな、

とをい 其政權を返上し そのせいぢを、てんし 大名小名 大名も 其版籍
ふなり 其政權を返上し そのせいぢを、てんし 大名小名 大名も 其版籍
を奉還しんかへし そのりようふんを、お 年を経すして 一年もた、 海内一統の世と
なり 日本中が、天子様の、ねんてひとつで、す 古の制度に復しぬ むかしのねん
よ、かへり 是文武の これは文のはふに、か、りたもの、 忠臣 ちぢなる 長弼あ
りて よいたすけになるも 朕を補翼せる てんしさまを 功績なり てがら 歴世
祖宗の だいの、の、ご 専蒼生を いちづよ人 憐み給ひし御遺澤なりとい
へども あわれみたまふて、ねんのこしな 併我臣民の しかしながら、わがご 其心
に のうちに 順逆の理 順とはしたかふこと、逆とはさ 辨へんし 大義の重
きを かみのため、ぎをつくす 知れるが故に しりてをりたればこ
されば 此時 於て そふいう、わけたから 兵制を更め 兵のたてか 我國の光

を耀さんと思ひ見がくにの、ひかりをますくして、此十五年が程に元年より十五年まで陸海軍の制をばのりて、かたをば、今の様に建定めぬ、只今の、きめたる夫兵馬の大權はいつたい、へいをつかさどる、朕が統ぶる所なれば、子天様のすべく、りて、をいで、其司々をこそ、うれく、の、や、臣下には任すなれ、なざる、い、ところなれば、天子様の、ごまふんに、けらい、ごもに、をまか、その、ものを、朕親之を攬り、とりて、れい、で、なされ、しなざる、い、わけ、で、其大綱は、その、を、の、朕親之を攬り、とりて、れい、で、なされ、肯て臣下、委ぬべきもの、よ、あらず、けつして、したく、のもの、は、を、子々、孫々に至るまで、いたるまで、篤く斯旨を傳へ、ゆい、を、つたへ、天子は文武の大權を、天子様は、文と武、掌握するの義を存し、い、わけ、い、を、もちて、再中世以降の如き、ふた、び、なか、ご、ろ、じ、だ、し、た、し、う、なる、失體なからんことを望む、なり、この、ない、よう、に、の、ご、む、朕は汝等軍人の大元帥なるぞ、天子様の、なみ軍人、

ごもの、そ、う、たい、されば、朕は汝等を股肱と頼み、されば、天子様は、みな軍人ご、しやうである、たより、よ、い、を、な、ん、ぢ、ら、も、ひ、な、され、汝等は朕を頭首と仰ぎて、ぞらと、たて、まつり、て、こそ、其親は、特み深かるべきつに、ふ、か、い、わけ、で、あり、ます、朕か國家を保護して、天子、國をたもち、まもり、上天の恵に應じ、け、に、した、が、い、祖宗の恩に、ご、せん、ご、を、ん、ご、報ひ、ま、わ、ら、する、事、を、む、く、ひ、な、さ、る、ご、得、る、も、得、ざる、も、さ、な、い、も、汝等軍、人、が、ん、ご、も、が、其職を盡すと盡さざる、ご、れ、由、る、ご、か、し、を、つ、く、す、ご、つ、く、さ、ぬ、ご、我國の稜威、い、さ、は、い、が、振はざる、ご、あ、ら、ば、ふる、は、ぬ、よ、ふ、な、ご、に、よ、る、ご、汝等能くもよく、朕と其憂を共よせよ、天子様ご、の、う、れ、い、わ、が、り、我武維揚りて、わ、が、く、に、の、い、さ、は、ひ、其榮を耀さは、を、か、や、か、した、なら、ば、朕汝等と其譽、を、借、に、す、べ、し、天子様は、みなご、も、ご、の、よ、い、ひ、よ、ふ、汝等皆其職を守り、な

とも、めい／＼のしよ。朕と一心になりて、天子様とひとつ力を國家の保護に盡さば、ちからを、くにをまもる。我國の蒼生は、じんみんは、永く太平の福を受け、いつまでも、をささるみよ。我國の威烈は、わがくにの、大に世界の光華ともなりぬべし。大に、世界の、ひかりと、朕斯も深く、天子様は、かよ女等軍人に望むなれば、みな軍人にも、おんのぞ、猶訓諭すべき事ころあれならん、ことがある。いでや之を左に述へむ。さてこれから、をしへきかせらる。況

一軍人は忠節を盡すを本分とすべし。軍人といふものは、ちうぎを、つせん。凡生を我國に稟るもの。すべて、いのちを、わがくに、誰かは國に報ゆるの心なかるべき。なかるまいか、たれでも、そのこゝろはあります。況

して軍人たらん者はなりたものは、此心の固からではむくもの、こゝろが、かた。物の用几立ち得べしとも思はれず。もの、よふに、たどくなくしては。軍人にして報國の心堅固ならざれば、軍人でありながら、國よむくもの、如何程技藝に熟しいが、よくでき學術に長ずるも、よくできても、猶偶人たひとしかるべし。てう、にんぎふと、其隊伍も整ひよくといのい、節制も正くとも、たゞ、かたが、忠節を存せざる軍隊は、もたぬぐんたいは、事、臨みて、は、さしかりては、鳥合の衆に同かるべし。からすのむれなる、を、は、せいの、あつまりにて、め、抑國家を保護しよをさもり、國權を維持するは、けんりのことを、いふなりこのくにのけんりを、つなぎもつてゆくは、兵力に在れば、できるものなれば、兵力の消長は、へいの、ちかられ、を、

らずしかたが、ありて **公務の爲に** を、やけの、つと **威嚴を主とする時**
 は格別なれども そのやくがらに、ついでには、さびしくするのを、 **其外は務**
 めて懇に取扱ひ そのほかの、とさなら、つとめ **慈愛を専一と心掛け**
 なさけを、かけて、かわいがる **上下一致して** かみのものも、しもものもの **王事**
 ことを、をもと、こゝろがけ **上下一致して** かみのものも、しもものもの **王事**
 勤勞せよ をかみのことに、 **若軍人たるものにして** もし軍人ど、な **禮**
義を素り みだしたり **上を敬はず** 上の人を、たい **下を惠まず** 下の
 け、なさけを 一致の和諧を、かよくするところを **失ひたらん** は、うし
 かけずして **一致の和諧を** かよくするところを **失ひたらん** は、うし
 た、とさ **皆に軍隊の毒毒たるのみ** たゞぐんたいの、とく **國家の爲**
 めにもゆるし難き 國のためにも、ゆる **罪人なるへし** つみびとで、
一軍人は武勇を尙ぶべし 軍人たるものは、いうさか、 **夫武勇は我國にて**

は一体、公のうと、いふも **古よりいとも** むかしから **貴へる所** なれば **たい**
 には、わが國にては **古よりいとも** むかしから **貴へる所** なれば **たい**
 るなれば **我國の臣民たらんもの** わがくにの、じんみ **武勇なく** ては
叶ふまじ は、すみません **況して軍人は** そのうへ、 **戦に臨み** せんそう
 よに、 **敵に當るの職なれば** てきにあたると、 **片時も武勇を忘れて** よか
 るべきか すこしの、あいだでも、いうさを、わすれて、す **さはあれ** それは、さう
 けれ **武勇には大勇あり小勇あり** て同からず **なる、** いうさのうちに、を、ほひ
 うきがわりて、を **血氣にはやり** わかさかりの、 **粗暴の振舞** などせんは
 じく、ありません **血氣にはやり** わかさかりの、 **粗暴の振舞** などせんは
 てあらい、ふるま **武勇とは謂ひ難** いいうさとは、 **軍人たらんものは** 人
 いなき、するの **武勇とは謂ひ難** いいうさとは、 **軍人たらんものは** 人
 となりた **常み能く義理を辨** へ **ふこと** を、しようちして **能く膽力を練**
 り **思慮を殫** して **事を謀** るべし **すべ** ての、ことを、
 をねり **思慮を殫** して **事を謀** るべし **すべ** ての、ことを、

小敵たりとも侮らずすこしのてきと 大敵たりとも懼れずたぐさん
 ともばうにせず
 己が武職を盡さむと云ふじぶんは、しよくぶ 誠の大勇にはあ
 らざるほんとの、おほひなる、 されは武勇を尙ぶものはさういうわけだから、
 常々人に接るつねづね、ひとに 温和を第一とやむらうな
 するも 諸人の愛敬を得むと心掛けよもろくの、ひとから、かわいがら
 して、ろがけね 由なき勇を好みてわけなきいうき 猛威を振ひたらば
 ば、なりませぬ 果は世の人も忌嫌ひてとふくは、せけん 豺狼など
 の如く思ひなんよふにを、かみなどの、ていふ 心すべきことにかうこゝろを、おこす
 一軍人は信義を重んずべし軍人は、まこと、ざりか、 凡信義を守ること
 すべしすべし、まこと、ざりか、 常の道にはあれどあたまへの、みち わけて軍人は

信義なくしては、わけて軍人は、まこと 一日も隊伍の中いちじつでもたいの
 交りてあらんこと難かるべしひと、つぎあふて、ゆ 信とは己が言を
 踐行ひまこと、いふことは、じぶんが、いうたことを、 義とは己が分を盡
 すまいふなりぎとは、じぶんが、つとむべき、こと されば信義を盡さむ
 と思はばそいういふ、わけだから、まあと、 初より其事のはじめから、 成し
 得べきか得からざるかなすことか、できる 審に思考すべしねん
 ば、なりませぬ 臆氣なる事をおそむる、 假初に諾ひてかりに、ひ
 しなき關係を結びあはれ、 後に至りておとに、 信義を立て
 んとすればまこととざりて、 進退谷りてすすむも、しりぞ 身の措き
 所に苦むことありまのをきはしよに、 悔ゆとも其詮なしくやんだし

軍人たる、頼に衰へぬべきこと明なり とをに、ををろへて、をる 朕深
 く之を懼れて 天子様はふかく之れを、 曩に これより 免黜條例を施行し
 免黜條例とは、わるいことを、なしたるものは、やくめを、とりあげ、或は、略此事
 を誡め置きつれどらぬと、い、さかしては、をいたけれども 猶も其の惡
 習の出んことを憂ひて なをも、そのわるい、ならわせが、ではすまい 心安
 からねば れんて、ろが、おち 故に又之を訓ふるぞかし かくべつに、ま
 おんおしへさかし ななちのせんじん 汝等軍人 みな軍人とも、必ら 等閑にな
 思ひぞ うちすて、むだに、を
 右の五ヶ條は みぎに、か、けて 軍人たらん者 の軍人とも、な 暫も忽にすべ
 からぬ しばしの、あいだも、こ、ろ さて之を行はんには さて、これを、をこ

一の誠心 ひとつ、まこと ころ大切なり ひとつ、まこと 抑此五ヶ條は我軍
 人の精神にして そも、この五ヶ條はわれ、く、 一の誠心は又五ヶ條
 の精神なり ひとつ、まこと 心誠ならざれば こ、ろが、
 なきには如何なる嘉言も善行も よ、いをこないも 皆うはべの裝飾にて
 何の用かには立つべき みならうつら、のかざりにて、なんのようにも、 心だに
 誠あれば こ、ろにさへ、ま 何事も成るものぞかし なんの、こども、で
 況してや此五ヶ條は そのうへ、こ 天地の公道 天地の間すなはち、せかいの、
 人倫の常經なり ひとたるもの、あたりま 行ひ易く守り易し をこなうに
 も、やすくある汝等軍人能く 皆軍人ともよく 朕が訓に遵ひて 天子様は、れんをこ
 此道を守り行い この五ヶ條のみちを、 國に報ゆるの務を盡さば 國の、こ

ひくめるの、つとめ、日本國の蒼生舉て之を悦びなん
日本國中の、人民は、み
 をつくしたならば
なこれ喜びであらふ
 朕一人の憚のみならんや
天子様ひとり、をんよろこび、ばかりで、あらふ
か、決して天子様ひとり、おんよろこび、ばかりで
は、おせん
りません

明治十五年一月四日

御名

讀法

軍人タルモノ、ツ子ニ、ヨソデ、コ、ロヘ
テ、ヲラチバナラヌ、陸軍ノ、ヲキテナリ

兵隊ハ 皇威ヲ 發揚シ 兵隊トイフモノハ、天子様 國家ヲ 保護スル爲メ

ニ 設ケ置カル、モノナレバ 國ヲ守ルタメニ、ヲカコフ此兵員ニ加ル者ハ

コノ兵ノカズニ 堅ク左ノ條件ヲ守リ 功タク、ヒダリニ、カ、ケ 違背スベ

カラズ ツムイテハ、
ナリマセン

第一條

誠心ヲ本トシ

マコトノ、コ、ロチユウセツ
ヲ、ヲモトシテ

忠節ヲ盡シ

オカミヘ、チウワ
ギヲ、ツクシ 不信

マコトデ、ナフチニウ
イコトヤ 不忠

チウギンヨ
テナイ所爲アルベカラザル事

ハナリマセン

第二條

長上ニミシノ人ニ

自分ヨリ、カ
敬禮ヲ盡シ

ケイレイヲ、
ツクシ

第輩ニ

自分ドモノ、
トモダニ

信義ヲ致シ
マコト、ギ

粗暴コトヤ

倍傲ノ

タカブル 所爲アル可ラ

ザル事
シカダガ、アリテ
ハ、ナリマセン

第三條 長上ノ命令ハ、イ、ツケハ、其事ノ如何ヲ問ハズ、ドウアロウガ
 トモ、ツレ直ナニサマ之ニ服従シ、タガヒ、シ抗抵ラヒ、干犯ノヲカス
 ハ、トハズ、直ナニサマ之ニ服従シ、タガヒ、シ抗抵ラヒ、干犯ノヲカス
 所爲アルベカラザル事ハ、ナリマセン

第四條 臆勇ヲ尙ヒ、イ、エウキヲ、イ、軍務ニ勉勵シ、ニ、シ、ン、ボウシ、恐怯
 ナク、ビ、柔懦ノケル所爲アルベカラザル事ハ、ナリマセン

第五條 血氣ノ小勇ニ誇リ、ワカザカリノ、キニマカシテ、チ、争鬪ヲ好ミ
 アラツヒヲ、他人ヲ侮慢シ、タニシテ、ア、世人ノ厭忌ヲ來ス等ノ、キヲウヨ
 コノンデ、他人ヲ侮慢シ、タニシテ、ア、世人ノ厭忌ヲ來ス等ノ、キヲウヨ
 ウニ、ナル所爲アルベカラザル事ハ、ナリマセン

第六條 道德ヲ修メ、ヨキヲコナヒテ、ジ、質素ヲ主トシ、ヲモトシテ、
 浮華文弱等ニ流ル、ノ、ウ、ワ、ベ、ノ、カ、ザ、リ、バ、カ、リ、所爲アル可ラザル事

シカダガ、アリテ
 ハ、ナリマセヌ

第七條 名譽ヲ尙ビ、ヨキ、ヒヨウパンヲ、ト、廉恥ヲ重シ
 賤劣コトヤ、貪汚キコトノ、所爲アルベカラザル事ハ、ナリマセン

以上掲ル所ノ外、カミニ、カ、ゲテアル、法律規則ニ違犯シ、モノアリコレニ
 ム、罪ヲ國家ニ得ルニ至テハ、ツミヲ、クニカラモフシツ、父祖ヲ辱シメ
 キ、罪ヲ國家ニ得ルニ至テハ、ツミヲ、クニカラモフシツ、父祖ヲ辱シメ
 ラヤ、センゾマ、家聲ヲ汚シ、家ノヒヨフハ、醜ヲ後世ニ遺シ、ハ、ル、イ、ヒ、ヨ、フ
 デ、ハ、ヅ、カ、シ、メ、家聲ヲ汚シ、家ノヒヨフハ、醜ヲ後世ニ遺シ、ハ、ル、イ、ヒ、ヨ、フ
 ヲマデ、ノ、獨リ、其身現在ノ恥辱ノミナラズ、ヒ、ト、リ、ジ、ア、ン、ノ、ミ、ノ、メ、ノ、マ
 コシテ、獨リ、其身現在ノ恥辱ノミナラズ、ヒ、ト、リ、ジ、ア、ン、ノ、ミ、ノ、メ、ノ、マ

況ンヤ重罪ノ如キハ、ツ、ノ、ウ、ヘ、ヲ、モ、イ、各人ノ、天賦ノ、天カラ、モ、公權
 ナモ、ヒ、ト、ナ、ミ、ニ、カ、タ、ヲ、ナ、ラ、ベ、テ、ハ、剽奪セラレ、ハイ、デ、ト、世ニ立チセケンニ
 ヲク、ヲ、ヤ、ケ、ナ、ケ、ン、リ、マ、デ、剽奪セラレ、ハイ、デ、ト、世ニ立チセケンニ
 人ニ接ルモ、ヒ、ト、ニ、ツ、キ、總テ對等ノ權利ヲ、ス、ベ、テ、人、ナ、ミ、得、ザ、ル、ニ、至、ル

ニ於テセウルコトガ、デキヌヨ名譽ヲ尙ビ廉耻ヲ重シズルノ軍人ニ在
テハヨキヒヨウバシラ、タツトビ、ハチラ、コトニカクモ戒慎ヲ加ヘサル可ラ
ズヲ、クハエチハオリマセン就中陸軍刑法ハナカニツイテ、陸軍ノツツ
害ヲ爲ス者ヲ軍隊ノワルイコト懲ス爲メニタメニ殊ニ設ケラル、モ
ノナルヲ以テカクベツニ、ヲカレ其刑亦タモ、マタ頗ルヨホシ
キビシウ、ゴシシ軍人ニシテ之ヲ犯セバ軍人デ、アツテ、コレ
ザリマス、軍人ニシテ之ヲカシタトキハ、管ニ本分ヲ誤リ
タ、ヲモノ、ツトノ軍隊ノ安寧ヲサマリラ害スルノミナラズ、ソコ
ヲ、アヤマリタリ、軍隊ノ安寧ヲサマリラ、害スルノミナラズ、ソコ
ハ、ナ遂ニ世人ノ信用ヲ損シテ、タル、コ、ロモ、ヘリテ、陸軍ノ榮譽ヲ
汚ス等陸軍ノ、ヒヨウバシラマソソ、其責更ニ重シマス、ノツツ、平素自ラ
ツツ、戒飾シキヲツケテ決レテ、違犯スベカラズ、ナリマセン

○所屬隊號

我所屬隊
號ヲ記入
スベシ

我所屬隊號ハ第 師團 兵第 聯隊第 大
隊第 中隊第 給養班ナリ

○所屬上官ノ官姓名

以下各官
ノ位階并
ニ等級姓
名ヲ書入
ルヘシ

中部都督 陸軍 將 爵 閣下
第 師團長 陸軍 中將 爵 閣下
第 師團參謀長 陸軍 兵 佐 殿
第 師團副官 陸軍 兵 佐 殿

全 陸軍 兵 尉
 第 旅團長
 陸軍少將
 第 旅團副官
 陸軍 兵
 全 陸軍 兵
 第 聯隊長
 陸軍 兵 佐
 聯隊附少佐
 陸軍 兵 少佐
 聯隊副官
 陸軍 兵 大尉

殿 下 殿 殿 殿 殿

聯隊旗手

陸軍 兵 少尉
 聯隊書記
 陸軍 兵 等軍曹
 全
 陸軍 兵 等軍曹
 聯隊武器係
 陸軍 兵 等軍曹
 聯隊喇叭長
 陸軍 兵 等軍曹
 聯隊縫工長
 陸軍 縫工長
 聯隊靴工長
 陸軍 靴工長

殿 殿 殿 殿 殿 殿

第 大隊長
陸軍 兵少佐
第 大隊副官
陸軍 兵中尉
第 大隊書記
陸軍 兵 等軍曹
全
陸軍 兵 等軍曹
第 大隊喇叭長
陸軍 兵 等軍曹
第 大隊武器係
陸軍 兵 等軍曹
第 大隊炊事係
陸軍 兵 等軍曹

殿 殿 殿 殿 殿 殿

全
陸軍 兵 等軍曹
全 銃工(下)長
陸軍 砲兵 銃工 長
第 中隊長
陸軍 兵 大尉
全 中隊附士官
陸軍 兵 尉
全
陸軍 兵 尉
全
陸軍 兵 尉
全
陸軍 兵 尉

殿 殿 殿 殿 殿 殿

特務曹長
ハ准士官
ナリ

同中隊附

陸軍 兵特務曹長

同中隊附下士

陸軍 兵曹長

同(給養掛)

陸軍 兵 等軍曹

同 陸軍 兵 等軍曹

同 陸軍 兵 等軍曹

同 陸軍 兵 等軍曹

陸軍 兵 等軍曹

三

殿 殿 殿 殿 殿 殿

同 陸軍 兵 等軍曹
同 陸軍 兵 等軍曹
同 陸軍 兵 等軍曹
同 陸軍 兵 等軍曹
同 陸軍 兵 等軍曹
同 陸軍 兵 等軍曹
同 陸軍 兵 等軍曹
同 陸軍 兵 等軍曹
同 陸軍 兵 等軍曹
同 陸軍 兵 等軍曹

三

殿 殿 殿 殿 殿 殿

同 陸軍 兵 等軍曹
同 陸軍 兵 等軍曹
同中隊附上等兵
陸軍 兵上等兵
同 陸軍 兵上等兵
同 陸軍 兵上等兵
同 陸軍 兵上等兵
陸軍 兵上等兵

殿 殿 殿 殿 殿 殿

同 陸軍 兵上等兵
同 陸軍 兵上等兵
同 陸軍 兵上等兵
同 陸軍 兵上等兵
同 陸軍 兵上等兵
同 陸軍 兵上等兵
陸軍 兵上等兵

殿 殿 殿 殿 殿 殿

同 陸軍 兵上等兵
同 陸軍 兵上等兵
同 陸軍 兵上等兵
陸軍 兵上等兵

殿 殿 殿 殿

餘白へハ
左ノ各官
ヲ記入ス
ヘシ

見習士官
諸工長
一年志願
兵士官候
補生六週
間現役兵
其他
屯在
憲兵將校
下士等

相當官之部

聯隊醫官(衛戍病院長)

陸軍 等軍醫正

全

陸軍 等軍醫

藥劑官

陸軍 等藥劑官

調劑手

陸軍 等調劑手

第 大隊醫官

陸軍 等軍醫

同副醫官

陸軍 等軍醫

殿 殿 殿 殿 殿 殿

同看護長

陸軍 等看護長

第 大隊醫官

陸軍 等軍醫

同副醫官

陸軍 等軍醫

同看護長

陸軍 等看護長

第 大隊計官

陸軍 等軍吏

同會計書記

陸軍 等書記

第 大隊計官

陸軍 等軍吏

殿 殿 殿 殿 殿 殿

同會計書記
陸軍 等書記

所屬外上官ノ官姓名

第 大隊長
陸軍 兵少佐

第 大隊副官
陸軍 兵中尉

第 大隊長
陸軍 兵少佐

第 大隊副官
陸軍 兵中尉

第 中隊長
陸軍 兵大尉

殿 殿 殿 殿 殿 殿

第 中隊長
陸軍 兵大尉

第 中隊長
陸軍 兵大尉

第 中隊長
陸軍 兵大尉

第 中隊長
陸軍 兵大尉

第 中隊長
陸軍 兵大尉

第 中隊長
陸軍 兵大尉

第 中隊長
陸軍 兵大尉

第 中隊長
陸軍 兵大尉

殿 殿 殿 殿 殿 殿 殿 殿

第 中隊長

陸軍 兵大尉

第 中隊長

陸軍 兵大尉

第 中隊長

陸軍 兵大尉

相當官之部

第 大隊醫官

陸軍 等軍醫

同副醫官

陸軍 等軍醫

同看護長

陸軍 等看護長

殿

殿

殿

殿

殿

殿

第 大隊醫官

陸軍 等軍醫

同副醫官

陸軍 等軍醫

同看護長

陸軍 等看護長

第 大隊計官

陸軍 等軍吏

同會計書記

陸軍 等書記

第 大隊計官

陸軍 等軍吏

同會計書記

陸軍 等書記

殿 殿 殿 殿 殿 殿

都督師團長旅團長官姓名

東京灣防禦總督

陸軍 將

爵

閣下

東部都督

陸軍 將

爵

閣下

中部都督

陸軍 將

爵

閣下

西部都督

陸軍 將

爵

閣下

近衛師團長

陸軍 將

爵

閣下

近衛第一旅團長

陸軍 少將

閣下

近衛第二旅團長

陸軍 少將

閣下

第 師團長

陸軍 中將

爵

閣下

第 旅團長

陸軍 少將

閣下

第 旅團長

陸軍 少將

閣下

師團長

陸軍 中將

爵

閣下

第 旅團長

陸軍 少將

閣下

第 旅團長

陸軍 少將

閣下

第 師團長
陸軍中將
第 旅團長
陸軍少將
第 旅團長
陸軍少將
第 師團長
陸軍中將
第 旅團長
陸軍少將
第 師團長
陸軍中將

爵

爵

爵

閣下
閣下
閣下
閣下
閣下
閣下

第 旅團長
陸軍少將
第 旅團長
陸軍少將
第 師團長
陸軍中將
第 旅團長
陸軍少將
第 旅團長
陸軍少將
第 師團長
陸軍中將
第 旅團長
陸軍少將

爵

爵

閣下
閣下
閣下
閣下
閣下
閣下

第 旅團長
陸軍少將
第 師團長
陸軍中將
第 旅團長
陸軍少將
第 旅團長
陸軍少將
第 師團長
陸軍中將
第 旅團長
陸軍少將
陸軍少將

爵

爵

閣下 閣下 閣下 閣下 閣下 閣下

第 師團長
陸軍中將
第 旅團長
陸軍少將
第 旅團長
陸軍少將
第 師團長
陸軍中將
第 旅團長
陸軍少將
第 師團長
陸軍中將
陸軍中將

爵

爵

爵

閣下 閣下 閣下 閣下 閣下 閣下

第 旅團長
陸軍少將
第 旅團長
陸軍少將

閣下
閣下

○兵 役

一 常備軍ハ平素旗下ニ在テ兵役ニ服スル軍人ヲ以テ編制スル者ナリ該軍人ヲ分テ現
役兵豫備役兵トナシ現役兵ハ三ケ年間屯管内ニ在テ服役シ豫備役兵ハ現役兵ノ豫
備ニシテ常ニ郷里ニ在テ兵役義務ヲ負ヒ戰時或ハ事變ニ際シ召集ニ應シ直ニ常備
軍ヲ充實シ又ハ補充隊ヘ編入スル者ナリ其服役ハ現役ヲ終リテ四ケ年四ケ月ナリ
一 後備軍ハ常備兵役ヲ畢リタル軍人ヲ以テ編制シ該兵ハ郷里ニ在テ産業ヲ營ミ戰時
或ハ事變ニ際シ召集ニ應シ軍務ニ服スル者ナリ其服役ハ豫備役ヲ終リタルヨリ五
ケ年ナリ

一 國民軍ハ滿十七歳ヨリ滿四十歳ニ至ルノ男子ニシテ常備后備役ニアラサル者ヲ以
テ編制スルモノナリ該男子ハ概テ全國大舉ノ際召集ニ應シテ常備軍ヲ補翼スルモ
ノナリ

○部隊の識別

一 陸軍ニ五種ノ戰列兵ト三種ノ非戰列兵アリ
一 戰列兵トハ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵ナリ
一 非戰列兵トハ憲兵軍樂隊電信隊ナリ
其他第七師團タル屯田兵ナルモノアリ各兵科共ニ北海道ニ在テ兵農相兼スルモノ
ナリ
一 各兵種ノ職務
一 步兵ハ小銃ヲ使用シ徒歩ニテ戰フモノ
一 騎兵ハ騎銃又ハ刀鎗ヲ使用シ馬上ニテ戰フモノ

三砲兵ハ大砲ヲ使用シ戰フモノ
 四工兵ハ堡壘ヲ築キ道路ヲ設ケ軍橋ヲ架シ電信線ヲ張り鐵道ヲ布設スルモノ
 五輜重兵ハ軍用ノ諸物品ヲ運送スルモノ
 六憲兵ハ軍人不規則ナルモノヲ糾シ兼テ地方ノ警察ヲナス者

軍制之部

問 軍人入隊ノ始メ中隊長ハ讀法ヲ讀ミ聽カセ、宣誓式ヲ行ハレ聯隊長ハ軍旗ヲ樹テ勅諭ヲ讀ミ聞カセラレテ入隊式ヲ行ハレシハ何ノ爲ト思フカ
 答 軍人トナリ誠意忠君愛國ヲ旨トシ職務ニ勉勵シ國家保護ノ義務ニ背カナイコトヲ盟ヒシモノデアリマス
 問 軍旗トハ如何ナル者カ
 答 天皇陛下ヨリ我々聯隊ニ授ケ賜ハリタル旭日旗章デアリマシテ眞ニ一國ヲ代表シ又我々軍人ノ忠節ト榮譽ヲ表章スル者デアリマス故ニ旗下ノ軍人ハ最モ之ヲ尊崇シ忠實ト勇敢トヲ以テ之ヲ奉護セテバナラヌモノデアリマス

◎軍人ノ堅ク肝銘シテ瞬時モ忘ルベカラザル一事アリ左ニ掲ク

軍旗授與ノ勅語

某聯隊編制成ルヲ告ク仍テ今軍旗一旒
ヲ授ク汝軍人等協力同心シテ益威武ヲ
宣揚シ以テ帝國ヲ保護セヨ

聯隊長ノ奉答文

謹テ明勅ヲ奉ス臣等死力ヲ竭シ
誓テ國家ヲ保護セン

讀法

問 讀法トハ如何ナルモノカ

答 軍人ノ常ニ心得テ居ラテハナラヌ陸軍ノ掟デアリマ
ス

問 兵隊ハ何ノ爲メニ設ケ置カル、モノカ

答 皇威ヲ發揚シ國家ヲ保護スル爲メニ設ケ置ル、モノ
デアリマス

問 讀法ノ七ヶ條ハ如何

答 第一條 誠心ヲ本トシ忠節ヲ盡シ不信不忠ノ所爲ア
ル可カラザル事

第二條 長上ニ敬禮ヲ盡シ等輩ニ信義ヲ致シ粗暴倨傲
ノ所爲アル可カラザル事

第三條 長上ノ命令ハ其事ノ如何ヲ問ハス直チニ之ニ

服從シ抗抵干犯ノ所爲アル可カラサル事
 第四條 膽勇ヲ尙ヒ軍務ニ勉勵シ恐怯柔懦ノ所爲アル可カラサル事
 第五條 血氣ノ小勇ニ誇リ争鬪ヲ好ミ他人ヲ侮慢シ世人ノ厭忌ヲ來ス等ノ所爲アル可ラザル事
 第六條 道德ヲ修メ質素ヲ主トシ浮華文弱ニ流ル、等ノ所爲アル可カラザル事
 第七條 名譽ヲ尙ビ廉恥ヲ重シ賤劣貪汚ノ所爲アル可カラザル事

勅諭

問 勅諭トハ如何ナルモノカ
 答 天皇陛下ヨリ仰セ出サレタル御諭ヲ申シマス
 問 勅諭五ヶ條ハ如何

常備團隊
配備及編
成

答 第一條 軍人ハ忠節ヲ盡スヲ本分トセ子バナラヌ事
 第二條 軍人ハ禮義ヲ正シクセ子バナラヌ事
 第三條 軍人ハ武勇ヲ尙バ子バナラヌ事
 第四條 軍人ハ信義ヲ重ンゼ子バナラヌ事
 第五條 軍人ハ質素ヲ主トセ子バナラヌ事
 問 軍人ノ第一ニ心得ベキ事如何
 答 誠心ヲ本トシ忠節ヲ盡ス事
 問 日本帝國ノ陸軍ハ幾師團ナルカ
 答 近衛師團及十二師團
 問 屯田兵トハ何師團ノ事ナルヤ
 答 第七師團
 問 近衛師團ト十一師團司令部及第七師團タル屯田兵ノ

所在地如何

答 近衛師團東京 第一師團東京 第二師團

第三師團 第四師團 第五師團

第六師團 第七師團(屯田兵)北海道

第八師團 第九師團 第十師團

第十一師團 第十二師團

問 師團ノ編制如何

答 步兵二旅團 騎兵一聯隊 野戰砲兵一聯隊 工兵一

大隊 輜重兵一大隊

(注意)此外軍樂隊

近衛及第四師團ハ現
設、第一師團ノ分ハ
當時戶山學校ニ屬ス

要塞砲兵聯隊

同第一聯隊橫須賀
同第二聯隊由良
同第三聯隊未定
同第四聯隊下ノ關

問 我師團ノ步兵旅團司令部ノ所在地如何

中隊定員

答 步兵第 旅團司令部

步兵第 旅團司令部

問 步兵一旅團ハ聯隊幾ツカ

答 二聯隊

問 我師團ノ步兵聯隊ノ所在地如何

答 步兵第 聯隊 步兵第 聯隊

步兵第 聯隊 步兵第 聯隊

問 中隊平時ノ將校下士兵卒ノ員數幾何

答 人

問 中隊戰時ノ増員幾何

答 豫備役兵 名

陸軍武官々等階級表

問 歩兵ノ定色如何

答 緋

問 騎兵ノ定色如何

答 萌黃

問 砲兵ノ定色如何

答 黃

問 工兵ノ定色如何

答 鳶

問 輜重兵ノ定色如何

答 藍

問 監督部ノ定色如何

答 銀鼠

問 軍吏部ノ定色如何

答 花色藍

問 軍醫部ノ定色如何

答 深綠

問 軍樂部ノ定色如何

答 紺青

問 第七師團タル屯田兵各兵科ノ定如何

答 一般師團各兵科ニ全シ

問 憲兵、騎兵、軍樂部ノ袴地色及側章如何

答 袴地色ハ茜、側章ハ憲兵ノミ黒ニシテ他ハ定色ヲ用ユ

問 將官及相當官ノ前立ハ如何

答 長キ白色ノ羽毛

問 佐、尉官及及相當官ノ前立ハ如何

答 短カキ白色ノ羽毛

問 第一種帽ノ地悉ク緋ナルハ何カ

答 近衛師團

問 第一種帽上部緋、下部黒天鷲絨ナルハ何カ

答 憲兵

問 第一種帽ノ地色茜ナルハ何カ

答 軍樂部

問 將官・上長官 士官ノ正帽、縦章金線ノ數幾何

答 將官三條 上長官二條 士官一條

問 少將及大佐ノ第一種帽ノ横章金線ノ數幾何

答 少將ハ大線ヲ大線ハ小線六條一條ニ小線一條 大佐ハ

小線ノミ六條

問 第二種帽ノ横章緋色ニテ大線二條小線二條アルモノハ何カ

答 將官

問 第二種帽ノ横章大線二條、小線一條アルモノハ何カ

答 上長官

問 其緋色ナル者ハ何カ

答 近衛ノ上長官

問 第二種帽ノ横章大線二條アルハ何カ

答 士官

問 少將ト大佐ノ袖章ノ數幾何

答 少將五條 大佐六條

問 少將ト中佐ノ袖章ハ數同等ナルニ何處ヲ以テ見分ル
カ正服ト軍服トヲ別ケテ答ヘヨ

答 正衣 將官ハ正衣ノ袖口ニ凸起章ノ龜甲形ノ金線アリ
山形ノ金線ノ軍衣 將官軍衣ノ袖章ハ環數三層アリマス

問 將官及相當官ノ軍袴ノ側章ノ線數幾何

答 大線二條小線一條

問 白絨ノ單袴ヲ着スルモノハ何カ

答 將官

問 將官ノ外套ノ袖章如何

答 金線一條ニシテ每級一個ヨリ三個ノ金星ガ附ケテア
リマス

問 佐官ノ外套ノ袖章如何

答 金線及黃絨線各一條

問 尉官ノ外套ノ袖章如何

答 黃絨線一條

問 黃ト白ノ平織ノ懸章ヲ懸クルモノハ何カ

答 高等官衙ノ副官

問 白ト緋ノ平織ノ懸章ヲ懸クルモノハ何カ

答 衛戍ノ巡察將校及週番將校

問 襟ニ銀星二個ヲ附シタルモノハ何カ

答 士官候補生

問 上衣ニ緋又ハ黃ノ胸飾ヲ附シ袴地舊色ナルモノハ何
カ

答 緋色ハ近衛騎兵ニシテ黃色ハ師團騎兵

勳章ノ種類

問 勳章ノ種類ヲ大別シテ幾種トナスカ又其名稱如何
答 五種ニシテ菊花章 旭日章 瑞寶章 金鷄章 寶冠章

問 菊花章ノ名稱ハ如何

答 大勳位菊花大綬章 大勳位菊花章

問 旭日章ノ等級及名稱如何

答 勳一等ヨリ勳八等迄其名稱ハ勳一等 旭日大桐花大綬章
勳二等旭日重光章 勳三等旭日中綬章 勳四等旭日

小授章 勳勳五等旭日双光章 勳六等旭日單光章

勳七等青色桐葉章 勳八等白色桐葉章

問 瑞寶章ノ等級如何

答 勳一等ヨリ勳八等迄

問 金鷄章ハ如何ナル者ニ賜ハルカ

答 武功拔群ナル者ニ授ケラレマス

問 金鷄章ノ等級如何

答 功一級ヨリ功七級マデ

問 寶冠章ハ如何ナル者ニ賜ハルカ

答 婦人ノ勳勞アル者ニ授ケラレマス

問 寶冠章ノ等級如何

答 勳一等ヨリ勳五等マデ

問 勳章ノ外ニ如何ナル記章アルカ

答 從軍記章 憲法發布式紀念章 赤十字社員章

問 從軍記章トハ如何ナルモノカ

答 將卒ノ別ナク軍功ノ有無ヲ論セス外國ニ關スル戰役

ニ從軍セシ者ニ凱旋ノ後チ之ヲ授ケラル、モノデアリ
マス

問 大勳位菊花大綬章ノ佩用所如何

答 大綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ニ垂レ其副章即チ菊花章ヲ

左肋ニ佩ビ且ツ頸飾ヲ佩用シマス

問 一等勳章及其副章ノ佩用所如何

答 大綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ニ垂レ其副章勳二等ヲ左肋

ニ佩ビマス

問 右ノ佩用所ハ旭日章ト瑞寶章ト異ナルカ

答 同シ

問 二等勳章及其副章ノ佩用所ハ如何

答 右肋ニ佩ヒ其副章勳三等ヲ中綬ヲ以テ喉下ニ佩ビマ

叙
勳

ス

問 勳二等瑞寶章ハ其副章アルカ

答 ナシ

問 三等勳章ノ佩用所如何

答 中綬ヲ以テ頸ヲ廻ハシ之ヲ喉下ニ佩ビマス

問 四等勳章以下ノ佩用所如何

答 小綬ヲ以テ左肋ニ佩ビマス

問 勳位ニ叙スベキ者ヲ別チ三トナス其名稱如何

答 勳勞 勳功 殊功

問 勳勞トハ如何ナルモノカ

答 全ク平時ノ者ニシテ積年ノ功績顯著ナルモノデアリ

マス

問 勳功トハ如何ナルモノカ

答 平時戰時ニ係ルモノニシテ

一 忠勇ニ依リ模範トナル者

二 内外ヲ論セズ四回ノ戰役及滿三年以上戰地ニ在
ル者

三 要衝ノ敵ニ當リ先登シテ功ヲ立ツル者

四 敵數人ヲ殲シテ其功彰明ナル者

五 對敵中創傷ヲ蒙リ勳位ニ叙スベキ理由アル者ト
デアリマス

問 殊功トハ如何ナル者カ

答 戰爭中特殊ノ勳功アルモノニシテ

一 敵ノ隊旗ヲ奪ヒ其功ヲ立テタル者

二 長官ノ危急ヲ救ヒ其功ヲ立テタル者

三 敵將ヲ殲シ或ハ捕獲セシ者

四 敵中ヲ通過シテ使命ヲ全フセシ者

五 勇敢忠烈ノ所爲ニ依リ全軍ノ利益ヲ得ル者トデ
アリマス

問 下タル者上タル者ニ對スル尊稱如何

尊稱
及稱呼

答 天皇、皇后、皇太后ニ對シ奉リテハ陛下ト申シ奉リ皇太

子及皇族ニハ殿下又將官ニハ閣下、上長官以下ニハ殿ト

申シマス

問 直接ニ皇族、將官及上長官以下ニ對シテ之ヲ呼フキハ
尊稱如何

答 皇族ニ對シテハ單ニ殿下、將官ニ對シテハ何官閣下、上

物品裝置

長官以下ニハ何官殿ト申シマス
 問 他人ニ對シ皇族、將官及上長官以下ヲ呼フハ如何
 答 皇族ハ某親王殿、下、將官ハ某何官閣下、上長官以下ハ某何官殿ト申シマス
 問 場合ニ依リ職名ヲ呼フモ妨ケナシ此時ノ尊稱如何
 答 師團長閣下、旅團長閣下、聯隊長殿、大隊長殿、中隊長殿、小隊長殿、分隊長殿ト申シマス
 問 裏ヲ顯ハシ疊ミ置ク被服ハ何カ
 答 外套
 問 物品ヲ蒲團又ハ寐臺ノ下ニ置テ可ナルカ
 答 宜シクアリマセン
 問 村田運發銃ノ如キ鉄具ハ常ニ如何手入ヲシテ置クカ

起居ノ定則

答 錆蝕セザル様最モ注意シ常ニ油ヲ塗り然ル后布巾ヲ以テ之ヲ拭ヒ置キマス
 問 革具ノ手入法如何
 答 革具ハ光澤油ヲ塗り能ク磨棒ニテ擦リ刷毛ニシテ光澤ノ出ル迄磨キ置キマス
 問 絨製ノ衣袴着用后ノ注意如何
 答 刷毛ニテ塵ヲ拂ヒ能ク手入ヲナシテ包布ニ包ミ置キマス
 問 毎朝點呼ノ號音ニテ如何ナルヲナスカ
 答 兵卒ハ舍内ニ在テ點呼ヲ受ケ病氣ノ者ハ其趣ヲ給養班長ニ届ケ出マス
 問 日朝點呼ノ後窓戸ヲ開クハ何ノ爲ノカ

答 新シキ空氣ヲ通ハス爲メテアリマス
 問 毎朝洗面後如何ナルヲナスカ
 答 武器ヲ清拭シ被服ヲ整頓シマス
 問 臥床ノ準備ヲ何時ナスカ
 答 午食後
 問 當番卒毎朝朝食事ノ後ナスベキヲ如何
 答 室内ノ掃除ヲシマス
 問 室内掃除ノ後注意スベキヲ如何
 答 一切不潔ナラザル様注意シ且物品ヲ錯亂シ或ハ所定
 ノ外ニ持チ行カナイトニ注意シマス
 問 起床後ヨリ日夕點呼迄ノ間ニ於テ寢臺ニ就クヲ許サ
 ルカ

答 寢臺ニ就クヲ許サレナイノミナラズ腰ヲ掛クルヲモ
 出來マセヌ然レモ衛兵及夜巡ヲナシタルモノト暑中
 后ニ於テ二時間臥床休憩ヲ許サル、并及其他聯隊長ヨ
 リ別ニ許可セラレタルモ此限リデハアリマセヌ
 問 吟歌及高聲ニ雜話シテ可ナルヤ
 答 惡シ
 問 喫食中ノ心得如何
 答 殊ニ行儀ヲ正シ靜肅ヲ旨トシマス
 問 喫烟ヲナスヘキ場所舍内ニテハ如何
 答 舍内備付ノ火鉢ノ外ニテナスコトハ出來マセヌ
 問 舍外ニテハ如何
 答 舍外ト雖モ火藥庫薪炭庫ノ如キ火害ノ恐レアル近傍

ニテナスコトハ出来マセヌ

問 室内ニ妄リニ釘ヲ打付テ可ナルカ

答 不可

問 窓戸、腰掛、暖室爐、其他ノ諸器具ヲ汚シ傷ケ或ハ落書シ

テ可ナルカ

答 不可

問 窓戸ヨリ流動物其他ノ物品ヲ投棄シ又ハ窓ノ縁ニテ

物ヲ切ツテ可ナルカ

答 不可

問 無用ノ者ノ行ク可カラサル場所ハ如何

答 庖厨、洗濯場、浴室、職工場

問 燈火ヲ他所ニ持チ行キテ可ナルカ

答 不可

問 燈火ハ消燈號音ニテ消燈スヘキモノトス廊下ノ燈火

ハ如何

答 終夜之ヲ消シマセヌ

問 許可ナキ物品ヲ妄リニ管内ニ持チ入レテ可ナルカ

答 不可

問 室内ニ入ルル靴ニ付テノ注意如何

答 必ず靴ノ泥土ヲ叮嚀ニ拭フモノデアリマス

問 暖室爐ニ付テノ注意如何

答 其蓋ヲ取り炭酸氣ヲ室内ニ入ル、ヲ禁シ又消燈后ハ

其餘焰ニ注意セテバナリマセヌ

問 靴ハ何レニ於テ手入チナスヘキモノカ

答 舍外

問 窓戸ヲ閉ツルキノ注意如何

答 間隙ナキ様注意シマス然ラサレハ賊風ノ爲メ健康ヲ害スルモノデアリマス

問 身体ノ不潔ハ如何ナル害アルカ

答 健康ニ害ガアリマス

問 身体ノ清潔法如何

答 頭面手足ヲ洗ヒ爪ヲ剪リ齒ヲ磨キ總テ身体ヲ清潔ニシマス頭髮ハ軍人ノ容儀ニ關リマスカラ成ルヘク短ク剪髮シマス

問 室内ニ於テ上衣ヲ脱シ胸部ヲ開キ靴ヲ脱テ可ナルカ

答 不可併シ聯隊長ヨリ許可セラレタルキハ此限リデハ

アリマセヌ

問 諸物品ヲ破損セシ者ハ如何ナルカ

答 事柄ニヨリ罰ヲ蒙リ又其代價ヲ償ハナケレバナリマ

問 起居ノ定則ハ實行セザルモ妨ケナキヤ

答 必ズ實行セテバナリマセヌ若シ之ヲ犯セバ罰ヲ蒙リ

問 軍人ノ服従上ハ如何ナルモノカ

答 能ク上下ノ分ヲ立テ、上官ノ云ヒ付ケニ背カヌ様ニ

シ假令同シ兵卒ニテモ舊キ者ニハ從テ行ク事ヲ申シマ

問 衛兵等ノ勤務中兵卒ハ將校、下士ニ對シ如何ナル權ヲ

服従ノ定則

有テルカ
 答 其職掌ノ權ヲ有スルヲ以テ勤務上ニ就テハ決シテ其
 權ヲ犯サレナイモノデアリマス
 問 上タル者ヨリ命令アルキハ如何心得ヘキヤ
 答 命令ハ謹テ之ヲ守リ直チニ之ヲ行ヒマス
 問 下タル者上タル者ニ對シ其命令ノ原因主意等ヲ詰問
 スルヲ得ベキカ
 答 決シテ出來マセン
 問 命令不分明ナルキハ如何
 答 謹テ之ヲ尋問スルハ妨グアリマセヌ
 問 新ニ受クル所ノ命令ト以前ノ命令ト齟齬スルキハ如
 何スベキヤ

檢査ノ定 則 私物 請願

答 其趣ヲ申述テ然ル后之ヲ行ヒマス
 問 犯罪アリテ罰ヲ蒙ムルキ若シ不當ト思フキハ如何ス
 ルカ
 答 假令不當ト思フモ決シテ辨解スルコトナク必ず服從シ
 マス
 問 毎土曜日清潔檢査ニハ如何ナル事ヲ檢査セラル、カ
 答 諸物品ノ清潔修理ニ付テ下士卒ノ居室、武器、工具、材料
 被服、其他ノ物品ヲ檢査セラル、モノデアリマス
 問 兵卒私物ヲ調製セントスルキハ如何ナル手續キチナ
 スカ
 答 品質ヲ明記シ順序ヲ經テ中隊長ノ許可ヲ請ヒマス
 問 總テ請願訴訟アルキハ順序ニ係ラズ誰ニ申立ルモ可

ナルヤ

答 必ズ順序ヲ經テ申立テナケレバナリマセヌ

問 若シ上等兵ニ對シ訴ヘル事アル片ハ如何スルカ

答 他ノ上等兵ニ申述ヘマス

問 訴訟ハ書附ヲ以テ申立ルモ可ナルカ

答 口上ヲ以テ申立ツルモノデアリマス

問 若シ病氣等ニテ申出難キ片ハ如何スルカ

答 同輩中最モ善良ノ人ニ限り之ヲ頼ミマス

問 如何ナル事ト雖モ兵卒二人申合セ訴へ出ルヲ得ルカ

答 出來マセヌ若シ之ヲ犯ス者ハ徒黨ノ罪ニ處セラレマ

ス

問 凡ソ使役ニ充ツル所ノ兵卒ニ二種アリ其名稱如何

則 使役ノ定

答 當番卒ト從卒

問 當番卒トハ如何ナルモノカ

答 命令使、書翰使、其他ノ雜役ニ使用スルモノニシテ廿四

時間毎ニ交代スルモノデアリマス

問 當番卒ノ服裝如何

答 營内使役ノ外第一種第四裝服ヲ着シ第二種帽ヲ冠リ

劍ヲ佩ヒ脚絆ヲ着シマス若シ外套ヲ携フル片ハ卷テ左

肩ヨリ右腋下ニ掛クルモノデアリマス

問 當番卒ノ不注意ヨリ生シタル器具ノ破損ハ如何ナル

カ

答 其者ヲシテ代價ヲ償ハセマス若シ其本人不分明ナル

片ハ其受持ノ當番卒一同ヨリ之ヲ償ハセマス

問 中隊室内ノ當番卒ハ如何ナル事ヲナスモノカ
 答 食事ノ運搬及室内、廊下等ノ掃除窓机ノ淨拭其他物品
 ヲ清潔ニシテ「ランブ」ヲ磨キ冬日ハ煖室爐ヲ焚キ及ビ之
 ヲ掃除シ破損ナキ様注意スルモノデアリマス
 問 諸演習或ハ勤務等ニテ中隊或ハ其班悉皆出場スルハ
 當番卒ノ半員殘留ス殘留者ノ任務如何
 答 週番上等兵ノ命ヲ受ケ室内諸物品ノ監視ニ任ジマス
 問 從卒ハ何年兵ヨリ撰拔セラレ、カ
 答 第二年兵若クハ第三年兵
 問 從卒ノナスベキト如何
 答 將校ノ兵器被服等ヲ拭淨シ傳令ノ勤務ニ任シ其他、將
 校身邊ノ用向ヲ辨ズルモノデアリマス又將校出務中ハ

外出ノ定則

其所在當番勤務ヲ兼ヌルトモアリマス
 問 從卒ハ諸勤務ヲ免除セラレ、カ
 答 然リ
 問 諸檢査及演習ニハ出場スベキカ
 答 必ズ出場セナケレバナリマセヌ
 問 從卒ハ屯營ヲ出入スル外ハ常ニ定制ノ服裝ヲナサズ
 シテ可ナルカ
 答 常ニ定制ノ服裝ヲナサナクテモ妨ダハアリマセヌ
 問 從卒ノ屯營ヲ出入スルルノ服裝如何
 答 總テ當番卒ト同様デアリマス
 問 日曜日其他ノ休業日及ヒ日々午後演習濟ヨリ下士及
 ヒ特務曹長ハ何時迄外出ヲ許サル、カ

休
暇

答 下士ハ日夕點呼迄特務曹長ハ午後十二時迄

問 下士兵卒外出スル時ノ服裝如何

答 第二種帽ヲ冠リ劍或ハ刀ヲ帶ヒ手牒ヲ携ヘマス若シ
外套ヲ携フルキハ卷テ左肩上下ヨリ右腋下ニ掛ケ雨天泥
濘等ノキハ脚絆ヲ袴上ニ着ケマス
又正裝ニテ第一種帽ヲ冠リシキハ前立ヲ除キマス

問 兵卒ノ休暇ニ三種アリ其名稱如何

答 慰勞 褒賞 請願

問 慰勞休暇ハ如何ナルキニ附與セラル、カ又其日數如
何

答 兵卒演習等ノ爲メ數日山野ヲ跋涉シ其勞多キ者ニ臨
時與ヘラレマスモノニテ其日數ハ通常三日以内デアリ

マス

問 褒賞休暇ハ如何ナルモノニ賜與セラル、カ及其日數

ハ如何

答 在營ノ兵卒行狀方正、勤務勉勵ニシテ且ツ學術、技藝ニ
熟達シ他人ノ模範トナルベキ者ニ賜ハリマス其日數ハ
通常一ヶ月ニ一日デアリマス

問 請願休暇ハ如何ナルキ許可セラル、カ又其日數ハ如
何

答 父母ノ疾病又ハ死亡等ニテ飯郷ヲ要スルキ親族ノ出
願ニヨリ之ヲ許サレマスモノニテ其日數ハ往復ヲ除キ
二週間以内ノモノデアリマス

問 休暇ヲ得テ飯郷又ハ旅行ノ者休暇日數ヲ延ヘル事ヲ

得ルカ

答 如何ナル事故ニ遭遇スルモ休暇日數ヲ延ブル事ハ出來マセン

問 右ノ場合ニ於テ本人病氣ニテ出發シ難キニ依リ延期ヲ請ハントスルルキハ如何ナル手續ヲナスカ

答 地方醫師ノ診斷書ヲ添へ出願シテ命ヲ待チマス

問 途中發病又ハ船待、川留、雪支等ニテ不得止休暇日數ヲ經過スル場合ニ在テハ如何ナル手續ヲナスカ

答 地方醫師ノ診斷書或ハ市町村長ノ証明書ヲ請ヒ、販着ノ上差出シマス

問 陸軍懲罰令ハ如何ナルモノヲ懲戒スル罰典カ

答 軍人ノ故意、疎虞、懈怠、過失ノ輕犯ニシテ刑法ニ該ラナ

陸軍懲罰令

イモノ及素行修ラス軍人ノ体面ヲ汚スモノアルル之ヲ

懲戒スルノ罰典デアリマス

問 諸卒ニ科スベキ罰目ヲ二種トス如何

答 重營倉 輕營倉

問 營倉入ノ者ハ着用スル被服及ビ特ニ許可スルモノ、外物品ヲ營倉内ニ入ル、イヲ得ルカ

答 決シテ入ル、イハ出來マセン

問 營倉入ノ者ハ演習ヲナサシムルカ

答 出場サセマス

問 營倉ニ處セラル、者ノ俸給ハ如何

答 俸給ヲ減セラレマス

問 營倉ヲ苦役ニ換ユルルキハ其日數ハ如何

營倉ノ定

答 一日ノ重營倉ニ苦役三日 輕營倉ニ苦役二日ニ換ヘ
ラレマス

問 苦役ハ營外ニ出ツル事ヲ得ルカ

答 勤務演習ノ外營外ニ出ツル事ハ出來マセン

問 苦役トハ如何ナル事ヲナスカ

答 雜役ヲ執ルモノデアリマス

懲罰犯行ノ項目

- 一 職務ノ權限ヲ誤ル者
- 一 訓導ノ道ヲ失フ者
- 一 上申、下達其他定期アル時日ヲ稽緩スル者
- 一 文書計算ヲ誤ル者
- 一 命令ヲ誤リ若シクハ之ヲ誤リ傳フル者

一 物件ノ調製貯藏運搬支給ヲ誤ル者

一 職役若シクハ屯營本隊ヲ離ル、者 六日以上ハ刑法ニヨル

一 他方ニ赴キ歸着ノ期ニ後ル、者 十日以上ハ刑法ニヨル

一 行軍ニ際シ發程及ヒ乘艦ノ期ニ後ル、者

平時十日戰時五日ヲ過
クレバ刑法ニヨル

一 召集ノ期ニ後ル、者

一 受寄ノ財物若シクハ借用物ヲ典却スル者

一 官物ヲ擅用スル者

一 法則命令ヲ遵奉セス若クハ之ヲ誹謗スル者

一 罵詈侮慢若シクハ鬪爭スル者

一 暴行脅迫スル者

一 猥褻ニ劍ヲ拔ク者

一 酩酊シテ事ヲ省セサル者

- 一言語所爲詐偽ニ涉ル者
- 一疾病事故ニ托シ勤務演習ヲ免レントスル者
- 一抗言恃頑從順ノ道ヲ失フ者
- 一犯罪アルヲ知リテ之ヲ曲庇スル者
- 一勤務演習集合ノ期ニ後レ若シクハ之ヲ缺キ若クハ之ヲ解ル者
- 一服裝法ニ違フ者
- 一禮節式ニ違フ者
- 一官給ノ物件措置拭拂法ニ違フ者
- 一物件ヲ誤毀遺失若シクハ汚損スル者
- 一失言過語若シクハ應答ノ事理ヲ誤ル者
- 一軍人ノ態度ヲ失フ者

陸軍刑法

- 一上ニ掲クル犯目ノ外素行修ヲサル者
- 問 陸軍刑法トハ如何ナルモノカ
- 答 軍紀ヲ維持シ軍隊ヲ保護スルニ在ルヲ以テ其害ノ大小輕重ヲ量リ權衡ヲ定ムルモノニシテ最モ嚴ナルモノテアリマス
- 問 陸軍刑法ニテ罰スヘキ罪ヲ別チテ二種トス其名稱ハ如何
- 答 重罪 輕罪
- 問 重罪ノ主刑九アリ其名稱如何
- 答 死刑 無期徒刑 有期徒刑 無期流刑 有期流刑 重懲役 輕懲役 重禁獄 輕禁獄
- 問 輕罪ノ主刑ニニアリ其名稱如何

答 重禁錮 輕禁錮

問 重罪及輕罪ノ項目ハ如何

答 反亂 抗命 暴行 侮辱 違令 逃亡 詐偽 結黨

問 赤十字條約ハ如何ナル事ヲ誓ヒシモノカ其要旨ヲ問

フ

答 赤十字條約ニ與リシ同盟國ニ對シテハ敵ト雖ヒ我ニ

抗敵ノ心ヲ減シ其力ヲ失ヘバ則チ之ヲ敵視スル事ナキ

等ノ事ヲ誓ヒシモノデアリマス

問 赤十字同盟ノ國々相互ノ間不幸ニシテ戰爭ヲ開キ彼

我對戰スルキ彼若シ兵器ヲ捨テ、抗敵ノ狀ヲ止ムルキ

ハ如何

答 敵ト見做ス事ハ出來マセン

赤十字條約摘要

問 同上戰爭中軍人傷ヲ受ケ敵地ニ陷ルキハ如何

答 殘酷ノ取扱ヲ受ケズ却テ其尊敬救護ヲ受ケルモノデア

アリマス

問 戰、酣ニシテ互ニ接戰奮闘スルキ敵我カ爲メニ傷ケラ

レ兵器ヲ棄テ、退カハ如何

答 復ヒ之ニ兵器ヲ向クルコトハ出來マセン

問 我兵敵陣ヲ破リ其敗走スルヲ追撃スルキ敵若シ患者

ヲ遺シテ退カハ其患者ニ對シテハ如何スベキヤ

答 銃劍ハ勿論侮辱ヲモ加ヘズ且ツ之ニ向テ互ニ軍人タ

ルノ禮義ヲ正シクシ尊敬ノ意ヲ盡サナケレバナリマセ

ス

問 戰地ニ設ケタル綑帶所並ニ病院ニ對スル動作如何

服 裝

答 假令敵味方ノ別チアルモ局外中立トシ之ニ向テ射撃ヲナス事ヲ禁スルハ勿論更ニ親切ヲ盡シテ之ヲ保護スベキモノデアリマス

問 患者救護ニ従事スル者ニハ如何

答 救護ニ従事ノ間ハ彼我共ニ之ヲ擒トスル事ハ出来ナイモノデアリマス

問 軍人傷ヲ受ケ或ハ病ニ罹リタルモノハ如何

答 敵味方ノ差別ナク其屬籍ノ何々國タルニ係ラス皆之ヲ助ケ救護スルモノデアリマス

問 赤十字條約ノ標章トスル旗及臂章ハ如何ナルモノカ

答 白地ニ赤十字ヲ畫ケルモノデアリマス

問 下士卒服裝ニ三種アリ其名稱如何

答 正裝 軍裝 略裝

問 正裝ハ如何ナルキニ用ヒルカ

答 概テ新年一月三大節新年宴會、紀元陸軍始、靖國神社大祭、觀兵式、又ハ儀仗ノ爲メ出場スルキ任官、叙位、叙勳、自家親族ノ賀儀葬祭ニ於テ着用スルモノデアリマス

問 正裝ノ時、背囊ニハ如何ナルモノヲ附スルカ

答 外套ヲ蹄鉄狀ニ附着シ携帯器具ヲ附ケマス

問 軍裝ハ如何ナルキニ用ヒルカ

答 概テ戰時出征、非常出兵、軍隊諸勤務、(風紀衛兵ヲ除ク)大小演習、廉アル野外演習、ノキニ用ヒルモノデアリマス

問 軍裝ノキ背囊ニ如何ナルモノヲ附スルカ

答 外套、飯盒、及豫備靴、ヲ附着シ携帯器具ヲ束裝シ時機ニ

依リ毛布ヲ附着スル事モアリマス

問 水筒ヲ携フルハ如何ナル服装ヲナスキカ

答 軍装ヲナスキデアリマス

問 戦時出征ノ時背囊入組品如何

答 軍隊手牒、村田連發銃彈藥三十發、全洗管一個、全禿一個、

全豫備器具一個、燕口袋（糸卷一、櫛一）、食盥箱共三日分、精袋

共二日分（六合）襦袢一枚、袴下一枚、靴下二足、此ノ外必要ノ

物品（紙、煙草、煙草入、手拭、齒磨、楊枝等ノ類）

問 公私ノ別ナク常ニ着用スル所ノ服装ハ何ナリヤ

答 略装

問 觀兵式其他儀式ノ場所及上官ノ居室内ニ在テ外套ヲ

着用スルヲ得ルカ

答 出來マセヌ

問 頤紐ハ如何ナルキニ用ユルカ

答 何レノ服装ヲ論セス隊伍ニ列シ或ハ銃ヲ携フルキハ

必ス之ヲ用ヒ其他ノ場合ハ各自ノ便宜ニ依ルモノデア

リマス併シ第一種帽ヲ冠ムルキハ如何ナル場合ヲ論セ

ス常ニ頤ニ掛クルモノデアリマス

問 禮式ハ人ニ對シテ行フ者カ官職ニ對シテ行フモノカ

答 官職ニ對シ行フ者デアリマス

問 軍人ノ敬禮ヲ行フヘキ場合ハ如何

答 何レノ時何レノ場合ヲ論セス上官ニ對シテハ必ス敬

禮ヲ行ヒ上官ハ之ニ答禮シ同級ハ互ニ敬禮ヲ交換スル

モノデアリマス

敬禮式

問 答禮ハ必ス定規ノ禮式ヲ行ハル、モノカ
答 略禮アリ假令ハ舉手注目又ハ刀禮ヲ單ニ注目ニ換ヘ
ルイモアリマス

問 禮式ハ定規ノ服裝ヲ爲ス人ニ行フヲ正例トス軍人單
獨ノ敬禮モ定制ノ服裝ヲナスキノミニ限ルカ

答 面識アル人ニ對シテハ其着服ノ如何ヲ論セス成ルヘ
ク之ヲ行フ者デアリマス

問 階級ノ異ナル上官二人以上ニ對シテノ敬禮法如何
答 其最高級ノ人ニ相當スル敬禮ヲ行ヒマス

(注意 先ツ高級ノ人ニ注目シ次ニ他ノ受禮者ニ注目スヘキモノトス)

問 海軍々人及和親諸國ノ陸海軍人軍隊ニハ如何ナル敬
禮ヲナスカ

答 我陸海軍々人軍隊ト同一ノ敬禮ヲ行ヒマス

問 準士官及見習士官ニ對スル敬禮如何

答 士官ト同一ノ敬禮ヲ行ヒマス

問 士官候補生及陸軍諸生徒ノ敬禮法如何

答 下士卒ノ法ト同ジデアリマス

問 上等兵ハ如何ナル敬禮ヲ受クルカ

答 下士ト同一ノ敬禮ヲ受ケマス

問 軍人ノ敬禮ハ場所ニ依テニ區別ス如何

答 室内ノ敬禮 室外ノ敬禮

問 室内トハ何處ヲ云フカ

答 居室、事務室、應接所等デアリマス

問 室外トハ何處ヲ云フカ

答 舍外、廊下、庖厨所、等デアリマス

問 室内ノ敬禮ニ於テ帽ヲ手ニ持タザルキハ如何ナスカ

答 敬スヘキ人ニ對シテ正面シ姿勢ヲ正シ其眼ニ注目シ

テ体ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケマス

問 室内ノ敬禮ニ於テ帽ヲ手ニ持ツキハ其保持法如何

答 右手ニテ其前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ帽ノ内部ヲ右

股ニ向ハセマス

問 室内ニ入ルキハ帽ヲ脱セステ可ナルカ

答 先ツ戶外ニ於テ帽ヲ脱シマス尤武器ヲ携フルキハ此

限デアリマセス

問 上官ノ居室ニ入ルキハ如何ナスカ

(注意 上官ノ室内ニ用事アリテ入ルキノ如シ)

答 上官ノ席ヲ去ルト凡ソ五六歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ行ヒ

マス若シ數名アルキハ其最高級ノ人ニ敬禮シ次ニ他ノ

一同ニ敬禮ヲ致シマス

問 右ノ場合ニテ上官ノ居室ヲ去ルキハ如何

答 敬禮ヲ行ヒシ後右轉回シテ其居室ヲ去リマス

問 室内ニ於テ執銃セサルキ上官ヨリ書類其他ノ物件ヲ

受クルキハ如何

答 上官ノ席ヲ去ルト凡五六歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ行ヒシ

后適宜ニ前進シ帽ヲ左脇ニ狹ミ右手ヲ以テ之ヲ受ケマ

ス若シ受クル所ノ者辭令書或ハ賞與狀等ニテ披見ヲ要

スルキハ其場ニ於テ披見シ然ル后舊位ニ復シ敬禮ヲ行

フテ退去スルモノデアリマス

問 室内ニ於テ執銃セサルキ上官ニ書類其他ノ物件ヲ呈
スルキハ如何スルカ

答 上官ノ席ヲ去ルト凡五六歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ行ヒシ
后適宜ニ前進シ帽ヲ左脇ニ狹ミ右手ヲ以テ差出シ然ル
后舊位ニ復シ敬禮ヲ行フノ后退去シマス若シ返簡又ハ
受領証ヲ受クヘキキハ舊位ニテ待ツテ居リマス

問 上ノ場合ニテ執銃サルキハ如何スルカ

答 上官ニ書類又ハ物件ヲ呈シ之ヲ受クルキハ左手ニテ
受ケマス又受クル所ノモノ辭令書又ハ賞與狀等ニテ披
見ヲ要スルキハ銃ハ建テ、体ニ托シ右臂ヲ以テ之ヲ支
ヘ右手ヲ副ヘテ披見致シマス其外執銃セサルキト同シ
デアリマス

問 室内ニ於テ上官ヨリ命令、諭告等ヲ承リ或ハ上官ニ陳
述ヲナスキハ如何

答 上官ノ席ヲ去ル事凡五六歩ノ所ニ於テ敬禮ヲ行フノ
后適宜ニ前進シテ之ヲ承リ或ハ陳述シテ舊位ニ復シ再
ヒ敬禮ヲ行フノ后其ノ場ヲ退去スルモノデアリマス尤
モ陳述ヲナスキハ活音ヲ以テシ且ツ單簡明瞭デナケレ
ハナリマセン

問 上官居室ニ來タルキハ如何

答 椅子ヲ離レテ立テ敬禮ヲ行フモノデアリマス而シテ
其關係アル本人ノ外傍ニ在テ事務ニ服スル者ハ一旦敬
禮ヲ行フノ后着席シ各其事ニ服シ上官居室ヲ去ルキ復
タ敬禮ヲ行フモノデアリマス

問 同級又ハ下級ノ者居室ニ來リ敬禮ヲ行フキハ如何ナ
スカ

答 一旦椅子腰掛ヲ離レテ敬禮シ下級ノ者ナレハ其儘答
禮シマス

問 軍人室内ニ於テ公事ヲ談スルキハ下級ノ者ハ如何ス
ルカ

答 椅子ヲ離レテ立テ姿勢ヲ正シク致シマス尤上官許可
スルキハ着席スルモ差支ハアリマセス

問 上長官以上居室ニ入り來ルキハ如何ナル敬禮スルカ

答 「列ニ」ノ令ニテ居室ニ現在スル者皆各自寢臺ノ右側ニ
立テ更ニ「直レ」ノ令ニテ姿勢ヲ正スモノデアリマス
問 士官居室ニ入り來ルキハ如何ナスカ

答 「直レ」ノ令ニテ其場ニ立テ姿勢ヲ正シマス

問 室内ニ於テ執銃シアルキ士官以上ニ敬禮法如何

答 棒銃

問 下士以下ニ如何スルカ

答 立銃シテ姿勢ヲ正シマス

問 室外ニテ執銃セサルキノ一般ノ敬禮法如何

答 舉手注目致シマス尤歩行中ノキハ准士官以上ニハ先

ツ停止シテ后敬禮シマス

問 凡テ敬禮ヲ行フ爲メ受禮者ニ對シ頭ト眼ノ作法如何

答 頭ヲ受禮者ノ方ニ向ケ其眼ニ注目致シマス

問 室外ノ敬禮ハ受禮者ト遠隔シタルキハ爲スニ及ハサ
ルカ

答 上官タルヲ識別スレハ假令遠クモ必ス敬禮ヲ行イマ
ス

問 停止シアルモ上官其傍ヲ通過スルモ如何スルカ

答 先ツ上官ノ方ニ面シ敬禮ヲ行ヒマス

問 停止シアル上官ノ許ニ至ルモ如何

答 上官ヲ去ル凡五六歩ノ所ニ於テ(停止シ)敬禮ヲ行イ
ス

問 途上ニ於テ行幸行啓ニ遇フモ如何

答 前驅ノ稍前ヨリ道路ノ一側ニ停止正而(乗車セル)下車(シ)車

駕六歩前ニ近ツクモ敬禮ヲ行ヒ六歩過キ去ル迄此姿勢

ヲ保チマス

問 執銃シアルモ兩陛下、軍旗、將校、及下士以下ニハ如何ナ

ル敬禮ヲナスカ

答 兩陛下、軍旗、將校ニハ棒銃、下士以下ニハ執銃ノ儘姿勢

ヲ正シマス

問 上官ノ引率スル軍隊ニ行遇ヒ又其傍ヲ通過スルモ

ノ敬禮法如何

答 其隊長ニノミ敬禮ヲ行ヒ其隊ニ注目致シマス

問 儀仗隊ノ現ニ儀仗服務中ノ者並ニ會葬ノ儀仗隊ニ對

シテハ如何

答 其隊長ニモ亦敬禮ヲ行ヒマス尤隊列ヲ解キ休憩シ

アルモ單獨ノ敬禮法ニ從ヒマス

問 軍人途上ニ於テ儀仗隊ヲ附シタル軍人ノ葬式ニ行遇

ヒ又其傍ヲ通過スルモ如何スルカ

答 等級ノ如何ヲ問ハス其柩ニ對シテ敬禮ヲ行ヒマス尤
死亡者己ヨリ上級名旗等ニヨナレハ死者ノ等級ニ應ス
ル敬禮ヲ行ヒマス

問 乗車ニテ上官ニ遇フルハ如何

答 下車シテ敬禮ヲ行ヒマス然レモ病氣等ニテ下車スル
ト出來ナイルカ又ハ下車スル暇ノナキルハ乗車ノ儘姿
勢ヲ正シ敬禮ヲ行ヒマシテモ差支ハアリマセヌ

問 其理由如何

答 下士兵卒ハ病氣又ハ遠路急行等已ムヲ得サルルカノ外
ハ猥リニ乗車スヘキモノテアリマセヌ故デアリマス

問 乗車ノ時上官ノ后方ヨリ來リテ先ニ行カントスルル
ハ如何スルカ

答 許可ヲ乞フテ然ル后通過スルモノデアリマス

問 室外ニテ上官ヨリ書類其他ノ物件ヲ受ケ或ハ之ヲ上

官ヲ呈スルル及上官ヨリ命令、諭告等ヲ承リ或ハ上官ニ
陳述ヲナスルノ動作ハ室内ニ於ケルト異ナルカ

答 大概異リマセヌ尤執銃セサルルハ帽ヲ脱シマセヌダ
ケ違ヒマス

問 上官ト同行スルルハ何レノ位地ニ在テ隨行スルカ

答 其左側或ハ后方ニ就クガ禮デアリマス尤誘導者ハ此
限リデアリマセヌ

問 軍旗及將校ニ行遇ヒ又ハ其傍ヲ通過スルルカノ敬禮法
如何

答 凡六歩前ヨリ姿勢ヲ正シ凡三步ノ所ニ於テ停止シ頭

ヲ少ク軍旗又ハ受禮者ノ方ニ向ケ敬禮ヲ行ヒマス尤軍旗ニハ上履ヲ附ケタルキハ此限デアリマセヌ

問 下士ニ行遇ヒ又ハ其傍ヲ通過スルキノ敬禮法如何

答 停止スルナク敬禮ヲ行ヒマス

問 物件ヲ提携シ右手ヲ舉クルト能ハサルキ若シクハ之ヲ擔荷シアルキ軍旗及受禮者ニ對シテハ敬禮スルカ

答 其儘停止シ頭ヲ少シク軍旗又ハ受禮者ノ方ニ向ケ注目シテ敬禮ノ意ヲ表シマス

問 下士ニハ如何スルカ

答 停止スルナク頭ヲ少シク受禮者ノ方ニ向ケ注目シテ敬禮ノ意ヲ表シマス

問 兵卒、將校ノ窓牕ヨリ外望シアル前ヲ通過スルキハ如何

何スルカ

答 敬禮ヲ行ヒシ後通過シマス

問 右ニ反シ兵卒窓牕ヨリ外望シアルキ將校其前ヲ通過スルキハ如何

答 必ス之ニ敬禮ヲ行ヒマス

明治廿九年十一月廿八日印刷
明治廿九年十一月 日發行

正價金拾八錢

陸軍御用圖書發行所

著作兼
發行者

佐藤幸作

印刷者

篠原卯三郎

發行所

書肆 靜

群馬縣群馬郡高崎町大字
連雀町五十一番地

發行所

書肆 東

東京神田區表神保町
三番地

印刷所

成 立 舍 支 店

群馬縣群馬郡高崎町大字
田町六十七番地



新編新刊書目

新編新刊書目

新編新刊書目

全一冊

第一編 定價金十八
第二編 以下續

陸軍部
海軍部
陸海軍及諸學校
陸軍部
海軍部
陸海軍及諸學校
陸軍部
海軍部
陸海軍及諸學校

全一冊 定價金

明治

廣活人

靜陵堂營業課目

- 軍用書籍地圖 ○手帳 ○筆 ○墨 ○紙 ○鉛筆 ○硯箱 ○硯石 ○圖板 ○方眼紙
- 米突尺 ○螺針 ○石版寫真版壽 ○鉛書 ○製筆用品 ○表具 ○金銀陶器木杯類
- 煙草 ○煙草人 ○寫真 ○寫真アツク ○洋製本 ○手拭 ○ハンケチ
- 各種紙 ○石版 ○石版名刺年始狀ほか其他ノ印刷 ○名刺 ○年始狀 ○手拭包紙 ○其他
- 軍用諸雜品除隊のみやけ ○年始年未ノ進物類各種

石版印刷部

(金邊、高崎、新町)

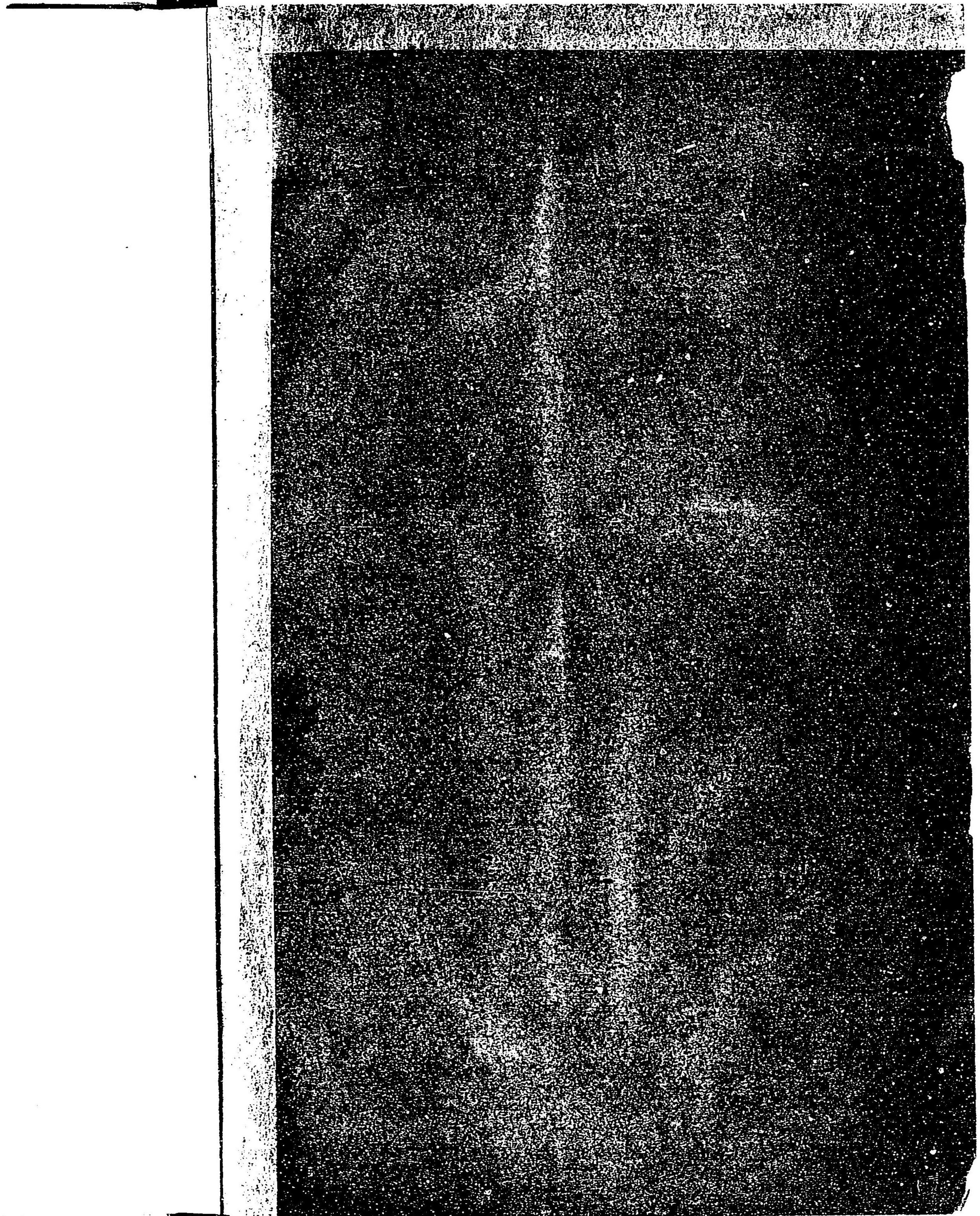
左邊、高崎、新町、急用品ニ付精々迅速ニ印刷製造可仕候

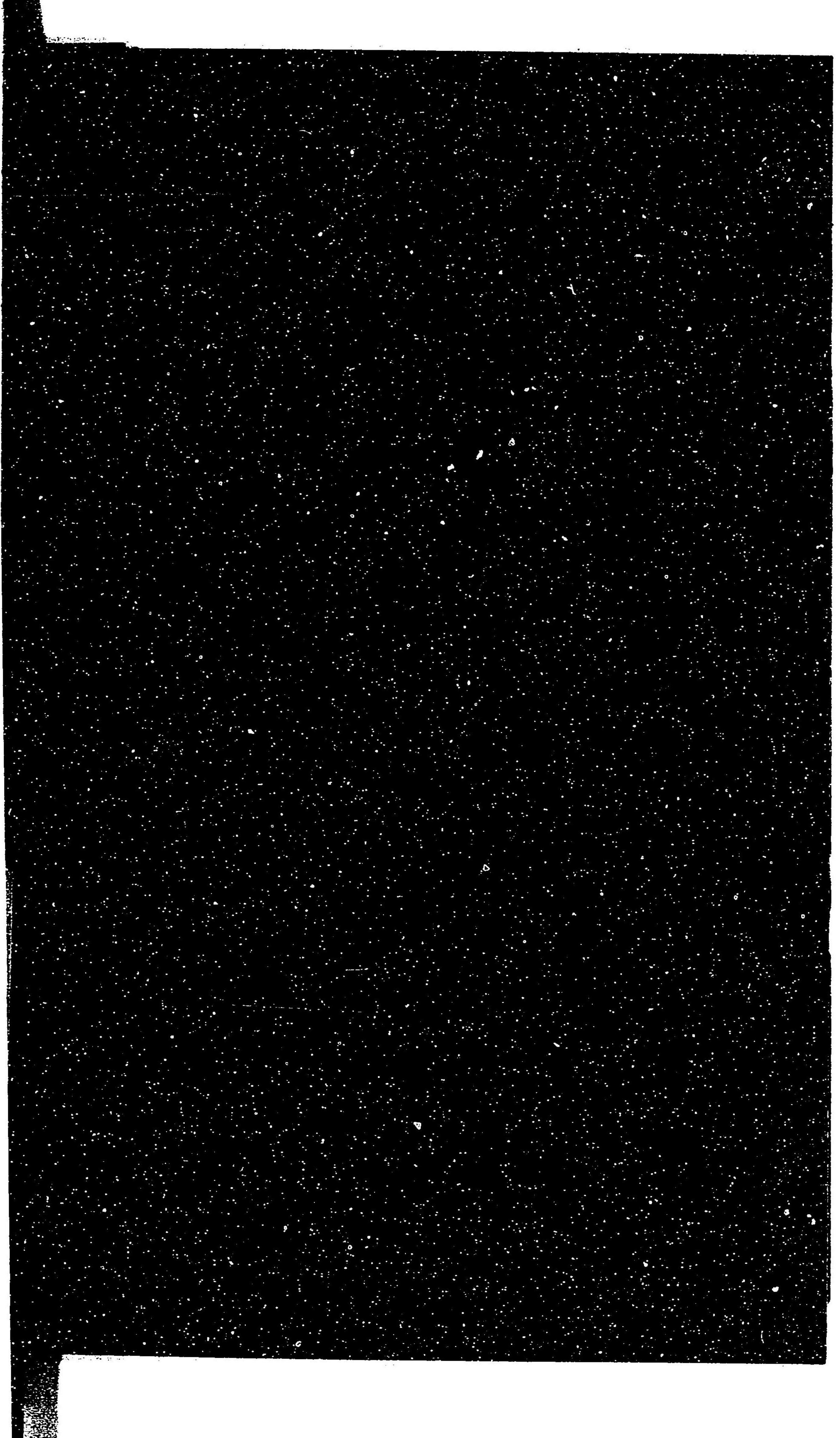
●名刺 ●年始狀及ほか ●中隊賞狀

追々名刺及年始狀ほかほかき層及其他優美ノ彫形印刷可仕候間御好ニシテ適宜調進可仕候

高崎、新町、南端

靜陵堂 佐藤 幸作





特17

243

軍事学教科書

1

国立国会図書館

051407-000-2

特17-243

軍事学教科書 第1編

佐藤 幸作 / 著

M29

BFB-0112

